

ガイア連合武器密輸課職員の日常

ブラウタス

【注意事項】

このPDFファイルは「ハーメルン」で掲載中の作品を自動的にPDF化したものです。

小説の作者、「ハーメルン」の運営者に無断でPDFファイル及び作品を引用の範囲を超える形で転載・改変・再配布・販売することを禁じます。

【あらすじ】

どくいも様のカオス転生ごちやまぜサマナー <https://osetu.org/novel/238682/>の三次創作です。

戦闘力ほぼない秘伝技要員系転生者の日常。

目次

密輸職員の平凡な日常	1
トラウマな笑い話 揭示版回	4
ボクらの街のトラポート屋さん	11
埋伏の兎	14
はたらく後輩下積み編	19
はたらく後輩泥酔編	24
護国のための生贄	27
メシア教式ペルソナ召喚術	31
モルモットの狂気	39
終末シエルターのテスター	45
成功率0%	51
夢と希望と絶望の塊	57
因幡法螺吹兎詐欺	65
ここまでの覚え書き	71
侵略性外来種と侵略性外宇宙神性とペルソナ使い	80
本物マスターと謎の式神S 揭示版回	86
ガイア式交渉術・力	94
命の洗濯	98
メシアンの聖戦 仁義なき接待費編	103
第三回アシタカ選抜人気投票	112
いじめるヤバイ黒札(やつ)	116
開催! 晩殻島ナワバリバトルシティ!	125
妊娠は女の子だけの特権じゃねえぜ	135
本土防衛作戦鑑賞会	140

密輸職員の平凡な日常

華々しい英雄の活躍の裏にもそれを支える多くの脇役がいる。これはそんなお話のひとつ。

ボクが所属しているガイア連合巖戸台支部武器密輸課のなんでもない日常だ。

「今回のブツだ。頼んだぞ」

「了解しました」

台車の上には大型の箱が6つ。今回の客はチームでまとめて武器を管理するつもりらしい。こちらとしては手間が省ける。

万が一に備えて式神を同行させ、スマホの地図に目的地を打ち込む。

重要なのは確信だ。できて当然、ここに行けるのは当たり前という確信がなければ移動魔法は難しい。

自分の顔を1枚はがすイメージをすることによってボクの異能は発動する。

「ペルソナ」

人間大のウサギが背後に現れ、魔法を発動させる。

『トラポート』

「ちわー。三河屋でーす」

「あらサブちゃん。いつもご苦労さま」

客と取り決めた符丁を交わしてから伝票にサインをもらおう。これで労働完了。実働1分の重労働であった。

「いやー助かるよ。いくらオレたちでも銃刀法には勝てんからねえ」

「コッソリ持つってって捕まったらコトですしね。徒歩ならともかく交通機関はやめときましょ」

今回の客のリーダーと雑談する。いくらガイア連合が地方の救世主と言われてても民間団体である以上堂々と武器を持ち歩けない。そこで創られた部署こそが武器密輸課である。他人に名刺渡すと通報されそうな部署名だがその場のノリとネタで動く頭ヒーホー族が多いのがオレたち。つまり転生者のガイア連合上層部だから仕方な

い。

「ではできれば帰りもご贔屓に。お客さんみたいになんと下準備してくれてるのは大歓迎ですよ」

ボクは転生者である。とはいえ特筆することもなく普通に高校を卒業し、実家を離れて磐戸台の大学に入学してキャンパスライフを楽しんでいたザ・一般人である。

ネットの掲示板でこの世界がメガテン時空であることを知り星霊神社のオフ会でペルソナ使いに覚醒した。

そこまでは順調だったのに覚醒したペルソナが完全に非戦闘型。戦闘中に使える魔法がトラフリーのみという悲しみ。ちなみにトラフリーは逃走魔法、トラポートは瞬間移動魔法。ざっくりピッピ人形とルーラをイメージしてもらえればあっている。

ポケモンで言えば秘伝技要員。それがボクのペルソナ『イナバシロウサギ』の評価だ。

とはいえ戦闘こそできないが便利は便利。霊地に今回のように武器を密輸したり救護班やシヨタオジのような人員を送り届けたりと悪くない働きをしていると自負している。ついでに給料のマツカも良い感じにもらえる。

「もうこんな時間か」

転生者スレを追い、たまに書き込んでいるともう日が変わる時間帯だ。ふと思いつき立ち、式神と連れ立って外に出る。頼れる式神のジョーズマンを伴えば危険もない。たまたまタイミングが合ったときには見物したくなる。

12時。マトモな時間は終わり『影時間』が始まる。世界はオドロオドロしく変貌し遠くに見える月光館学園が変形し魔の塔タルタロスへと変わる。

女神転生シリーズの姉妹作ペルソナシリーズ。外伝から派生したペルソナシリーズの3作目の舞台こそがこの巖戸台港区でありメインドンジョンがタルタロスである。

作中では人類滅亡を主人公たちがくい止めるためにタルタロスを登っていた。つまり放置すれば人類滅亡のトリガーになるかもしれ

ない。

「ガイア連合は『終末』を前提に活動しているが、それは人類滅亡と
||ではない。文明滅びるけど備えてしぶとく生きようぜ、が基本目標
だ。」

「戦闘力、欲しいなあ」

戦いは式神任せ。レベルアップしても速と幸ばかりが伸びてアイ
テム投げてても威力がでない。背が小さくて侮られがち。

ペルソナ『イナバシロウサギ』の便利な性能に助けられてはいるも
の、たまにコンプレックスがあふれでてしまうのだ。

タルタロスに単騎突撃するシルエツトを内心応援しながら『イナバ
シロウサギ』を出して背中を撫でる。

やべっ、ハム子ネキと眼があつたわ。

トラウマな笑い話 揭示版回

ルーキー時代の思い出を語るスレ part 223

170：名無しの転生者

というわけで俺の初恋は男だったんだよ。

男だったんですよ。ちくしょうめ

攻撃庇ったときいい匂いしたのに

171：名無しの転生者

悲惨だけど下心丸出しで同情できん

172：名無しの転生者

ちよつといいなと思った子がオレの式神（女タイプ）に惚れた話する？

173：名無しの転生者

まてまて話がズレてきた

174：名無しの転生者

>>>172

式神（犬型）が先に彼氏作ってた私より悲惨でワロタ

175：名無しの転生者

これは……どっちだ？

176：名無しの転生者

ジャツジー

177：名無しの転生者

これ以上掘り下げるとヤバいからヤメヤメ

178：名無しの転生者
では僭越ながら私が恋愛絡まない話でも

179：名無しの転生者
どうぞどうぞ

180：名無しの転生者
よし空気を変えるんだ

181：>>178
それはガイア連合が会社になる前、オフ会やって暫くたったあたり
のことでした。

覚醒するも攻撃スキルには目覚めず、悪魔やシャドウからコソコソ
逃げて過ごしていた日々。
そんなある日ある転生者からパワーレベリングの誘いを受けたの
です

182：名無しの転生者
ホントに初期の初期か

183：名無しの転生者
話からするとまだ式神がシヨタオジ製オンリーの時代ね

184：名無しの転生者
シャドウって事はペルソナ系か。珍しいな

185：名無しの転生者
パワーレベリングの誘いとかうらやま

186：>>178

>>183>>184 両方当たり

原作のダンジョンをチームで攻略してるから良ければ来ないかとのことでした。

彼女はコミュ力も高く本人のレベルも段違いに高かったです。

このまま怯えてくらすよりはと参加しました。原作のファンでありその場所に馴染み深かった事もガードを下げたのでしよう。

私が男で可愛い彼女への油断もなかったとは言い切れません。

こうして私は向かいました。

そう、タルタロス攻略に。

187：名無しの転生者

ん？

188：名無しの転生者

あれ？

189：>>>178

「現地集合ね」

その言葉に従い影時間にタルタロスの入口に向かうと彼女は外で待つててくれました。現地と言うからには他のメンバーは先にタルタロスに入っているのだろうとのんきに構えてました。

タルタロスの階段を登ると彼女は言いました

「よし、初めての2人チーム。がんばろうね」

他のメンバーなど最初からいませんでした

190：名無しの転生者

意味がわかると怖い話かな

191：名無しの転生者

チーム（ネキひとり）

192：名無しの転生者

嘘は言っていないな。ホントのことを話していないだけで

193：名無しの転生者

個人名出してないのに特定できすぎる

194：>>178

今だからわかることですが、この世界のタルタロスの敵の湧き方がおかしいんですよ。

異界での敵の湧き方って狩りゲーとかMMOに近いじゃないですか。

敵を探して狩って回復して探索。

タルタロスだけ敵の湧き方がEDFなんですよ。四方八方からワラワラ攻め込んでくるのをネキが最効率で潰し続ける。

俺？ 悲鳴あげて命乞いしながら生き残るのに必死でしたがなにか

195：名無しの転生者

完全に巻き込まれててワロタ

196：名無しの転生者

敵を探す必要すらないのか

197：名無しの転生者

>>>194

何か既視感あると思ったらEDFか

198：名無しの転生者

ひとりだけ無双ゲーから来たのかな

199：>>178

「嫌だ死にたくなーい！死にたくなーい！」

「許して！お願い許して！」

「ボクをたすけて」

「地返し玉があるからって死んでいいわけじゃないんですよ」

「当たってる！ボクも巻き込んで！」

「ヤバいの来てるってヤバいやばい！えっ、ひと当てしてトラフリーで撒けて」

「ボクは死んでるぞ」

思い出せる限りの当時の私の発言です

200：名無しの転生者

ん？今何でもするって

201：名無しの転生者

活きのいい死んだふりだな

202：名無しの転生者

タルタロスって階層に長居すると死神が襲ってくるんだっけ

203：名無しの転生者

ボクっ娘だったのか

204：名無しの転生者

まだ悲鳴をあげる余裕があるなヨシツ！

205：名無しの転生者

>>204

どうして…どうして…

206：>>178

>>203 ボクっ子やぞ

かろうじて生き残ったしレベルも上がったけどもう絶対にタルタ

ロスにいつたりなんてしない！

207：名無しの転生者
即落ちかな

208：名無しの転生者
乙

覚醒修行とどっちがヤバいんだろ

209：名無しの転生者
乙

210：>>178

>>208 比べれないのよね。

あっさり覚醒できたから覚醒修行してない
ヤバいとは聞いている

211：名無しの転生者
は？

212：名無しの転生者
おう同情した俺の気持ち返せや

213：名無しの転生者
もう一度言ってみて○

214：>>178

神社に足を踏み入れた瞬間にスルツとペルソナ出てきた。

わけもわからずペルソナと顔を合わせてたらシヨタオジが「お、覚
醒できたね☆」と説明してくれた

215 : 名無しの転生者
コイツ吊るそうぜ

216 : 名無しの転生者
オレハクサマラムツコロス！

217 : 名無しの転生者
一気に流れが変わったな

218 : 名無しの転生者
>>178
ちよつと正面見えてみて

219 : 名無しの転生者
どうした

220 : 名無しの転生者
正面？ 呪い？

221 : >>218
当方>>178のリア友。支部のカフェでスマホ打ってた>>178の前にコッソリ件のネキが相席。
>>178がフェロモンコーヒーの毒霧。ネキがスルリと躲しつ
つ一滴だけ制服について(たぶんわざと)>>178真っ青。ザマア

222 : 名無しの転生者
よし悪は滅びた

223 : 名無しの転生者
やったぜ

ボクらの街のトラポート屋さん

磐戸台支部はガイア連合としては規模の大きくない支部だ。タルタロスの抑えとして置かれている面が強い。当然磐戸台支部の密輸サービスの受注はそんなに多くはない。最近では密輸サービスの受注がオンライン化クエスト化された事により他の支部の仕事を受けられるようになった。直接山梨支部を訪ねて仕事を貰いに行つてた時代が嘘のようである。地道に改善アンケートに答えていた甲斐があった。

「今日はどのクエも微妙だな」

始業1時間で磐戸台支部での密輸を完了して他支部のクエスト一覧をひらいた感想だ。今日は簡単すぎたり面倒な顧客だったりするクエストが多い。

トラポートの性能は個人差が大きい。ボクのペルソナのトラポートは制約がほぼないタイプ。自分十手荷物程度しか跳べない、距離の制約が大きい、整備された霊地間でしか安定しないといった人もいる。戦闘力が高くオマケでパーティをトラポートできるという例も多い。基本的に戦闘力とサポート系魔法の性能を両立させるのは難しいようだ。シヨタオジ？ バグは統計から外すべきだと思うんだ。

できるからと言って何も考えずに他の支部の仕事をホイホイ受けてと恨まれるらしい。受付のお姉さんにやんわりと釘を刺された。

密輸業は微妙、レベル上げも今から他のメンバーを誘う事を考えると微妙。今日はおとなしくマツカを稼ぐか。受付に営業許可を貰いに行く。

「トラポート。トラポートはいかがつすか」

『今なら1パーティ当日往復100マツカ』と描かれたスケッチブックを置いた机とパイプ椅子による簡単すぎる出店。わざと『200マツカ』の上にバツマークをつけるのがコツである。値引きされる感を出すのは重要よ。

「イナバニキ何やってんすか?」

「トラポート屋」

転生者仲間の後輩、弓道ニキから声をかけられる。かつて弓道を半年やったことがあるというコメントしづらい腕前の持ち主だ。今では矢が複雑な軌道を描いて飛ぶようになった。

「レクリエーションなり装備購入なりで山梨支部に行きたいって人って結構いるんだよ。普通の移動だと時間かかるし」

「せっかくだらなく温泉も入りたいっすからね。往復の手間暇考えると泊まりじゃないと向こうでゆっくりできないっすね」

「そこでこのトラポート屋さ。行きたい支部を指定して100マツカ払うだけですぐ行けるうえ帰りも電話一本で送迎よ」

「イナバニキなんかのゲームのNPCみたいっすよ」

磐戸台支部も頑張っているものの設備や娯楽においては山梨支部が1番である。最新式の技術も大抵の場合は山梨支部で実験される。転生者なら一度は行くべき場所だ。田舎の少年少女が東京に憧れるようなものである。

ちなみに半日時間が空いたから山梨支部で温泉浸かってガイアカレー食べてきたなどと言うと仲間にスネを蹴られる危険があるので注意が必要である。ボクの実体験だ。

単に興味から話しかけてきた弓道ニキと別れ、トラポート屋を続ける。山梨支部以外にも「近くの支部に跳べるなら」と普段受けない仕事を受ける人も現れて商売繁盛である。

「到着しました。帰りはこの割符の裏の番号に連絡してください」
「ウィッス。アリガトね」

10グループ目の客を山梨支部に届ける。あまり調子に乗って客を取ると帰りにごたつくのでこれでトラポート屋を撤収する。山梨支部をぶらつきながら客の連絡待ちの時間だ。

連絡待ちの関係上集中力が必要な作業だったりギャンブルや時間を食う温泉は避けねばならない。食堂でガイアカレーを食べてゆっくりくつろぐ。弓道ニキに「ガイアカレーおいしいです」と画像付きで送ったら殺意に満ちたスタンプが返ってきた。君がスレで裏切ったのが悪いのだよ。

時間が余っているので普段行かないスレも巡回していく。ガイア

連合においては情報収集は生命線だ。無知なウサギはタルタロスに呑まれる。今考えた言葉だ。

式神改良スレにてペルソナ持ち式神が実験段階まで行ったらしい。うまいこといけばアイギスも実用化されるかもしれない。影時間対応型式神という点においてはボクのジョーズマンの後継機にあたるのかな？

アイギスがハム子ネキの仲間になればボクが勧誘されることもなくなるだろう。よし、勝ったなこれは。ふっふっふ。

埋伏の兎

まるで嵐が過ぎた後のようにまばらになったシャドウが各々本能に従って蠢いている。布がめくれないように注意しながらその合間を縫ってカサコソと階段を目指す。通りすがりのシャドウですよー。ちよつと通りますよ。

エストマも効かないくらいレベル差のある相手なのでシャドウに気づかれた瞬間即座にタルタロスから逃げて依頼終了である。バッグに入れてある一反木綿型レンタル式神『身代わりくん』が頼りだ。どうしてこうなったか。それは今日の昼頃まで遡る。

「イナバニキちよつといいかな？」

「タルタロスへの誘い以外ならどうぞ」

カフェで他の支部の配達クエストを漁っているとハム子ネキから声がかかった。タルタロスや戦闘関連以外では良い先輩なのだ。実はボクより年下だけど。

「アイギス制作の目処がたつたって話は聞いた？」

「式神スレで書かれてたくらいなら」

「なら話早いね。そのデータ取りもあつて昨日影時間対応型式神を貸出されてね」

キミはもうタルタロス来なくていいよ。そんな話だろう。やったね。今日の昼飯はチャーシューをトッピングしても良いかもしれない。

「それが何もしていないのに壊れちゃってね」

「何やってんすかアンタ」

何もしていないのに壊れたほど信頼できない言葉はない。ハム子ネキのスマホへの式神制作班からの連絡には『修理不能』の文字。ホント何やらかしたんですか。

「耐久テストとか言つて殴りかかったりはしてないですよね？」

「一緒にタルタロスに行っただけだよ。攻撃に巻き込んだりもしてないし、ペルソナ能力がない以外は一級品でシャドウの群れを単独で倒

せるくらいだったよ」

だから私は無実です。そんな態度をとるハム子ネキ。でも壊したんですよね？ 問うときさすがに視線を逸らす。

「代わりの式神を借りたけど次はないって怒られちゃってね」

タハハと笑うその面の厚さに戦慄する。戦闘用式神を壊すなんて事態は聞いたことがない。改めて上位陣は規格外なんだと実感する。嫌な予感がするので今回の要件は愚痴ってことでもう行っただいいですか？ ダメ？

「変なことしてないって証明しなきゃ貸さないって言われちゃってね。シヨタオジに相談したらイナバニキに同行、観測してもらう案を出してくれてね」

「あ、すみません。急な仕事が入っちゃったんで抜けますね〜」

「大丈夫！ 絶対痛くしないから！ 大丈夫信じて！」

「嫌だっ！ そうやって騙そうとしてくるんだっ！」

やっぱり碌でもない話だったじゃないか。こんな場所にいられるかっ！ ボクは帰らせてもらおうぞ！

「うーん残念。せっかくジョーズマンの『竜巻』を強化できる『衝撃高揚』のスキルカード用意したのになー」

えっ、マジで!?

「依頼報酬に用意したけどいらなら売っちゃおうかなー。そこそこ人気のスキルカードだから売ったらすぐに買い手がついて流れるんだらうなー」

ぐ、ぬう、落ち着け。そんなエサに釣られ

『十三日式チェーンソー』も一緒につける予定だったんだけど」

「ペルソナ使いは助け合いですよね。もちろん協力しますよ」

こんな人の欲をエサにした非道な策略によってタルタロスにやってくることになったのだ。サメには竜巻とチェーンソー。古事記にもそう書いてある。

さすがに無策で入るのではなく、シャドウ素材で織られた布とナビゲート用タブレットを借りてきてくれていた。元々ペルソナを使っ

たナビゲートはマヨナカテレビでも使われており、探知系スキル（今回は『警戒』スキル）を応用することで式神が持つビーコンの周囲を観測できることはすでに実験されている。『イナバシロウサギ』では3階ほどで圏外になるので実用的ではないと見送られていた。やってみて原作の風花のナビ能力のおかしさを実感した。何でエントランスから200階以上の高層へクリアに映像が届くのか。

シャドウ素材の布を被ってシャドウに擬態すれば襲われないことも確認済だ。ただし少しでも殺気を出したりペルソナを使ったり声を出したり他のシャドウにぶつかれば即座にバレる。普段はシャドウが多すぎてマトモに動けないので誰かが殲滅してから湧き直すまでの時間しか使えない手だ。

よって今回の作戦はこうだ。

1. ハム子ネキとデータ取り用式神が先行して暴れる
2. 階段をのぼった辺りでボクがシャドウ素材の布を被ってスニーキング。階段前の比較的安全な地帯でタブレットを使用。ハム子ネキと式神を観測する

3. 通信はできないので各々の判断で帰還

4. 万が一敵とぶつかった場合は『身代わりくん』を盾に『トラフリー』からの『トラエスト』で脱出

5. 入って即帰還の場合は報酬もなし。ちっ

いつでも階段に行ける位置だったのでタブレットに目を向ける。相変わらず無双ゲームのようなシャドウの襲撃とそれに対処するハム子ネキとそれに肩を並べて戦う式神。想像していたよりも式神の能力は高く、ハム子ネキも上手い連携をとれないまでも式神を攻撃に巻き込むような真似はしていない。今のところ順調だろう。

一度壊したこともあってか式神を意識しながらの動きだったハム子ネキが慣れてきて式神に背中を任せ始めた。ここで遠くから鎖の音が聞こえてきたので階段をのぼる。

次のフロアではシャドウが大分復活しており、階段まで行けそうにない。先に進むことは諦め、シャドウが寄りつきにくい高台に登り可能な限り観測してから帰還することに決める。

シャドウ相手に無双する1人と1機。変わらぬ暴れっぷりのハム子ネキに対して式神の動きが精彩を欠きはじめ、細かい被弾と無視できるレベルの連携ミスが増えてきた辺りで圏外となる。

『トラエスト』

エントランスをぐるぐると歩き回って時間を潰す。動物園において無限の暇を潰し続ける動物たちから学んだ由緒正しき時間潰しである。ついでにペルソナ3でベルベットルームや隠しダンジョンの入口のあった場所を探ってみるも何も見つからない。ボクがワイルドじゃないからか。影時間も終わる時間によろやくハム子ネキが帰ってきた。

「おかしい。なんにもしてないのに壊れちゃった」

「しってた」

後日今回の件の動画と私見をレポートにして提出するとシヨタオジに呼ばれたので応じる。本人ではなく分身式神だ。

「やあイナバニキ。昨日貰ったレポートでちよつと聞きたいことがあつてね」

レポートは要約すると「マトモに作るとハム子ネキの継戦能力についていけないのでまずは銃撃による援護をメインにすべし。テスト用よりレベルを低くしてもいいのでまずは生存。相手の攻撃を誘い込む戦法を活用するので主をかばおうとする式神のロボット三原則は緩めないと連携が厳しい。あとは容姿に全力でかかるべし」「精神を汚染するシャドウの攻撃と生まれたての式神のコアとの相性悪し。破壊直後にリカム使わないと手遅れになる可能性高い。戦闘に出す前にコミュや汎用スキルカードで魂を馴染ませればワンチャンあるかも」である。

「うん、タブレットで録画したデータを解析した式神制作班もだいたい同じ見解になったよ。容姿の部分以外ね。あれなんだい？」

「ああ、あれはハム子ネキの嗜好からの意見ですね。こう、美少女相手の方が『守護らねば』となるタイプですよ」

彼女にとっての庇護対象として成長していかねければ過酷なタルタロスでは長続きしないだろう。『頑丈で放置しても戦える式神』で

はなく『美少女後輩式神アイギス(偽)』として認識されれば生存の目
が大きくなる。生存して経験値を蓄積すればやがて対等な相棒に進
化することもできるだろう。

「もうひとつ聞いておきたいんだけど、ハムネキへの謀殺とか考えて
ないんだよね？」

「？ 言われたことがわからず戸惑っている」とシヨタオジが解説し
てくれた。

「相棒となる式神を性能ではなく見た目を重視させ、戦闘をツートツ
プからワントップに変更。主をかばう基本設定をイジる。戦場の不
幸を誘発させる下準備かな。」

「ついでに昔タルタロスに騙されて連れて行かれた動機までついて
る」

「違うんです刑事さん。あの子が、あの子が悪いんです」

「よし話は署で聞こう」

茶番が終わるとシヨタオジがただの紙にもどる。単に刑事ごっこ
しかかっただけかな。覚醒修行経験者には反発されるかザツに扱わ
れるかなのでたまには普通の反応が欲しいらしい。

後日「アイギス(偽)の護衛付きのタルタロスが君を待ってるよ」と
いうスパムが飛んできた。

「行けたら行くわ」とだけ返しておいた。

はたらく後輩下積み編

大狗型悪魔の爪をジョーズマンがチェーンソーで受け止める。その脇から弓道ニキの『連続撃ち』が決まり悪魔を怯ませる。

「うっし。追撃つすよ後輩ちゃん」

『マカカジャ』よし。頼んだよ」

「やっちまっつてくたせえ」

「いきますよ！ 『アギ』！」

男3人からの声援を受けながら『マカカジャ』で火力の上だった火炎魔法が少女から放たれる。倒しきれずに悪魔が襲いかかってくるが全身鎧少女式神の鉄塊ちゃんと犬型式神のイヌヌワンによって再び足止めされる。

「もう一発！ もう一発！」

「落ち着いて狙って。あせらないで」

「かつとばせー、後輩！」

「先輩たちうるさいです。『アギ』！」

2撃目できっちり倒しきる。弓道ニキとカジャ盛り親父ニキがワツシヨイワツシヨイと後輩ちゃんを褒めている。『警戒』によって周囲に敵影が無いことを確認しながらボクも後輩ちゃんを褒め倒す。あ、申し遅れました。今回は武器密輸課の後輩ちゃんをレベリングに連れ回す話です。

ガイア連合武器密輸課の仕事は直接武器や人材を輸送するだけではない。職員の魔法使用回数の上昇、移動魔法の性能改善、トラブル時の生存能力確保のためレベリングが推奨されている。キチンと申請すれば本人だけでなくパーティメンバーにも報奨金が出るくらいにはレベリング環境が整っているのだ。今回のパーティメンバーの弓道ニキとカジャ盛り親父ニキはレベリングサポートの常連の大ベテランである。

「どうすか。パーティとの連携攻撃で魔法の当てやすさはだいぶ変わるんすよ」

「はい。すくく当てやすいです」

「強化魔法の重要性はわかってくれたかな？ 他の人たちとパーティーを組むときはどんなバフデバフを持つてるかを把握してから動くようにね」

「ありがとうございます。威力が全然違うんですね。強化魔法の有無でかなり戦法が変わってきますよ」

「応援の重要性はわかってくれたかな？」

「いえ、それは別に」

ヨシツ！ 先輩の意見に流されずちゃんと自分で考えてるな。もちろん応援だけしていたのはボクである。アイテムを消耗するほどの狩り場ではないし後輩ちゃんの魔法の練習も兼ねたレベリングなので本当にやることがない。『警戒』も探知能力のあるイヌ又ワンと被ってる。攻撃しようかと聞くと「何もしないという仕事もあるんですよ」「ジョーズマンだけ前衛に置いて暇潰してて」「先輩って戦えるんですか？」というありがたい言葉を頂いた。泣きたい。

何事もなく何戦か終わり、次で昼飯前最終戦。カジャ盛り親父ニキの腰の回復のために小休憩中。親父を名乗るだけあつて腰に爆弾を抱えた歳なのである。

「先輩たちって何でなんたらニキとかネキとかで呼び合ってるんですか？」

「ボクらは元がネット上の繋がりだからねえ。オフ会のノリでハンドルネームみたいな名前を使いたいのよ。あと本名隠しの呪い避け」

「半分くらいネットゲ感覚で集まってる感じっすよ。後輩ちゃんも多分そのうち何かのきっかけで名前がつけられると思うっす」

スレでコテハン使ってない場合はその場のノリや特徴から周りが命名したりする。覚醒してレベリングするような人たちは大抵変人なので命名理由には困らない。

ちなみにボクはイナバニキと呼ばれてはいるが名字が稲葉でも名前が正男でもない。そういやこの世界にはマークくんいるんだろうか。今のシステムならパワータイプのペルソナ使いとして活躍できそうなんだが。

「ふう、もう大丈夫。新人教育最後のいつものをやろうか」

「じゃあ今回は弓道ニキとカジヤ盛り親父ニキが伏せ担当でいきましよう」

逃走というのは基本的に緊急時に行われるものであり、訓練されていないと判断力が落ちやすい。特に悪魔相手の場合は飛行能力や遠距離攻撃魔法など注意すべき点が多くなる。転生者は基本的に才能の塊なので力押しになりがちで逃げる選択肢が選ばれにくい。いざ逃げるときには相応の強敵が相手なので不慣れな逃げ方では狩られてしまう。よって初心者の中に逃走に慣らしておくといざというとき役に立つ。

「というわけだ。追いつかれないようにがんばろう」

「悪魔のグループを挑発して逃げる前に説明すべきじゃないんですかねえ！」

後輩ちゃんとボクでペアを組んで手頃な悪魔を引っ掛けて逃走中である。噛んだチューインソウルを投げつけて笑うだけで釣れるとはチョロいもんよ。

ちなみに逃げ始めてから説明するのも新人教育の恒例なのでボクは悪くない。

「ああもう、『アギ』！」

「いいぞ！ 相手に気持ちよく追わせない事の重要性をもう理解してるんだな！」

牽制しながら行きで通った道を逆走する。逃走時に知らない道を選ぶのは道の把握に判断力を奪われるので悪手。袋小路に着く可能性もあるので、避けるべきだ。

後輩ちゃんを誘導しながら最終コーナーの大外をまわる。コーナーの先で待ち伏せしていたメンバー(弓道ニキ、イヌヌワン、ジョーズマン)の『五月雨うち』『放電』『竜巻』によつて追手は一掃される。おつかれさまー。

「迂闊に敵を深追いするところなるから敵を追うときには気をつけるんすよ」

「それじゃお昼食べに帰ろうか」

後輩ちゃんからのへんじがない。ただのしかばねのようだ。いや会話できないくらい息が乱れているだけなんだけどね。

磐戸台支部の食堂にて午前中の反省会がてら昼食。トラポット持ちなので気軽に支部に行き来できるのが嬉しいところ。

「午前中レベル上げおつかれさまでした」

「「おつかれさまです」」

「後輩ちゃんは特に大きな問題点は無かったから普通にレベル上げてけば普通に強い移動砲台型後衛になりそうだね」

「まずは装備と式神を揃えるためのマツカ稼ぎからつすね」

「武器密輸課は経験値は稼ぎにくいけどマツカは稼ぎやすいから、まずは地道な密輸かな」

「頑張ります」

彼女は戦闘力が高いぶんトラポットの性能はあまり高くなかった。しばらくは磐戸台支部での仕事は後輩ちゃんにまわして他の支部の仕事をあさるとしよう。

そんな予定をたててると話は式神についてに移った。

「式神はこだわりがなければ女性型がオススメだね。他より装備が良すぎる。中にはあえて男性型にして女性用装備をさせようとする人もいるけど」

「うーん、でもみなさんの式神で女性型って鉄塊ちゃんだけですよね？」

「それぞれそれなりの理由があるからね」

ボクの式神『ジョーズマン』がサメ人間。カジヤ盛り親父ニキの式神『イヌヌワン』が犬。弓道ニキの式神『鉄塊ちゃん』が全身鎧の少女。鉄塊ちゃんもゴツイ全身鎧なので女性型の恩恵があるかと言われれば微妙なところである。

「さすがに妻と娘のいる身で女性型式神は家庭崩壊の危機だよ。後輩ちゃんと同じくらいの年頃のJKだから君のお父さんが突然美少女を家に連れ込むのを想像してみしてほしい」

「間違いなくアウトですね」

「影時間対応かつ戦闘力だけ要望でしたらサメ人間が届いた。コイツ

のサメ部分はアストラル体だから非覚醒者には見えなくて奥の人間が見えるらしいよ」

「適当な要望じゃ駄目ってことですね」

「美少女がゴツゴツの鎧を着てるのが最高に好きだからっすね」

「澄んだ瞳で言い切りましたね」

一応『萌え』ではなく『燃え』らしいので許してやってほしい。

「あとは後輩ちゃん的能力とどう組み合わせるのかな。前衛を任せるかダブル後衛で他のパーティに前衛を任せるかとかね」

『アギ』系以外だと何覚えてるんすか？」

確認してみると『アギ』『マハラギ』『トラポート』『不屈の闘志』を持っていた。うちのウサギにも見習ってほしい戦闘力である。後輩はボクを超えたんだ。

「実はかなり昔の先祖の縁でエジプトのフェニックス様から加護を頂いてるんですよ」

「へえー、フェニックスとは有名なところから加護貰ったんだねえ」

フェニックスと言えばかなりの大御所だ。燃える不死の鳥として鳳凰や朱雀、火の鳥という有名どころの派生を生み出した大元。日本においても「不死鳥のごとく蘇った」という表現はサブカル文化だけでなくスポーツでも使われるくらい有名だ。下手な日本神より知名度補正がありそうな強力な悪魔である。強い。

「フェニックス様に恥じないようにがんばりますよ！」

はたらく後輩泥酔編

後輩ちゃんは瓶を大きく傾けて飲み干し、乱暴に床に置くと同時に深いため息をつく。目は獲物を捉えた肉食動物のようにすわりきつており、対して身体は脱力しきつた状態で床に投げ出されている。どう見ても酔っぱらいです。本当にありがとうございました。

これが自宅ならばそっとしておくのだがここはガイア連合支部の通路である。自販機からマッスルドリンコだけが売り切れている。彼女の周囲に転がっている空き瓶を見るにここで飲み干してしまったのだろう。心底関わりたくないでござる。

遠巻きにこちらを覗くギャラリーに淡い期待を込めて視線を送る。お前からここでいいところ見せれば彼女ができるチャンスだぞ。

全員に目を逸らされる。ふあつきゅー。だがボク自身も知り合い相手でなければこんな酔っぱらいに関わろうとはしないだろう。

「どうしてこうなっちゃったんですかね」

コチラを認識したのか彼女の言葉が漏れる。彼女の現状を伝えるには少々長くなる。

・メシア教がエジプトに攻め込んできて多神連合と合戦。余波でエジプトが酷いことに。

・キレたエジプト神話系神々が無差別にミイラ化呪詛を撒き散らす。一時的に盛り返すも多神連合が撤退。

・単独になったエジプト神話、奮戦虚しくメシア教に敗走。一部のガイア連合に頼った生き残り以外は魔界に撤退する。

そしてガイア連合を頼った神も大変らしい。新天地に神殿を建設したり信仰の地盤を作ったり生き残った信者を何とか食わせたりとてんてこ舞いである。食料などの配送を手伝ったがあれは厳しい。

生き残った中に後輩ちゃんに加護を与えたフェニックスもおり、日本での知名度の高さを活かしてカツカツの状況を切り盛りしていたものの無理がたたってダウンしている。ダウンした結果、後輩ちゃんに与えられた加護が使用不能になってしまったそうだ。

ある程度地力があれば加護なしでも大丈夫かもしれないが、後輩

ちゃんは最近覚醒したばかりのうえ覚醒直後から加護を貰ったので加護なしの状況になれていない。現状後輩ちゃんが使えるスキルは『アギ』オンリーである。

頑張つて積み上げてきた物が崩れたのである。やけっぱちになつても不思議はない。ボクの隣のモーさんに視線を送つてみる。式神とはいえ一応女性型なので頼れるかもしれない。

「あー、なんだ。運が悪かったと思つて諦めな」

モーさんの言葉にもぬるりと眼球を動かすだけである。ダメじゃん。そう思つたとき、霊視ニキが自販機でイワクラの水を買い、瓶の首をねじ切つて後輩ちゃんに差し出す。

「全部メシア教が悪い。ともに天使どもをブツ殺そう！」

脱力していた後輩ちゃんの腕がイワクラの水をがしりと掴んだ。

「ご迷惑をおかけしました」

通路を片付け終え、カフェに場を移してから後輩ちゃんは改めて謝罪する。結局ボクは何もしてないけどな。

「もう飲み過ぎはだめだよ？ マッスルドリンコに年齢制限はないけど身体に良いとは言えないからね」

「すみません先輩。式神作成スレで気合い入れる時は魔剤を飲んでからと書いてあつたもので」

女子高生の彼女にとつての魔剤はマッスルドリンコなのね。式神作成スレを漁るようになったキツカケがレベリングの反省会だったので強くは言えない。

マッスルドリンコで『happy』を引いて浮かれたままマッスルドリンコを買い占めてあのザマだったらしい。強制的に幸せになる『happy』が切れる時に喪失感が激しいらしいので下手な麻薬よりたちが悪いかもしれない。

「でもおかげで目が覚めました。がんばってレベルを上げて天使たちを焼き殺してフェニックス様に捧げようと思います」

澄んだ瞳で物騒な事を言う。あらやだこの子つたら想像よりはるかに過激な信者。どうすんだこれ。

話を聞いていた霊視ニキが立ち上がる。

「今からなら暇がある。手頃な異界でレベリングするぞ」

「はいっ！ よろしくおねがいます！」

反メシア教として波長が合ったのかな。ふたりが店を出るのを見送る。

「ウサギ野郎も当然行くんだよね？」

モーさんに首を掴まれて連行される。ペルソナがウサギなのであってボク自身はウサギではないことを主張したい。霊視ニキとモーさんという強力なコンビと組めるのはありがたいけどメシア教天使ブチ殺し派という熱には巻き込まれたくないというお気持ち。

後輩ちゃんが『トラポート』を使えなくなった以上、武器密輸課としてのバックアップは出来なくなる。だが弓道ニキやバフ盛り親父ニキなら声をかければレベリングを手伝ってくれるだろう。

後に霊視ニキが「ウチの若いもんは血の気が多い」と言うほどに過激派反メシア教過激派として名を上げる後輩ちゃんこと不死鳥推しネキ。彼女がまだ大人しかった頃の話である。

護国のための生贄

追跡していた目標が裏路地に入ったのを確認。ペルソナを呼び出して強く踏み出す。

我はイナバシロウサギ。イナバシロウサギは我。

ペルソナを展開中のペルソナ使いは現実の物理法則の他にペルソナ側の『集合的無意識』としての物理法則を利用することができる。ペルソナ使いのちよつとした裏ワザだ。

集合的無意識の物理法則は一言で言えば『夢の世界の物理法則』だ。空を自由に飛ぶ。風より音より速く走る。海の中で呼吸する。どれも夢の中でできることを否定するものはいない。

だからこうして目にも留まらぬ速さで目標の頭上を跳び越してから90度垂直に音もなく着地することもできる。着地してから自分の踏み出し音が聞こえた。

あくまでも夢の中の法則で動けるだけで、これ自体に周囲への影響力はない。光速の速さで殴りつけてもその速さが威力に乗ることはないし、今のように音を超えた速度で動いてもソニックブームが発生することもない。今回はちよつとした示威行為だ。相手が理解できない強さだとわかつてもらえればスムーズに話が進む。

「散歩の時間は終わりですぞ、根願寺の術者殿」

サングラスと黒スーツの帝愛スタイルの今回のボクの仕事は護衛だっったりする。

レベル上げ、マツカ稼ぎの狩り場を求めて日本各地に勢力を広げ、地方の救世主とも呼ばれるガイア連合。彼らの最大の悩みはマッドサイエンティストよりたちの悪い倫理観と狂犬のようにあちこちに喧嘩を売りに行く闘争心を持ったメシア教過激派である。

まずは自分たちの足場の安全を確保しておきたい。最低でもテロつてくるような奴らは水際で追い返すか監視の鈴を付けておきたい。ガイア連合内部で空港などの施設への防衛結界の施術などが検討され始めたが、ここで1つの問題が発生した。

ガイア連合は日本の経済と裏社会を牛耳る暗黒メガコープではあ

るものあくまでも民間企業団体である。発生した異界への対処などならともかく、国の重要施設に対して口だしできるような権限は持っていないのである。

無許可でコッソリ設置する案も出たが、どんな術式でも許可の有無で性能は大きく変わる。密輸時の契約書を甘く見たせいで契約式神にボコボコにされる小悪党を見てきたボクが保証しよう。本来なら余裕で倒せるレベルの式神相手でも契約違反時に処罰される許可を本人が出してる状況ではアッサリやられる。オカルトにおいて本人の許可とはそれほど大きな影響力があるのだ。

ここにメシア教日本支部が協力を申し出たものの、メシア教が影響力を持つのはアメリカがメインであり日本政府への過干渉は別の問題が発生する。

それでもなおガイア連合が慣れない政治力を使いメシア教日本支部と共同の防衛事業を得たところに救世主が現れる。日本政府からの正式なオカルト組織にして代理人の『根願寺』からの使者である。ガイア連合はガッツポーズをした。

殴り込……積極的な話し合いに来た根願寺の使者たちをハメ……丁寧に説得し、納得して協力していただけるようにガイア連合は本気を出した。暴力で解決するような沙汰にならなかつたのは幸運と言える。

許可が降りず動けない状況で溜め込んだ日本防衛計画。それ以外にも国の許可がなければ政治的に動けないようなあれやこれやの計画。それを纏めて許可してくれる代理人が現れたのだ。カモが鍋とネギを背負って訪ねてきたと言ってもいい。

許可さえ降りれば始動する計画の山。だからといって立場上「良きに計らえ」で精査せず判子を押しわけにもいかないのが根願寺である。半端にオカルト技術と立場があるからこそその苦しみだ。

自分たちより遥かに進んだオカルト技術を無理矢理覚え、自分たちで使えないまでも原理や不審な点がないかをチェックする。大体のところはガイア連合にハメられた形ではあるが、それでも何とか噛み砕いて理解しようとする姿勢は個人的に評価する。相手のレベルだ

け見て虎の威で馬鹿にする掲示版の未覚醒者よりは好感を持てる。

だから今回担当した根願寺の術者がトイレの窓から脱そ……気分転換の散歩に出られた際にある程度泳がせたのである。葛葉キヨウジの部下というだけで超絶ブラック事業につかされた三十代前半のオッサンへの同情とも言える。だがあまり長々と出歩かれるとこの後のスケジュールが厳しくなってしまう。ここらが回収時だ。

「ただいまー。根願寺の術者殿がお帰りになられたぞー」

とても素直に散歩を終えてくださった術者殿をガイア連合の技術者に引き渡す。遅れを取り戻すために頑張っていたきたい。

「でも無理に理解しようとしなくてもいいんですよ？ 資料は渡しませし問い合わせには必ず応えるので根願寺の本部に丸投げすればここまで苦労しなくて済みますよ」

「ふん。これは護国のための結界と計画なのだろう。無責任なことなどできるものか」

脱そ……散歩のおかげでメンタルが回復している。しばらくは大丈夫だろう。

無知、無力、無能と散々な根願寺ではあるがその護国精神は本物だ。色々と足りない原因も人材不足が原因なので、だいたいは戦後のメシア教による霊能力者粛清のせいである。ホントあいつら大半の問題の元凶だな。

「あら、戻られましたか。おつかれさまですいなバさん」

術者殿がドナドナされていくのを見送っていると同年代の女性から声がかかり、思わず顔をしかめる。大半の問題の元凶ことメシア教日本支部から出向してきた女性だ。

「そんな顔しなくてもいいじゃないですか。同じペルソナ使いなんだから仲良くしましょうよ。」

メシア教だと他にペルソナ使いがいなくて寂しかったんですよ」
「ペルソナ使いなのはいいんですけどねえ」

あまりにも自分の手札を明け透けに見せてきて胡散臭い。初対面で「メシア教日本支部のペルソナ使いです。『シャーロック・ホームズ』のペルソナで水撃属性吸収なのでよろしく」と自己紹介されたら

誰だって逆に警戒すると思う。

「いやいや、裏も表もないので安心してくださいよ。わたしはメシア教日本支部の一般的な信者のサンプルとして出向してきたんですよ。日曜は昼まで二度寝する程度の信仰なんです。ペルソナに目覚めたときに駆け込んだのがメシア教の教会だったってだけです。」

お盆には帰省して寺で墓参りしてますしクリスマスには自宅でソシャゲのイベント周回で忙しいライト層です」

日本支部に熱心な信者なんて少数ですよと続けるシャーロックさん。日本人なんだからわりとゆるい信仰でもおかしくはないか。

それはそれとしてシャーロックさんの存在は磐戸代支部の女性陣には隠しておくべきだな。シャーロックさんの身の安全のために。

不死鳥推しネキによって丸焼きにされてしまうのはさすがに可哀そうだ。最近は女性型式神の『もこたん』による『火炎ガードキル』で火炎魔法を通すゴリ押しスタイルになってきた。この後輩、頼もしいけど怖い。

ハム子ネキについては言うまでもない。「ペルソナ使いというだけで十分だよ」とタルタロスに連れ込まれてしまう。前に同行した際にぶっ壊れた式神の姿を想うと紹介するのは酷だろう。最近はアイギス（偽）が仲間になったとはいえ現地民をブチ込んで大丈夫かと言われるとNOだ。

「イナバさんの近所にペルソナ使い専用のダンジョンがあるんですけど。良いですねえ。慣れないからかペルソナを多用すると頭が痛むんですけど、安定して挑めるダンジョンがあるならペルソナを鍛えられそうです。」

わたしも近くに引越そうかなあ」

ヤメロオ！ 命は投げ捨てるものじゃないんだ！

ハニトラ以前の問題として必死に説得する。仮にも同年代の女性と連絡先を交換したのにカケラも嬉しくない。

メシア教式ペルソナ召喚術

少々時が流れ、ガイア連合内でのメシア教への認識は『メシア教日本支部』『海外のメシア教』に分裂していた。そして後者に関して是不倶戴天の敵だが前者に対しては「コイツら普通の日本人じゃね」「油断はできないけど思ってたよりシヨボい」となり始めた。

メシア教日本支部のノーガード戦法が功を奏したと言っている。内情について問い合わせればだいたい直球で返ってくるので日本支部の実態をガイア連合が把握するのは容易かった。

探りを入れた以上、妨害や怪しいとする根拠が無ければシロだと言わなければならない。「調査してみた結果、よくわかりませんでした。チャンネル登録お願いします」という文言はメシア教以上の敵である。もちろん個人で日本支部を怪しむのは勝手だ。

戦後に日本支部を主導していた過激派勢力はオカルト的に虫の息だった日本を離れ、海外へと戦場を移した。極東の僻地で国民の宗教観が特殊でほぼ鎮圧済の地に長居するメリットが薄かったのだ。まさかその後アホみたいに才能を持った連中があちこちに生まれてガイア連合という一大勢力になるとは夢にも思ってたなかつたろう。

残された勢力はやる気の薄い天使と単なる日本人と一部のテンプレルナイトである。張り切っている一部を除けば宗教団体というより霊能互助団体としての色が強い。

能力としては他の地方有力霊能団体より少し上程度でしかないが、他の団体との最大の違いはその政治的立ち位置だ。中身が外に出た後とはいえメシア教。元々いた天使の残した封印へ干渉する正当な権利やアメリカ本国のメシア教との交渉権など、ガイア連合が今後必要になる権利を売り込むことで連合の傘下ではなく同盟者として振る舞うことに成功した。

タイミング的にも完璧だったのは見事としか言いようがない。遅ければガイア連合と根願寺の繋がりが直通になり今の立ち位置にはいられないし、早ければ持ち味をアピールする前にガイア連合への借りが大きくなり他の団体と同じ立ち位置まで埋没してしまっていた

だろう。

ガイア連合の転生者たちの話題がメシア教日本支部から自衛隊の迂闊で残念な転生者によるやらかしへと移り変わった頃、ペルソナ使い内でメシア教のペルソナ使いとの合同レベリング企画が立ち上がった。

ペルソナ使いは常に人手不足だ。他の覚醒者も手が余ってるとは言えない状況だが、ペルソナ使い内でしか戦力の融通が利かないという点で他より深刻だと言える。クソ雑魚筆頭のスライムニキが前線に出るのを止めきれない人手不足ぶりである。

式神による戦力かさ増しも影時間やメメントスに対応できる特殊仕様にする必要がある事からあまり有効ではない。メティス(偽)がまだハム子ネキに届いてないあたりからも察してほしい。

そんな状況なので使えるものは選り好みせずを使う。メシア教日本支部という少々出処の怪しいペルソナ使いではあるが遊ばせておく余裕なんぞないのだ。最低限どれくらい戦力になるかを把握しておく必要がある。

というわけで現地民ペルソナ使いの混世魔王くんとシャーロツクさん、ついでに顔見知りのボクが合同でチームを組みマヨナカテレビへ挑むことになったのだ。

「というわけで今日はよろしくねリーダー。コレが怪しい動きをしたらシバいていい許可は得てきた」

「いくらなんでも扱いヒドくないですか?」

「一番立場の低い俺に言われても」

混世魔王くんとそのチームメイト4人(1名ナビゲーター)、シャーロツクさん(片眼鏡)、ボク(サングラス)とジョーズマンと新戦力の一反木綿型式神『スタンド』くん。戦力としては充実してる。記録用撮影ドローンと共にマヨナカテレビを進む。

一反木綿型式神は戦闘力と携帯性と飛行能力がある代わりに思考能力が低いタフガイだ。うまく運用するにはRPGのごとくいちいち命令しなければいけないので使い勝手が悪いとよく言われる。あ

とダサイ。

しかし戦闘中に手が余っている奴がいるなら話は別である。もちろんボクのことだ。毎回大声をだすのも大変そうなのでボタンを押す組み合わせで『前衛を庇え』『敵に攻撃しろ』『戻ってこい』と指示できる片手用コントローラーを作ってもらった。周囲に敵影無しならボクのもとに自動的に帰還する。

スキルもあえて攻撃スキルを持たせず、体力増強と耐性付与のパッシブスキルで固めてある。殴られたときに自動的に殴り返す『反撃』スキルも持たせてあるので戦線維持能力が高く仕上がったと自負している。今回はこの子の実戦テストも兼ねている。

第一敵影発見。まずはシャーロックさんのペルソナを使わせてみる。

「では見ててくださいいね」

敵に鋭く踏み込む

「ペ」

踏み込みで生まれた力を腰、肩と流れるように運ぶ

「ル」

アロワナが獲物に食いつくが如く高く美しく拳が弧を描く

「ソ」

そして自らのこめかみに拳が鋭く突き刺さる

「ナアッ!!」

パキインと碎ける音とともにシャーロックさんの上半身が大きく揺らぎペルソナ『シャーロック・ホームズ』が背後に現れる。

『ソニックパンチ』

シャドウにホームズパンチが突き刺さり消滅させる。うん。

「どうでしたかわたしのペルソナ」

「撤退でいいかなリーダー」

「はい撤退で」

無の表情になった混世魔王くんは撤退の指示を出してもらおう。たぶんボクも同じ表情してる。

「そんな!?! わたしまだいけますよっ..」

うるせえそんな事はふらついた足元をどうにかしてから言え。お前にシャーロック・ホームズは贅沢すぎる。ロックで十分だ。

ペルソナ3でのペルソナ召喚は死の気配のする召喚機の引き金を自ら引く事で死に立ち向かう精神を見せてペルソナを呼び出す方法だ。

それをメシア教が聞きかじって何とか形にしたのが今の『殺意全開で自らに拳を突き立てつつ絶対に死なないという覚悟で踏みとどまる』珍妙な儀式なんだろう。メシア教（というか元の一神教）が自害をタブーとした宗教なのも関係してるかもしれない。

「結局どうしましょうね。今日は解散しときますか？」

「ちよい待って。上に相談してみる」

変人に巻き込まれたリーダーと裏ジュネスの拠点で相談する。他のメンバーはロックの状態を診ている。パンチドランカーになりそうなペルソナ召喚だ。

ドローンにスマホを繋いでメシア教式ペルソナ召喚術の動画を切り抜く。ついでにその後にはスロー再生したものと「閲覧注意」を貼りシヨタオジのスマホに送信する。

神主：お茶吹いた

神主：なにこれ

ウサギ：メシア教のペルソナ召喚ですよ

ウサギ：さすがにアレなんで古い召喚補助具買ってあげていいですかね

神主：おけ

神主：カード式の型落ちなら仙台に在庫あるみたい。話は通しとくね

ウサギ：あざす

「というわけでちよつと仙台行ってくる。30分くらいで戻るから時間潰しといてね。ついでに買ってくるものとかあるかな？」

「ちよつと何言ってるかわかんないですね」

トラポート使えば仙台支部なんて近所よ。購入手続きのほうが面

倒かもしれない。

カード式ペルソナ召喚補助具はマヨナカテレビ式、つまりペルソナ4のペルソナ召喚をもとに作られたサポートツールだ。ペルソナ4では自分の手に生み出したカードを握り潰す事でペルソナ召喚する。そのカードを生み出す工程をあらかじめ作ってあるカードで代用するのだ。ちなみに握り潰したカードは再生する。

ペルソナ召喚の補助具としては一番クセがなく、バージョンアップによって精神負担軽減などの恩恵がある一方でバージョンアップのたびに買い換える必要があるので金食い虫でもある。

「ペルソナ出しても頭が痛まないんですが、何かのチートですかコレ」
「あんなやり方ならそりゃ頭も痛むでしょうね」

現在の隊列は剣撃主体の混世魔王くんとかくとうタイプのロックと一反木綿型式神スタンドくんが前衛、ジョーズマンと混世魔王くんのチームメンバーが後衛。最後方、ポツンとひとりイナバシロウサギとなっておりませう。

サボってるわけではなくバックアタックへの警戒である。『警戒』スキル持ちで、攻撃性能はともかく回避と防御ならそれなりにできるので時間稼ぎくらいならできる。

『後方にシャドウ1体発見。接近してきます』
「おっと、了解。足止めに向かいます。雑魚だからゆっくり来ていいよ」

「了解です。なんならそちらで倒しちやってもいいですよ」
「たおす？ たおす倒すたおす。」

言われたことがすぐに理解できず頭で反すうする。そういや右手に握ったこの短刀、敵を斬るための物だったな。ほぼ防御用でたまに隙をつくるために投げてたので忘れていた。

いつからだろう。切れ味より頑丈さを優先し始めたのは。いつからだろう。敵を斬ることなくシヨンボリすることすらなくなっただのは。

ヨシッ。やってやる。

気合をいれて斬りつける。シャドウに微量のダメージを与える。

反撃を危なげなく避ける。敵の攻撃に当たる気はしないがこっちの攻撃も相当シヨボい。チクチクやってやるわ。

「あの一。もうそろそろ手出ししていいですかね」

「ゴメンもうちよつと！ あと5発、いや6発で終わるから！」

申し訳無さそうに混世魔王くんが聞いてくるが、ここまできたら自力で倒したい。すまないがもうちよい待ってほしい。短刀を握り直す。

ふよふよとスタンドくんがボクのもとにやってくる。向こうの戦闘が終わって一定時間無指示だったから持ち主に帰還してきたようだ。かまってる暇はない。

「あつ」

シャドウの攻撃がスタンドくんに向かう。

『反撃』

ゴシヤリと強力な一撃をおみまいされシャドウが散っていく。

「あああああああああ!!」

「あの一、少し相談いいですかね？」

悲しみながらもレベリングを続け、一時休憩中に混世魔王くんから声をかけられた。慰めならいらぬよ。

相談内容を要約すると「身元保証人のスライムニキがクソ雑魚すぎて心配。何かあれば自分の保証も切れるし、前線から遠ざけれませんかね」である。ペルソナ使いならみんな一度は思うことだ。

外部に開かれたとはいえガイア連合は基本的に転生者のための組織だ。そのサービスを十全に受けるためには転生者か転生者の身元保証が必要になる。混世魔王くん本人の属性はともかくペルソナがダークカオス系のパーティなのでスライムニキからの保証は文字通り生命線だろう。

スライムニキは人望があり社会人スキルのバカ高い男だが欠点が2つある。クソ弱いこととそれなのに前線に出たがることである。

「まあ、手はないことはないね」

「ホントですか？」

「うん。キミがマヨナカテレビを解決すれば何とかなるはず」

現在ペルソナ使いはメメントス、マヨナカテレビ、タルタロス、某邪神と四正面作戦であたっている。あとは非戦闘員とその戦場からのドロップアウト組だ。タルタロスと某邪神はそれぞれ個人で担当してるので戦力の大半はメメントスとマヨナカテレビである。

どちらかを解決した場合、いくらかの戦力以外はもう片方にまわされる。そうなれば戦力に余裕ができるとともに上から指揮する人間が必要になってくるだろう。いわばペルソナ使いの総大将だ。

メメントスを担当している承太郎ニキはそういつた調整は向いてないのでスライムニキがその地位に就くことになる。承太郎ニキからの支持があれば確実だ。

総大将に就いてしまえばその仕事で追われ、前線に出る余裕はなくなるだろう。つまりマヨナカテレビを解決すればスライムニキを後方に引っ込めさせられる。

「マヨナカテレビを解決って言われても」

「黒幕のアタリをつけてくれればペルソナ使い上層部で踏み潰せるから頑張ってね」

一応ボクも（タルタロス以外から）応援要請があれば（タルタロス以外なら）優先的に受けるようにしてる（タルタロスを除く）のでサポートくらいはする（タルタロスだけは勘弁な）。

スライム：おつです。うちの子たちどうでした

ウサギ：おつです。いい子達でしたよ

ウサギ：メシア教のについてはレポートあげときました

スライム：この方式のペルソナ召喚でうちのペルソナのパワーアップワンチャン？

ウサギ：ないね。ぶっちゃけタルタロス式の下位互換

スライム：ω・ω・ω

ウサギ：パワーアップと言えば小耳に挟んだんですが

ウサギ：『デモニカ』がもうすぐロールアウトだそうですよ

スライム：おお、デモニカと言えばストレンジジャーニーの

ウサギ：そう。スーパーなパワードスーツです
ウサギ：しかも今回はシヨタオジも一枚噛んでる代物
スライム：デモニカということは本来は未覚醒者向け
スライム：つまりそんなにお高くないはず
スライム：来ちゃうかな。とうとうオレ t u e e できる時代が
ウサギ：へっへっへ。いやまだ実物見ないことにはね
スライム：ハツハツハ。ちと気が早すぎたかな

その後。紹介されたデモニカのクソ雑魚仕様に嘆き、それでも注文しようとページを覗くと書いてある「タルタロス、マヨナカテレビ、メントス未対応」の文字。

知ってる！ これ中に式神使ってるからそれを特殊仕様にしな
といけないやつだ！

ウサギ：飲もう

スライム：飲もう

そういうことになった。

期待を裏切られたクソ雑魚ペルソナ同盟はオールで飲み続け、同居人の惚気や戦力の愚痴を吐きながらへべれけになり、朝方に潰れかけの状態ですライムニキを送り届けてスライムニキの同居人たちに睨まれることになる。お高めの寿司を土産に包んでもらったのでそれで許してほしい。

モルモツトの狂気

それは何気ない会話から始まった。

ウサギ：そっちはチームって式神制作のツテあるの？

混世↑魔王：ないですね。式神購入するお金がそもそも無いです。

ウサギ：式神技術の応用で作られたアイテムもあるから早めに動いたほうがいいよ

ウサギ：マヨナカテレビだと特殊仕様にしないと動かないしね

混世↑魔王：マジですか。

ウサギ：ペルソナ、シャドウに詳しい技術者は少ないよ

ウサギ：なんならボクの行きつけを紹介しようか

混世↑魔王：おねがいます。

ウサギ：じゃあ明日の夕方にとっちの支部に迎えに行くよ

ウサギ：混世魔王くん一人ね。複数で動くとき付かれるリスクが高い

混世↑魔王：夕方ですね。気付かれるって誰にですか？

ウサギ：うちの支部のヌシに

『トラポート』

「さて、ようこそ巖戸台支部へ。受付に話を通してくるね」

他の支部の人間がうろついて問題があるわけではないが、彼はペルソナ使いだ。あの御方に気付かれないように動く必要がある。周囲の警戒を不死鳥推しネキに任せて動く。

受付のカジャ盛り親父ニキに話しかける。腰の爆弾の関係で事務や受付にまわることもある男だ。穏やかなのでわりと評判がいい。

「この少年、これ関係なんだけど今日はいないはずだよね？」

空中に指でPを描く。カジャ盛り親父ニキが混世魔王くんを見る目に憐れみが混じる。

「そうか。強く生きてほしい。なるべく人通りの多い通路を通るんだよ。

あの人はいないはずだけど、気まぐれに遊びに来る可能性もあるから手早くね」

カジヤ盛り親父ニキの発言に混世魔王くんは困惑する。

「よっぽど危険な人物でもいるんですか？」

「普通なら危険性は高くないけど、君にとっては最悪の相手がいてね」
手帳を一枚ちぎり、イナバシロウサギの右前足を押し付ける。

『マップー』

巖戸台支部の簡易マップが印刷されたので混世魔王くんに渡す。
被捕食者の立場で逃走ルートを把握してないとか死亡フラグだから
ね。

「いいんですか先輩？」

「いいんだよ。案内掲示板レベルの地図だし」

「マップーってそんな印刷魔法でしたっけ？ 周辺を把握できる魔法
だったような」

「できる気がしたからできた。ペルソナ使いなんてそんなもんだよ」

「あんまり先輩を参考にしちやダメですよ」

「わかりました」

ひどい言い草である。「マップーを出力できたら便利そう。イケる
気がする」で実行しただけなのに。

話しながらも警戒しつつ支部内を歩く。後方を不死鳥推しネキに
任せられるので多少の余裕はある。『警戒』スキルは敵意も殺意もな
い味方相手だと効果が弱まるので不死鳥推しネキに頼めてよかった。

「出会わないのが一番だけど、出会ったらなるべく刺激しないように
ゆっくりと離れるようにね。」

死んだふりは効果無かった。首を掴まれてそのまま連れて行かれ
てしまうからね」

「この支部にはヒグマでもいるんですか」

ヒグマならまだ対処できたんだけどねえ。死んだふりした時は大
変だった。ドアを開ける時の一瞬のかすかな緩みがなければそのま
まタルタロスに運ばれていた。

「式神技術者ってそこまで危険を侵さないと会えないものなんです
か？」

「いや？ 普通ならそんなに難しくないよ。私の式神は他で頼んだ

し」

「ペルソナ使いの特殊環境だからね。」

ペルソナ使いで生産研究職を目指す変人か、ペルソナ使いじゃないのにペルソナとシャドウを研究する変人に頼まなきゃいけないんだよ。そんな奴はガイア連合でも少ないからね」

「やあやあイナバニキ。我々の研究室へようこそ」

「やあタキオン。モルモットニキは居るかい？ 一応連絡は入れたいんだけど」

「モルモットくんなら紅茶を淹れているところだとも。我々が迎えな」と研究室に入りたくいだろう？」

白衣を着たウマ耳の式神少女が出迎える。促されて中に入るとテーブルに人数分の紅茶を用意する白衣の男がいる。

「では紹介しよう。モルモットニキ、彼が例の少年。頼ってきたら応じてやってほしい。」

混世魔王くん、この白衣の男がモルモットニキ。ペルソナ使いじゃないのにシャドウ研究をしている変人だ」

「なるほどキミが。よろしく頼むよ」

「あ、はい、よろしくおねがいします」

モルモットニキはなかなかの狂人だ。

彼がモルモットを自称した際、多くの転生者たちが自分こそがモルモットくんだと名乗りを上げたのだが『身体が蛍光色に発光する飲み薬』をモルモットニキが開発し躊躇なく飲み干して発光したことによって彼こそがモルモットだと認められたのだ。

掻い摘んで説明すると混世魔王くんは頭を抱えてしまった。この世界にウマ娘ないし訳わからんよな。

ちなみにウマ娘がない理由としてはボクらの世界とは競馬の勝敗が変わってしまったからだ。シンボリルドルフに凱旋門賞を取らせた転生者、怒らないから名乗り出なさい。

それ以外にも競馬の流れがシツチャカメツチャカになった。この世界のアイドルホースと言えば『オグリキャップ』『ハルウララ』『ハ

リボテエレジー』である。この世界は狂ってる。

なおそんな状況でも有馬記念を3年連続3着というオンリーワンな記録を打ち立てた馬もいて転生者を戦慄させた。やっぱスゲェよ
ナイスネイチャは。

一応の配慮ということでもルモットニキの式神はアグネスを付けないただのタキオンである。

「変人が、変人が多い……」

「ある程度の実力があると変人が多くなるからね」

「変人だから実力があるのか、実力があるから変人なのか。我々としても興味深いねえ」

「たしかに」

混世魔王くんはボクと不死鳥推しネキを見て何故か納得をする。ホラ、フェニックスの神話的考察同人本なんて初対面で渡したもんだから不死鳥推しネキが変人だってバレてるじゃない。

「混世魔王くんは自分の性能限界の向こう側を見てみたことはないかい？ 我々の研究成果を使えば性能の向上を見込めるんだが」

「流石に『それ』やると発狂しかねないから止めるよ。ちゃんと帰さないとスライムニキに叱られる」

「そいつは残念」

「我々としては協力してほしいんだがねえ」

「かなりライトに発狂させられかけましたか俺？」

とりあえず概要だけ伝えておくか。

「耳を澄ませる時に目をつぶる。集中していると周りの音が聞こえない。誰でもやることだよね。」

ルモットニキはこれを感じ器の性能に人間の脳の処理能力が追いついてないと考えたんだ。目をつぶったところで本来は耳の性能が上がるはずがないしね」

「というわけで我々は特別製式神とリンクして脳の処理を肩代わりさせる事で感覚器の得た情報をダイレクトに扱う事に成功した。」

本来は無意識の違和感という形でしか受け取れない微妙な変化などを無駄なく得ることが出来るわけだ」

「元が自我のない式神とリンクしたから人格もコピーされたのは我々としても予想外だったよ」

つまりこのタキオンは「モルモットニキのコピーが式神の身体を得たからアグネスタキオンのコスとムーブをしてるだけ」である。名前からアグネスを抜いたのはこれが原因でもある。

「つまりもし俺がそれをやると」

「別の身体から自分の姿を見続ける事になるね。シャドウと違ってワザワザ醜い面を見せてこないけど消えたりもしない。

一般的には仲良くなるか殺し合うかアイデンティティ崩壊するかだね」

「絶対にやめときます」

その状況を便利だと感じるのはモルモットニキとシヨタオジくらいだと思う。

「ただいまー」

「おかえり。とはいえ先輩が彼を送迎に出てから2分たつてないですが」

「トラポート持ちつてそんなもんよ」

紹介もしたし、もしボクやスライムニキに何かあった時に頼むと伝えたので長居させずに混世魔王くんを帰したのだ。ハム子ネキなら第六感でペルソナ使いを察知してくる可能性を捨てきれなかったし。「しかし先輩。やけにあの人の世話を焼きますね。何を企んでるんです?」

「フッフッフ。もちろんただの親切ではないとも」

登る塔のあるタルタロスと違ってマヨナカテレビやメモントスの解決は現地での調査やヒラメキなので、ある日突然解決の目処が立つ可能性がある。

もしマヨナカテレビが解決したら混世魔王くんたちはどうする?」

そのままマヨナカテレビに残るのは戦力の無駄だ。ガイア連合の支援も切れるのでこれは選ばないだろう。

よって東京のメモントス攻略に行くかここ磐戸台のタルタロス攻

略に来るかだ。

「知らない場所に拠点を移すのに行つたことのある場所に拠点を移すのなら、大体の人は知つてる場所に来るでしょ」

そうなればタルタロス攻略の第二陣として挑むことになる。タルタロスに挑む以上、ハムネキの強引な勧誘にも怯えなくて済むだろう。

「そうなればタルタロス攻略の仲間の世話で手一杯で、戦闘能力のない一般通過兎を無理矢理タルタロスに連れて行くこともなくなるでしょ」

取らぬ狸の皮算用だが実際にマヨナカテレビ解決してからでは遅いので布石は打っておくわけだ。手間もないし。

「でも先輩。彼らはパーティそのまま来るんですよね」

「そりや向こうでトラブル無ければそのままだろうね」

「同じ場所の下層でリア充パーティが攻略するのをハムネキが見たら、先輩の首を掴んでも連れて行こうとするんじゃないですか？

ハムネキのパーティは式神ですし」

.....あつ。

片や人間同士のパーティ、片や自分以外式神のパーティ。これはいかん。

混世魔王くん。いや、混世魔王さま。高レベルで頑丈だけど自分のパーティだと人数が多すぎる感じのメンバーを上手いこと勧誘してからマヨナカテレビを解決してくださいませ。

ほら、ゲームでも仲間が増えるとエントランスの待機チームとかいたじゃん？ あんな感じでじゃんじゃん勧誘してから来てほしい。

終末シエルターのテスター

いつだって私は怯えていた。

どれほどのお金を貯め、どれほどの人たちと交流し、どれほどの優れた能力を持つとも死んでしまえば無となる。それを私は体験として知っている。

ガイア連合に入り、死んだほうがマシと言える覚醒修行を修めてもなお私は自分の死が怖い。修行で自分の死と向き合った結果悪化した気もする。

この先にある破滅に対処するためには異界で悪魔狩りをして力を得る必要があると頭ではわかっている。だが、もしもその途中で死んでしまえば同じ事ではないかと理由をつけて動かないままにいる。

暗い部屋で自らの火炎魔法『アギ』で火をつけたロウソクを膝を抱えたままぼんやり眺める。せっかく修行で得た力もこんな使い方しかできていない自分が嫌になる。

わかっている。私はただ自分の死の恐怖を忘れるだけの『なにか』を持っていないだけだ。

メシア教への復讐で異界に挑む男がいる。友人を護りたいと武器をとった女がいる。モテたいというだけで悪魔を狩る男がいる。金のために、式神を得るために、人生をエンジョイしたいために戦う彼らがいる。私は彼らのようにはなれていない。

自分を育ててくれていた両親への愛情も、学校で笑い合う友達への友愛も、私が奮い立つ理由にはならなかった。

「やあ、こんばんは人の子よ」

ロウソクの火から小さな火の鳥が現れる。悪魔？

「警戒しなくていいよ。遠い昔に僕を崇めてくれていた子の縁で君の火に繋がったようだ。今日は満月だからね」

穏やかに語る小さな火の鳥に悪意は感じない。

「僕の名はフェニックス。こんな姿でできるのは人生相談くらいだね。何か困ったこととかあるかな？」

私の人生にようやく火が灯った気がした。

という話だったんだけど、キミのキャラ違わない？

「そりゃマジで今オレっちの身体死んでっからね。電話繋がってよそ行きにピシツとしてる時と作ってもらった火山に身体放り込んでる時のその場のノリで話してるマジヤバなオレっちを同じにしてもらっちゃ困るといっつかマジでアタマとろけてるんでキャラブレブレなんもしゃーないツス」

このやたらと早口なヒツポウ（レベル1）はフェニックスの客対応用端末である。本体は異界を調整して作った火山で死んでるところだ。

自衛隊（といっつか五島部隊）、メシア教日本支部、根願寺のバックがついたことによりガイア連合の使用可能な武器の選択は広がった。

ある程度の武器ならば持ち歩きも許可され、武器密輸課の手を借りなくても異界に挑む事も可能になった。できるとなればやりたくなるのが人間。今は新しい武器を自ら持ち込んで挑むのがブームである。

これに対して武器密輸課は喜んだ。なにしろガイア連合の人数は増える一方なのにトラポート持ちは希少だからである。黒札（最近支給された転生者の証）限定サービスにすべきという案まで出てきたくらいだ。

武器密輸以外にも人員の輸送など求められているサービスは多いので仕事が無くて困るということはない。通常輸送課（車両や列車、船で輸送する）の仕事で緊急性のあるものを肩代わりしたりもする。

少々我が身に余裕ができたので、今回はエジプト避難シェルターに差し入れに来たのだ。前は蟲キチネキの要請により夢野先生の既刊をまとめて図書コーナーに寄贈したが、あれは少女漫画文化を知ってこそ楽しめる作品だということに後から気づいた。

少女漫画のメタネタを少女漫画を知らないまま読んでもスルーされてしまう。次回から夏休みという前フリからの夏休み全カッツは腹を抱えて笑ったが、少女漫画初心者にはわかりづらいだろう。

もともとエジプト勢は日本文化を勉強しようとしている。ガイア連合と仲良くなるには日本文化とオタク文化を知るのが一番だとかかのウサギが吹き込んだからだ。まったくどここのどいつだ。

そんな理由から日本文化の入門として入りやすい漫画を求められていた事もあって、今回は様々な漫画を寄贈しに来たのだ。図書館の守護神、手塚治虫漫画も多めに入っている。

エジプト避難シエルターはガイア連合製対終末シエルターのテストケースのひとつである。避難してきたエジプトの墓守たちにテストターとして住んでもらいデータを貰うことで今後のシエルターにかかっている。自給自足型のシエルターの実働データは貴重で、かつ住民の故郷に寄せるカスタマイズということで技術者たちが喜んでいゝる。蛍光色に発光してるのもいる。

ガイア連合としては実際に住む人間を募集しなくていい上にオカルトを知ってる相手なので話が通じやすい。エジプト勢としては住処と異界に臨時神殿をつくってもらえる上に仕事でありガイア連合との繋がりをもてるのでニッコリ。

ただしエジプト勢は多神連合に恨まれているので、現在はシエルターの場所を知っているのは少数だ。不死鳥推しネキに強請ねだられても教えるわけにはいかない。

漫画を寄贈し、せつかくだからとフェニックスに会いに来たところだ。やたらとノリが軽いというか、人間で言えば温泉に浸かって深く考えずに喋ってるようなものなのか？

「ウチの信徒ちゃんちゃんの加護についてはマジ申し訳ないってーかどうにかしたいんだけど流石のオレオレっちも死にすぎたってーかうまくまわ転生まわれてなくて取りこぼしこぼしちゃってる感じなんすよね」

曰く、各地に貯めてあった信仰貯金を回収しながら墓守の一族（一族と言っても小さな村を作れる規模）を保護しながらエジプトから日本まで地球を半周。襲いかかるメシア教過激派を追い返しながら長編映画五本くらいできそうなくらい厳しい旅路だったらしい。なお毎回クライマックスでフェニックスが死ぬ。

フェニックスの不死は本質的には『再生』ではなく『転生』である。

死んだ際に次の自分自身に転生しているのだ。ものすごく厳密に言えば『前世の記憶と能力を完全に受け継いだ別神』になっているわけだ。『スワンプマン問題』に近い。

何がマズイかという点、『厳密には前世の別神』ということによって契約の継承が不十分なまま次の死を迎えていた事だ。前世のさらに前世の契約ということによって不死鳥推しネキの加護契約が上手く継承されないまま流れてしまったのだ。

本来ならば継承されなくても暫く生存していたり死んだ場所に留まっていれば自動的に契約が継承される。今回は不死鳥の仕様と状況が噛み合っていなかったのだ。

「ボクとしては、もう前の加護は諦めて新しい加護を貰ったほうがいいんじゃない？　と思うのだけだ」

「オレっちの本体が蘇ったら新しい加護用意しとくんできるときやオナシヤス。もしかしたらエジプト神話じゃなくて日本神話の石柱として覆面参戦するかもしれないんでそんなときやマジよろです」

ヒツポウと別れ、今度はハトホル神に挨拶に行く。残存エジプト神話勢としてはフェニックスと並ぶ位ある悪魔だ。

「いやしかしガイア連合には感謝しかないな。これはもうウチの信徒たちをガイア連合の嫁に出すしかないのでは？」

クレオパトラとかどう？」

「ビジネスライクでいきましょうよビジネスライクで。お互いWin-Winを目指しましょうよ」

本体が死んでることもあって呑気なフェニックスと違い、ハトホルはなかなか厄介だ。ボクが未婚とみるやグイグイ結婚させようとしてくる。ハトホル自身もすすめられる女性たちも美人なのが更に厄介。下手を打てば人生の墓場入りである。

「正直こちらとしては借りが大きすぎてどうすればいいのかわからんぞ。ガイア連合への借りもキミ自身への借りも返す手段がない」

「ああ、それならちよいと頼みたいのですが」

ちようどやってみたいことがあったので頼み込む。土産物に本来はNGである細工することになるので、ボク自身の貸しはこれでチャ

ラでいいだろう。製作費と仕込み用のマツカを渡す。

ハトホルも快く細工を引き受けてくれた。

「ふむ。重みを誤魔化すために簡易結界を張って中身を浮かせて……」

エジプト神話が滅び、逃げ延びてきたエジプト勢。彼らは自らが思っている以上にガイア連合に恩恵をもたらしている。

なにしろ守護する神は主神も戦神もない二柱。日本とは真逆の土地からの超長距離移動。さらには孤立無援。

これほどまでに悪条件が重なったエジプト勢がガイア連合に頼ることができたということは、この先メシア教に破れた勢力がガイア連合を頼りやすくなったということだ。最悪の条件のエジプト勢が行けたのだから、それよりはマシな状況の勢力が辿り着けないことはないだろう。少なくともそう思わせることで最期の玉砕よりガイア連合を頼りに生き残ろうとする選択肢が生まれる。

ガイア連合としては自身の戦力、特に転生者をメシア教過激派との戦いの矢面に立たせるつもりはない。つまり支援することで矢面に立ってくれる戦力が欲しい。その戦力をエジプト勢が導いてくれるのだ。

また、これから落ち延びてくる神話勢力はまずエジプト勢に日本でのセオリーを教えられることになる。その恩によって直接エジプト勢を責めることはなくなるだろう。

「久しぶりだね。ちよっと背のびた？」

売店の店番をしている褐色少女にペルソナを介して話しかける。概念存在であるペルソナをフィルターにすることで会話がお互いの母国語へと変換される。ペルソナによっては動物とも会話ができる。やり方を知っていればペルソナ使いなら誰でも使える小技だ。ボクがエジプト勢の支援にまわされた理由でもある。

「ウサギの兄さん久しぶり。このままなら兄さんの背を抜かす日も近いよ」

「ハハハ、コヤツめ」

まだ中学生くらいの年なのに目線の高さがあまり変わらない恐怖。

これ以上伸びませんように。小さくなあれ小さくなあれ。

そのまま適当に雑談をする。店番ちゃんは他の女性陣のように肉食動物の気配をしていないから安心できる。店番ちゃんも暇だったのかシエルター内での出来事や娯楽が少ないことへの愚痴が流れる。

適当に話しながら知り合いに渡すためのエジプト土産を買い込む。ハトホルサブレー、フェニックス温泉まんじゅう、千年パズル、ペナント、ピラミッド模型。

まだシエルターの市場が外に開かれていないため、ほぼテスト生産のレア土産物だ。木刀や竜が巻き付いた剣のアクセサリもカゴに入れている。男はいつだって少年心を持つてるものなんだ。店番ちゃんがアホを見る目で見てくるが負けたりはしない。

精算を済ませたタイミングでハトホルに頼んでいた品がちょうど届いたので受け取る。

こちら、山吹色のお菓子でございます。

成功率0%

「どうぞ、山吹色のお菓子でございます」

そつと菓子箱の蓋を開け、中のハトホルサブレーを見せる。

「フツフツフツ、イナバニキ。おぬしもワルよのう」

「いえいえ、スライムニキほどではございませんよ」

ハツハツハとふたりして笑う。

「ふたりして何やってんです?」

「聞いたなコイツ!」

「裏ジュネスのフードコートでやってる方が悪いだろ。常識的に考えて」

あ、混世魔王くん。エジプト土産は木刀と千年の盾どつちが良い?

「ああ、いたいた。おーいハム子ネキ。エジプト土産どうぞー」

「イナバニキじゃんやつほー」

「お久しぶりであります」

朝に支部で見かけなかったので後回しになってたハム子ネキに土産を渡す。消え物系として多めに買ってあったハトホルサブレーだ。

「おやつがわりにフードコートで開けようか」

いいね。不死鳥推しネキから何とか一箱守りきったフェニックス温泉まんじゅうも開けちやおう。フェニックスを描いたパピルス(もどき)だけでは満足しなかったのは誤算だった。

ボクとハム子ネキとアイギスとジョーズマンでフードコートへ向かう。ジョーズマンがエジプト土産の入った袋を複数引っ掛けているのがシユール。ピラミッド模型や千年の盾がかさ張るので仕方ない。許せジョーズマン。

「ペるそなー」

ボクの顔から仮面が1枚剥がれ落ち、地面につく前に分解され人間大のウサギへ再構成する。そしてそのままイスに座らせる。

「じゃあ飲み物注文したらここに集合ってことで」

「ペルソナを便利に使いすぎだよねこの男」

そうかな? 荷物置くのと変わらないじゃない。

まんじゅうとサブレーなら抹茶系が合うかなー。

「イイねえおりこうさんに座るその姿ホントキュートだよー。イスにおすわりしてるから足がつかなくてブラブラしてるのも胸きゅんポイントたかたかだよお。うんうん。耳をピクピク動かしてマジカワイイですねえ」

戻ってきたら変態がいた。高身長、高学歴、高レベル、イケメンで性格良しとモテる要素を詰め込んでいるのに異様なまでの動物好きが長所を打ち消している男のモフモフスキーニキだ。磐戸台支部に来てたのか。イナバシロウサギのまわりを音もたてずに動き回り堪能している。

「コレが不審人物でありますか。なるほどなー」

「ほら、イナバニキのせいでアイギスが変なこと覚えちゃったじゃない」

「それホントにボクのせい？」

若干理不尽な物を感じる。訴えたら勝てるんじゃないだろうか。ジョーズマンもそうだそうだと言っています。

「おや、イナバニキにハムネキ。こんにちは」

「うわっ、急に冷静になるな！」

「何度見ても変貌レベルが高すぎる」

でもハム子ネキも勧誘時は似たようなものでは？ 思った言葉をそっと胸にしまい込む節度は持ち合わせている。虎の尾を踏まないのが世渡りのコツよ。

「ところでイナバニキ。どうか写真撮影の許可をいただきたいのですが」

「キミは撮影すると止まらなくなるからダメ」

「そんない」

前に許可した時に何時間もつきあわされたのを忘れてないからな。それはそれとしてモフモフスキーニキも飲み物買つといで。

「わざわざ巖戸台でキャンプだなんて珍しいねモフモフスキーニキ」

「ペルソナ使いとして目覚めるためにはまずその地に居なければいけないらしいので。資質なしと診断されましたがワンチャン賭けてみ

「ようかと思ひまして」

「モフモフスキーニキがペルソナ使いになつたら心強いとは思ふけどね」

普通の覚醒者としては順当に強いのでそこまでしてペルソナ使いになるメリットはほぼ無い。デビルバスターにペルソナを足してパワーアップという単純な足し算ではないのだ。色々バグってるシヨタオジですら自前のペルソナを使つてもワイルドとしてのペルソナは使つていない。

スポーツ、例えば野球で想像してほしい。次々と変化球を覚えようとするピッチャーと2、3種類程度の変化球とストレートを磨きあげるピッチャーならどちらが厄介だろうか。

道具で能力の穴を補えるデビルバスターならなおさらである。それがわからない男ではないハズなのだが。

「オレ、動物が好きなんですよね」

「どうした急に」

「うん知ってる」

「ですが、オレの動物の愛で方って、こう、動物に対して圧が強すぎるというか嫌がられてしまふんですよね」

「なら抑えてみたら？」

「抑えてコレなんです」

マジか。モフモフスキーニキの顔に冗談の色はない。本人的には真剣な悩みのようなだ。

曰く、仲魔や獣型式神でも相手が我慢してくれるだけで嫌がられる事には変わりはない。相手が嫌がるのであれば本意ではない。

自分自身を変化させても何か違う。ならばどうするか。

「自分の獣系ペルソナを愛でればいいじゃない。そう結論付けました」

「そうかー。イナバニキのせいだったかー」

「ひどい風評被害だ」

たしかに手が空いた時とかにモフるけどね。ペルソナに覚醒できるかも怪しいのに獣系狙いは厳しくない？

「そんなアナタにオススメのアイテムがこちら。本来はイナバニキに押しつけるつもりだったんだけどね」

「おおハムネキ。何か解決策が？」

「嫌な予感しかない」

ハム子ネキが取り出したのは携帯音楽プレイヤーと青系のカツラ（ウィッグと今は言うんだっけ）である。わかりやすく言えばキタロー（ペルソナ3主人公）へのコスプレアイテムだ。そのままモフモフスキーニキに装着する。

「うーん。キタローと言うには背が高すぎるかなー」

「おお残念。イナバニキなら良い感じになるのでは？」

「絶対イヤ」

下手に装備するとキタローの役割を押し付けられそうなので断固拒否する。

たかがコスプレと侮ることなかれ。魔術の世界では形を似せるというのは大きな意味を持つのだ。わら人形を相手に見立てる「丑の刻参り」が有名なところか。変身ヒーローの変身ポーズを真似る事で自身が強くなった気分になるというものの規模をスケールアップしたのが魔術の手法の一つである。

何が一番マズいかというとボクが『ワイルド』になりかねないことだ。色々なペルソナを使えるようになると言えば聞こえはいいがデメリットが大きい。攻撃スキルは魅力的なのだが。

「端的に言うと、その格好をするとイナバシロウサギが使えなくなる可能性があるから絶対しない」

「よし、ではこの悪しきアイテムは貰っていきますね」

「そんない」

世の中からモフモフがひとつ消えるとなればモフモフスキーニキの行動に躊躇はない。ハム子ネキの邪悪な目論見はここで潰えた。

後天的にペルソナ使いが『ワイルド』に変化する数少ない例がエピソードアイギスにおけるアイギスだ。『戦車』から『愚者』へとアルカナ変化し、ペルソナも『アテナ』から『オルフェウス』になる。ゲーム的には新規エピソードのための初期化なのだが、これがボクにも起

こらないとは言い切れない。

「そろそろキャンプ場に行かねばならないのでオレにここで失礼します」

「はいよー」

「あ、エジプト土産渡しとくね」

モフモフスキーニキにはスフィンクスぬいぐるみが良いかな。デビチルデザインだが天使感ある羽根を排除したら某ジャングル大帝の子供時代に似すぎてしまった。故にこのサンプル品しか存在しないレア物だ。

イナバシロウサギに抱えさせてモフモフスキーニキに手渡そうとする。

「モフモフが……モフモフがモフモフを抱え込んで……」

「あつ、泣いちちゃった」

「せんせー。イナバニキが男の子泣かせてまーす」

男泣きとはこのことか。感極まって涙を流しつつもイナバシロウサギを凝視している。

「イナバニキ。どうか撮影を。撮ることを許していただきたい」

「後で良いもんあげるから早く受け取りな」

ウサギには肉球が無いので物を持つには不適切なんだよ。ドラえもんハンド的な感じで掴むこともできるが、今回は動物感を優先して挟み込む力だけで保持している。

イケメンはぬいぐるみを抱えていても様になるからズルいよな。上機嫌で去るモフモフスキーニキのスマホにある動画を送る。

「何あげたの？」

「イナバシロウサギが蒲がまの上を転がってる動画」

前にモルモットニキと一緒に逸話再現で薬効が上がるかを実験してみたのだ。結果は本来の薬効＋皮膚の再生と毛生え効果の軟膏だ。どっちも式神移植と被るのでそのまま完成品を何個かガイア連合のオークションに流して打ち上げ代にして終わった。

支部の出入口の方で妙な奇声をした気がするが気のせいだろう。そのままハム子ネキと駄弁っているとスマホに着信。スライムニキ

からだ。

『イナバニキ!?　なんか菓子箱の二重底から大量のマツカが出てきたんだけど!』

「えー?　ちゃんと山吹色のお菓子って言いましたけどー?」

『あれ、そういう意味なのかよ!!』

こんな大金受け取れないと言うスライムニキの抗議を通話終了して打ち切る。そして一時的に着信拒否。

前にオールで呑んだ時に翌日動けなかったであろうことへの補填だ。こっちは一人身なので自由がきくが、スライムニキは亀を除いて四人パーティだ。1日動けないだけでも大きなマイナスだろう。

それが原因でパーティ不和などが起きてもマズい。普段どれくらい稼いでるかわからないので、とりあえずボクのちよつと頑張ったときの日給に多少色を付けて仕込んでおいた。

「で、本音は?」

「一度やってみたかったので口実つけて実行した。今も反省してない」

ハッ、誘導尋問か!?

それはそれとして菓子箱を探ったってどうしたの?

「いや私の分はあるかなーって」

「うーん、ペルソナ攻略班への援助はいいんだけどね」

タルタロス攻略してるハム子ネキを支援すること自体は問題ないが。スツと右手をハム子ネキに差し出す。

「アイギス加入からの武器防具の明細。出して」

「わ、わかんないツピ」

ほらー、どうせ使わない物でもコレクションしてるんでしょ。そんな子は支援抜きです。

でも一通り揃えておきたい気持ちはわかってしまうのがコレクションター魂だよね。

夢と希望と絶望の塊

一時的に仕事量の減っていた武器密輸課。一時的ということはそれを過ぎると仕事量が増えるということでもある。

2つの原因で武器密輸課への依頼が爆増するのであった。

1つ目は『武器携帯許可』の実態が周知されたことである。ガイア連合としては大手を振って武器を持ち歩けるぜと喜んでいただけ、大きな落とし穴があった。『武器携帯許可』はあくまでも『警察に捕まらない権利』であり、『何のトラブルもなく武器を持ち歩ける権利』ではなかったのである。

つまり偽装せずに武器を携帯すれば通報されるし、捕まることはなくとも質問してきた警察には対応せねばならないのである。これは根がコミュ障気質な転生者たちには面倒であった。

だがせっかく買った武器を使いたいのもまた人情。武器密輸課への依頼が殺到することとなる。ふあつきん。

2つ目はとあるコスプレイヤー転生者からガイア連合へと苦情が届けられたことである。曰く、「最近コス界隈の治安が悪い。会場外や公共交通機関でのコスプレが目立つ。ガイア連合が堂々とやっている以上、注意しても効果が薄い。オタクとしてのマナーを守れ」とのことである。ぐうの音も出ねえ。

基本的にコスプレはイベント会場の更衣室で着換え、会場内の広場で完結するものである。しかし外で「コレはコスプレだから」と武器や式神の姿を強引に誤魔化す慣例が続いた結果、それを見ていた外野のコスプレイヤーが真似してしまったのだ。

これにはガイア連合も大慌て。まずはコスプレと称して誤魔化す事を一時的に禁止、政治家オレたちに働きかけて誤魔化すための公式路上コスプレイベントなどをねじ込めるように動いた。

では一時的にコスプレと誤魔化せなくなった人たちはどうするか。武器密輸課に依頼するのである。がつてむ。

これでは仕事が終わらんと武器密輸課課長おしよ二キがガイア連合へのデモを扇動する。式神が手に入らない時代に魔力を通した

長ネギを武器に悪魔と戦ってきた最古参の一人である。五寸釘ニキと並び称されるおしろうニキの言葉に多くの人は賛同し、労働環境の改善を迫った。

ボク？ 「お前が働くと前提条件が崩れるからコレ持って遊んでなさい」とプラカードを渡されたのでデモに混じってわっしょいわっしょいしてた。正直楽しかった。

結果、武器密輸課への依頼料を跳ね上げながら黒札割と称して大幅割引することで密輸は実質的に黒札限定サービスとなった。そして通常輸送課による人員輸送サービスを開設することによりガイア連合は上記のトラブルから解放されたのだ。

「とうわけで天誅！ ラビットビンタをくらえ自衛官ニキ！」
「うわ！ ダメージないけどモフツとしてる!？」

ダメージは0だがペットに拒絶された感覚を与える技である。単なるイナバシロウサギによるビンタとも言おう。

「今回の件、俺は悪くなくね？」
「武器携帯許可の件だけならそうだけどね。問題は銃の販売のキツカケになったことのほうが大きいかな」

車のハンドルを持つと性格が変わると言われる人がいるように、銃というわかりやすい力を手に入れることで無意識に態度が大きくなる人間も多いということだ。

武器密輸課という『金を持つてるが戦闘力は微妙』な人間に対して特に態度の変化が顕著になる。何かやらかせば契約式神によって即座に爆殺されるので実害は少ないが、トラブルの後処理で5分ほど時間を拘束されてしまう。客の確認がスムーズならその間に10件ほど片付けられることを考えればやはり害悪である。

「あれ？ それなら今殴られたのに契約式神作動してくないか」
「ダメージない程度になら殴っていいように受付で書き換えてもらったからね」

逆に「腕の一本くらいならよし」「死んでなければよし」「蘇生すれば1度くらい死んでもよし」と発想が過激になっていく受付の姉さん

たちをなだめるのが大変だったくらいだ。なんせ銃で態度が大きくなったアホの1番の被害者は受付である。アホがそれぞれの支部の強者に鼻っ柱を折られて正常になるまで相手していたのだ。さらには未覚醒なのに銃を売れとゴネるものまでいたという。ホントにお疲れさまです。

「今度ガイア連合に顔出すときは菓子折り配るべきかね」

「ちなみにおしよ二キから『次に会ったら自衛官ニキの穴という穴にネギをブチ込んで奥歯ガタガタ言わせてやる』と伝言を頼まれてるよ」

トラブル対応は上司の仕事なので仕事量増加＋トラブル対応案件増加がデモの引き金だったりする。

それはそれとして仕事である。今回は自衛隊に渡す武器のサンプル紹介のために来たのだ。自衛官ニキを殴るのはそのついでである。

自衛官ニキがなにやら悩んでいる間に武器紹介の準備をしていると部屋の外から視線を感じる。陸将殿だ。転生者にはゴトウといったほうがわかりやすいか。視線を向けると人差し指を口先に立てる『ナイシヨで』のジェスチャーが返ってきた。ならばよし。陸将殿は放置だ。

「ハイでは紹介始めます。サンプル貰いに行った全員から原理やら思い入れやらをさんざん聞かされたボクに感謝するように。こちらアシスタントのスタンドくん」

「ジョーズマンじゃないんだな」

「奴は今モルモットニキが改造手術中よ。チェーンソーを内蔵型にするのと、オルギア発動時の熱を背ビレに集めてヒートカッターにするらしいよ」

デモニカのテスト中の自衛隊員たちに敵と間違えられそうなので置いてきた面もある。

「まず紹介するのは式神の兵独楽^{ペイゴマ}。祈りながら独楽を巻き、回すことで仕込まれた式神が展開して即席の仲魔となる道具。スキルは無く、素手だけどガイア連合の式神端材を利用してはるからなかなかの強さだよ」

モーターや水車のように回転というのは力の発生、増幅、伝達と相性がいい。バトル漫画でも技に回転を加えれば威力アップの証である。祈りによる僅かなマグネタイトの方向性を整え増幅することで誰でも式神を操れるのだ。

「いきなりコレ強すぎないか？」

「動力源を回転に依存してるからうまく回しても数分持たないし、独楽に衝撃が伝わると倒れるから攻撃にも防御にも向いてないのが欠点かな」

「産廃じゃねえか」

1動作が限界だと思うのでパンチ一発か一撃分の壁にはなる。ちなみに祈りながら巻くのは術式的に必須なので接敵前に予め巻いて保存する事はできない仕様である。

「お次は霊剣PAYーブレード。サムライが悪霊を斬る前に九字切りをしたり『南無八幡大菩薩この一撃に加護を与え給え』と念じる動作を売買契約で済ませることが出来るよ。柄にクレカを挿し込んだ状態でトリガー引くと支払われる」

金額設定画面やクレカ用スロットがゴテゴテ付いてるのでニチアサの玩具感のある剣だ。

「金とんのかよ。金額と威力はどんなもんだ」

「最高額が一振り1000万円で、野良レベル1覚醒者が百均包丁を振るうのと同等の威力かな」

「ポツタクリ過ぎやしないか。いくらなんでもよ」

支払い音の『シャキーン！』はけっこう好きなので一度試してほしい。ほらここに自衛官ニキのクレカ挿してみて。断固拒否？ そうかしやーない。

「霊剣の次は遠距離攻撃。このミニ怨苦おんくは使用者の怨念によって敵を追尾して攻撃する自走式呪詛爆弾だね。ミニの名の通り携帯性に優れているのが特徴だ」

「で、欠点は？」

自衛官ニキが先読みし始めてツライです。欠点がある前提で話すのはやめていただきたい。まあ、欠点あるんですが。

「『子供の頃からの夢だった店の開店資金を結婚資金ごと婚約者に持ち逃げ高飛びされた』恨みでだいたい野良レベル1覚醒者の『エイハ』の半分の威力なのが欠点かな」

「変換効率がクソすぎる」

「今回の目玉商品、〈Project Instant Arms: ^{プロジェクト インスタント アームズ}
NINE CALL〉。通称〈PIANICA〉だよ」

和太鼓による清めの音やロックバンドによる悪魔崇拜に代表されるように、音楽という物はオカルト的に強い意味を持っている。息吹によつて生まれた魔力を特定の旋律と組み合わせることで9つの魔法を使用することができる代物だ。威力はもちろんショボい。

「あー、たぶんイナバニキが気付いてないから言うけど、デモニカはフルフェイスだぞ」

あ……。ドリンク類を飲むための機能が付いているとはいえ、デモニカの元になったのは宇宙服である。吹き口を啜えることはできないし、ヘルメットを外せば悪魔を認識することもできない。

お次は……………

……………

「どれもこれも使いにくい奴ばかりだな」

自衛官ニキが今回のアイテムの評価を総括する。イナバシロウサギもそう思います。

しかしガイア連合以外ならどうか。陸将殿、そのへんどう思います？

「うむ！ 話は聞かせてもらった！」

ガラツと扉を開けて陸将殿が入室。完全に油断してた自衛官ニキが取り乱す。ドツキリ成功、イエーイ！

「うむイエーイ！」

入口まで少し遠かったのでペルソナを出して陸将殿とハイタッチをする。陸将殿は自分から悪ノリするタイプではないが求めれば応じてくれる人なのだ。

「さて、今回のアイテムであるが、よくぞここまで我々の求めていた物

を選んでもくれたと感謝するべきところだぞ自衛官ニキ」

「あ、ゴトウ部隊長もそう呼ぶんすね。で、この欠陥品の山がですか？」

「悪魔退治で重要なのは相手の耐性を知ることだと聞く。悪魔の中には銃撃や炎が無効、反射や吸収するものもいるのだろう。」

その穴を埋める攻撃方法を未覚醒の者が使えるという点が大きいのだ」

デモニカで悪魔を認識することで攻撃が通るようになっても、中身が未覚醒の人間であることに変わりはない。必然、自衛隊の攻撃方法は銃撃と火炎瓶程度である。

「未覚醒で悪魔を攻撃できる道具。その制作経緯と種類の多さを考えるに彼らの情熱を感じるな」

「?? どういう事ですか？」

「えっとね自衛官ニキ。未覚醒者に悪魔退治させて覚醒させたいってのはガイア連合で制作班に入った者の共通の夢なんだよ」

シヨタオジによる覚醒修行で覚醒できた者が考えることの中で共通してるのが、家族、友人、恋人といった身近な人を覚醒させたいということだ。

しかし覚醒修行を受けさせればそのまま絶縁されてもおかしくない。そこで大抵の人が思いつくのが『悪魔を倒せるアイテムを作って、自分が弱らせた悪魔のトドメを刺してもらって覚醒させる』方法である。

アギラオストーンなどの呪石は未覚醒では使えない。手榴弾で言えば未覚醒ではピンを認識して抜くことができないのだ。ならば自分たちで作ればいい。

その結果が『使用者のMAGに頼らず悪魔に攻撃するアイテム』の作成だ。ある程度形にはなっているが、未覚醒者の身の安全を確保できないという点で頓挫している。

つまりこのアイテムたちは制作班による夢と希望と絶望の塊なのである。

「そういった点ではデモニカと自衛隊に期待して応援してる奴らも

けっこういるんだよ。わざわざ口に出さないだけで」

「それなら俺も許されていいんじゃないかねイナバニキ」

「それはそれ。これはこれという便利な言葉があつてだね」

「どうして……どうして……」

嘆く自衛官ニキを放置して陸将殿に声をかける。

「注文は自衛官ニキを通せばいいですよ。トラポートですぐに配達することもできますから」

「おお、それはありがたい。しかし安易に使っては負担も大きいのではっ。」

「ボクはトラポートの負荷が軽いので気にしなくてもいいですよ」

「ふむっ？」

陸将殿が怪訝な顔をする。気になり聞いてみる。

「俺はオカルト方面は浅学の身であるが、君のペルソナが『因幡の白兔』であるということは推測できる」

当たり前である。『イナバニキ』と言われるウサギのペルソナ使いの時点でほぼ答えを言ってるようなものではあるが。

「そうなると遠距離レポートの『トラポート』は『因幡の島渡り』の逸話を元になっている物だと考えた。

島渡り自体には成功しているが結果サメまたはワニに皮を剥がれている。つまり遠距離に移動できるが負荷や代償が大きいものだと検討をつけていたので気になったのだ」

ふむ？ 言われてみればそのとおりである。そこんところどうなのとペルソナに視線を向けると野生のウサギのふりをしてすつとぼけている。コイツ何か知ってるな。

人間が体内で起こっていることを完全に知覚していないように、ペルソナ使いも自分の精神で何か起こっても表面化するまで知覚することはない。今度有識者に相談してみよう。陸将殿に礼を言う。

「あ、まだ渡しそこねている物あつたわ」

「まだよくわからんアイテムあるのかよ」

「ハイ、モルモットニキからの差し入れ『飲むと身体が蛍光色に光る薬』2ダースぶん」

「んなもんいるか」

TSJK：1番評判が高いのがモルモットニキの薬な件

ウサギ：どういう……ことなの……

TSJK：飲んで発光すると大抵の悪魔は距離を取って慎重になるから仕切り直しに良いらしい

ウサギ：自衛隊でヤクが流行っていると

TSJK：おいバカやめろ

因幡法螺吹兎詐欺

イナバシロウサギの逸話をざっくりおさらいしてみる。独断と偏見まみれになりそうだが、有名な話なので誰でも聞きかじったことくらいはあるだろう。

むかしむかし、因幡の離島に島での退屈な生活に飽きたウサギがいたそう。本土へ渡るためにサメ（ワニの場合もあり）を騙し、その背中を足場にぴよんぴよん跳んでいったそう。

最後の一頭の背中に乗り移ったウサギは我慢できなくなりついサメを騙していたことを口走ってしまうのです。

「え、まだ気付かないの？ キミたちはボクに騙されてたんだよ」

♥ ざあこ ♥ ざあこ ♥ 脳みそスカスカ ♥ うわなにするやめ」

怒ったサメはウサギをボコボコにし、ウサギの皮の一部を剥いでしまします。いやそりゃそうだろうという気持ちしか湧かない。肉食なのにその程度で済ませてるサメが優しく見えるくらいである。

ズタボロになったウサギのもとに近くの姫を見物に行く八十神やそがみ、この後に登場する大國主おおくにぬしの兄たちが通りがかりです。ヤソガミは面白がつて傷を癒やす方法と偽り傷が悪化する方法を教えます。ロクでもないなコイツら。

あつさり信じたウサギは当然傷が悪化し、もがき苦しんで泣いている所にヤソガミに荷物持ちを押し付けられたオオクニヌシが現れます。よつ、主人公！

事情を聞いたオオクニヌシが教えた治療法によってウサギはすっかり治り、お礼に「この先に困難はあれど姫とオオクニヌシが幸せに結婚しますよ」とウサギが予言して別れます。

終わり。

いやホントにウサギの出番はコレで終わりなのである。こういった話でよくある『実はウサギは姫の父が化けていてヤソガミとオオクニヌシを試した』とか『ウサギと姫が友達でオオクニヌシを推した』などの裏は全く無い。

ついでにその後の再登場による出番とかもない。その癖して因幡の白兔といえはコイツの事というくらいの人気者なのだ。

もちろんオオクニヌシの物語はここからが本番なのだが、別にこのエピソードを入れる必要ない気がするレベルでただの通りすがりの関係なのだ。

評価するならば『本編とほぼ関係ないけど妙に人気のある通りすがりのウサギ』なのである。何だコイツ。連載作品の読切版ゲストヒロインか？

ちなみにオオクニヌシと姫の予言をしたことから縁結びの神として祀られていたりもする。ホントに何なんだろうこのウサギ。

「はい背中向けて」

背すじをぴしりと伸ばしたイナバシロウサギの背中に先生が聴診器を当て、ふむふむとうなずいては別の位置に当てる。

「前向いて口を大きく開けてねー」

ペンライトで口内を照らしながら上下奥と隅々まで観察し、手元のカルテに何やら書き込んでいく。

「過去に餅つきの経験などは？」

「正月に実家の町内会で少々……」

カリカリと書き込んでいたペンが止まり、沈痛な表情で先生はボクと向き合う。

「先生、正直におっしゃってください。ボクのペルソナの状態はどうなんですか……？」

「うん、色々な概念たべものを習合ひろくぐいしてるねコレは」

「おまえー！」

先生——シヨタオジの言葉に思わずイナバシロウサギの肩を掴んで揺さぶる。拾い食いつておまえなー！

陸将殿から「お前のペルソナおかしくね？（意識）」と指摘されたのでペルソナに詳しくて説明好き（凶解は苦手）なシヨタオジに相談しに星霊神社を訪れた。いやたぶんモルモットニキあたりでもわかる

気はするけど、自分の中で完結しがちな人なのでボクに理解できるように上手く解説できるか不安だからね。

獣医さんごっこ（ガチ）の結果が拾い食いである。自分の精神とはいえ一言いいたくもなる。

「落ち着いたようだから詳しく説明するね」

「はい。お手数おかけしました」

後でおぼえとけよこのウサギ野郎。鼻で笑って返される。お前ボクのかせに生意気だぞ。

「まず前提として、イナバシロウサギという器はイナバニキという転生者パワーの才能を受け止めきれるほど強い存在じゃないんだよ。本来は。」

軽自動車にレース用モンスターエンジンを積むようなものだね」

イナバシロウサギは何かを成し遂げたわけでも戦う存在でもないただのウサギだ。そこに強い負荷をかければどうなるか。

骨に衝撃を加えられた場合、身体はその衝撃に耐えられるように骨を強くする。筋肉に強い負荷をかけた場合、筋肉はそれに応じて強くなるようにする。

「それと同じようにイナバシロウサギも概念的に強くなるようにしたんだ。

具体的に言うとうち世界中の逸話に出演する兎を指して『これ実はボクが演じた』と言い張ってその概念を習合していったみたいだね。『固有有名有り』の兎や方向性の違い過ぎる兎には手を付けなかったみたいだけ。

例えば『虎の威を借る狐を遠巻きに見るモブウサギ』や『干支の寅と辰の間に挟まる卯』だったり『直接攻撃で決闘王を追い詰めた兎』あたりの概念で補強してる。

その結果、因幡のグランドシロウサギとでも言える存在になったのがこのイナバシロウサギだね」

基本的に概念の世界は『言ったもん勝ち』の世界である。血筋や神話関係で力を引き出すならまだいい方で、名前や逸話などの共通点が欠片でもあれば縁があると言い張ることができる。

時間神クロノスと名前が似てるといふ縁から農耕神クロノスが時間干渉を起こしたり、チンギス・ハーンがヨシツネとの縁で『八艘跳び』を継承したりといった形だ。

『逸話の兎は大体ボク』というのは一見無茶に見える。しかしイナバシロウサギがオオクニヌシと別れた後の足跡を知っている者はおらず、神話のウサギで一応神の立場から寿命の問題もスルーできてしまふ。強く否定するための材料が無いためそのまま通ってしまったのだろう。

そしてもう一点、『よほど興味のある人でなければ兎の違いがわからない』という認知世界の常識もこの無法の後押しをした。挿絵がニホンノウサギでもユキウサギでも普通の人はまとめて兎扱いなのだ。「ふむふむ。あちこちの兎と同一化されることで転生者エンジンに耐えられる車体になったと。」

あれ？ 結局トラポートの話が有耶無耶な気が」

「それはもう一歩先の話だね。よし、結論から言おう。」

イナバニキは『月までの距離なら大体の場所にトラポートできる』というのが診察の結論だね」

は？

話が突拍子もなさ過ぎて理解できない。月ってあの月？

「論より証拠。まずは月に行けるかイメージしてみてよ」

言われるまま目を閉じて上を向き（昼なので月は下なのだがイメージしやすいのだ）月の表面を探る。そして確信する。これイケるわ。

「帝釈天の試練で自ら火に飛び込んだ兎は帝釈天の手によって月へと運ばれ、月の兎の玉兎となったのです、ってね。」

まあ、その話を自分だと言い張ったうえ、竹取物語での月の都の使者の一人は月で化した自分とまで言い出してる」

「無茶苦茶にもほどがありません？」

「人間や神の領域なら袋叩きにあってもおかしくない暴挙だけど、兎の領域だからねえ。誰も手を出してないブルーオーシャンってやつかな」

兎だもんなあ。興味がないかニンジンの一本でもあれば許してく

れそうである。

「本来はせいぜい月への限定瞬間移動の権能くらいなんだけど、アポロ計画による人々の月旅行への認識の変化、世界旅行へのハードルの下がり方、転生者の才能パワーが重なった結果が『月までなら』ってやつだね」

「それ、地球上なら大体行けるって意味では？」

まさか海外にまで対応できるとは。よくわからんウサギである。

「それはそうと、月に行くなら注意点がいくつかあつてね」

ペルソナ使いの裏技で月での行動自体は支障ないだろうけど、と前置きをして。

「ワイルドのペルソナ使いを連れたり影時間に月に行ったりするとニユクスとバトることになるから気をつけてね」

「いきなりのラスボス戦。」

あれ、それなら地獄のタルタロス登るより強襲したほうが良いのでは？」

「いい質問ですねえ」

シヨタオジに曰く、タルタロスを登つての挑戦は道場破りがマナーの通りに訪問する方法。

対してトラポートで直接乗り込むのは寝室の窓から土足で家に入り込むような方法。なのでガチギレが予想されるし、最悪ニユクスの絶対殺すリストに載るらしい。そりゃいかんわ。

「まあ影時間以外の時間帯やワイルドでない一般ペルソナ使いなら反応されることは無いよ。玉兎の属性を得てるから月に立つのは正当な権利だし。」

「ガイア連合の旗とか立ててみる？」

旗は貰つときます。

ところでもしや、タルタロス攻略ができなくてももう他に方法はなあって状況になったらペルソナ使い上位勢を抱えてトラポートしなきゃいけないかな？

「可能性は大いにあるね。月の使者を運んだなら十数人程度ならイケるだろうし」

頑張れー！ ファイトだハム子ネキ！

イナバシロウサギはいつでもタルタロス攻略を応援しています。

だからね。ほら。非戦闘員を最終決戦に連れて行くような真似はね？ ね？

「さて、最後に習合によるデメリットだね」

「あ、やっぱりあるんですね」

「デメリットというか仕様だね。似たウサギ概念を大量に使って強化した以上その影響を受けやすいんだ。つまりステータスの伸びがウサギ的になる。」

簡単に言うと『足は速いけど非力な小動物』イメージに沿った成長になるから、もう『力』や『魔』ステが上がるのは絶望的と言っている

ほわっつ???

ただでさえ低くて覚醒当時から1ミリも増えてないこの『力』と『魔』が？

『魔』はともかく非覚醒者に勝つのがギリギリの『力』はコイツが原因だったのか。ああ、いくら殴っても悪魔が倒れてくれないこれまでの苦い戦いの記憶がフラッシュバックする。

「ちなみにもしかしてボクの背が伸びないのもその影響ですかね？」

「影響が皆無とは言わないけど、覚醒時点でそもそも大学生じゃなかったかい？」

「あと少し、160に辿り着く可能性は有ったって信じたいんですよ!!!」

あと0.5、ほんの少し伸びるだけで良かったんですよ!!

夢をみる権利はあるんじゃないですか？

熱弁に対してシヨタオジが生ぬるい視線を送ってくるが、ボクにも譲れない一線はあるんですよ。がつでむ。

あ、地球は青かったです。

ここまでの覚え書き

〈ガイア連合警戸台支部〉

タルタロスの抑えとして設置された支部のため規模が小さかったが、影時間とタルタロスによって魂的ストレスでもかかっているのか現地民覚醒者が増えたことにより規模を拡大している。

・イナバシロウサギのペルソナ使い

人より2歩先の事を見通しているが3歩先の沼に頭からハマるタイプ。背が小さい。属性は月。

ペルソナを便利に扱うことと拡大解釈と裏技による高速移動に長けており、ペルソナがところどころあやしい挙動をする。最近世界規模で瞬間移動できることが判明。

戦略的に扱うと「占術↓シヨタオジとトラポートして本拠地奇襲爆撃↓立て直される前に帰還」という身も蓋もない事を気軽にできるのだが、それをすると他の全勢力が手を組んでイナバをブチ殺しにくるので禁じ手となっている。

攻撃力が貧弱なのが弱点。耐性も「火炎、破魔耐性 氷結弱点」と凡庸だが金と制作班とのコネは多いので最高クラスの礼装で補っている。攻撃魔法のないはぐれメタルのような男。武器は短刀。二刀流はできない。

『速』『幸』に特化した成長をしており、トラフリーの早打ちなら負ける気がしない。

最近「光の速さで歩く」ことに成功したが相手に伝わりにくい一発ネタのため披露の機会がない。

・イナバシロウサギ

ペルソナ。立ち上がって耳を立てた全長では本体より高い。

デビルサマナーとD2ではツギハギウサギだが、コイツはペルソナ系列として別デザイン。人間大のモフモフウサギ。

火炎耐性は帝釈天の試練で火にとびこんだ際に帝釈天の不思議火炎なので燃えずに生存したケースもあったため。無効と弱点の間を取って耐性となった。

実は一番ヤバイのは燃費の軽さであり、元々の軽さに加えて知名度補正と本体との相性によってスキル未使用なら自然回復と釣り合う程度の消費で出っっぱなしにできる。その結果、本体のペルソナ習熟度が異次元の域に達している。

・ジョーズマン

サメ男型特別製式神。サメ部分はアストラル体のため一般人には普通の男に見える。戦闘担当。

強化と改造でそこそこ強い。本来の武器はハルバードで『マルカジリ』と組み合わせた近接戦闘と『竜巻』による魔法攻撃ができるのでバランスがいい。

イナバ↓：もしもの時の殿にするために情を移さないようにしていた。『食事』や『会話』汎用スキルカードを使うか迷っている。

イナバ↑：主。強化と改造で概念的に強化されているので普通に食事も会話もできるが、必要ないためおこなわないし主に伝えてもいない。

・スタンドくん

一反木綿型式神。携帯性に優れる盾役なので普段はイナバのカバンに収納されている。判断能力が弱いため言葉やコントローラーで指示する必要がある。

Stand^傍by^にme^者から命名されたが、披露時に転生者がいないので伝わらないという悲しみを背負った。

イナバ↓：便利だけどダサイのが玉にキズ。

イナバ↑：特になし。

・ハム子ネキ

タルタロス攻略班なのに単独行動の宿命を背負った女。本家様からお借りしている。

最初にイナバと組んだ時は共闘慣れしておらず範囲攻撃に巻き込むケースもあったが、アイギス（偽）を連れてから配慮できるようになった。イナバがその話をつつくと上達の証明のためにタルタロスに連れて行かれるので触れないようにしている。

ただし無効以上の耐性持ち相手なら容赦なく巻き込む。自分も同

条件なら飛び込む。邪神アンチニキやシヨタオジと組むと火炎無効をつけて「オイごと撃て!」「チエストタルタロス!」などとお互いやっている。ペルソナ使いはおそろしい生き物です。

タルタロス攻略の協力者を募集しています。

イナバ↓:タルタロスに連れて行くとうとする悪癖さえ無ければなあ。低レベルのペルソナ使いを発見するとハム子ネキに見つからないように世話を焼く。

イナバ↑:敵の湧き方がEDFな環境で手軽に仕切り直せるペルソナ使いは人権クラスの存在とは思わない? 桐の箱に入れて背負って戦うのも辞さないレベル。

・弓道ニキ

弓で戦う大学生。キャンパスライフを楽しみながらなのでレベリング支援などでも見かけるエンジヨイ勢。

式神の鉄塊ちゃんにゴツイ全身鎧を着せる趣味をしている。デモニカはもう一回り重装甲なら飛びついていたい。

イナバから見ると大学でも後輩。

イナバ↓:安定感のある男なので初心者を見つけたら預けに行く。武器密輸課として新しい鎧を届けたりもするが、重量オーバーで追加料金を貰う際は気が重い。

イナバ↑:何かしら変なことをしている先輩。頼れば大抵解決するか解決できる人を紹介してくれるが何割かの確率でよくわからない方向に事態が転がるイメージ。

・不死鳥推しネキ

前世今世通して初めての推し活なので加減とかわからない女子高生。地道に推していたところを外敵メシア教やら運営会社エジプト神話によって滅茶苦茶にされたので怒り心頭。

式神のもこたんのサポートを受けながら相手を燃やす火炎特化型。もこたん共々前衛としても動ける後衛。

月光館学園の高校生なのでハムネキの後輩。カジヤ盛り親父ニキの娘とはクラスメイトで親友。家に遊びに行った際に判明して気まづい空気になった。

イナバ↓：バーサーカーではないけどアクセルベタ踏み癖があるのが怖い。元後輩なので甘くなりがちなの自覚はある。

イナバ↑：全体的によくわからない生物。フェニックス様との繋がりがあるので頼りがち。ヘラヘラしてるが頼れる人ではある。

・カジャ盛り親父ニキ

腰に爆弾があるのでたまにしか悪魔狩りできない親父。バフを撒きつつ攻撃を受け止める前衛。普段は裏方。

悪魔狩りや転生者関連については犬型式神イヌヌワンの正体共々家族には内緒にしている。

不死鳥推しネキと出会った時の硬直によって娘からパパ活疑惑を持たれている。

イナバ↓：腰の悪化や娘さんとの関係を心配している。

イナバ↑：純粹で騙されやすい娘に「二人は前世の絆で光の力に目覚めた戦士で世界を壊そうとする闇の勢力と秘密裏に戦っているのだ」と吹き込んだ奴を探してる。ウサギの耳のアカウントなんだが心当たりない？

・モルモツトニキ

人間の可能性を追求するマツドサイエンティスト。精神による能力への影響を調べるためにシャドウとペルソナを調べている。本人はペルソナ使いではない。

ウマ耳式神のタキオンとリンクする事で脳の処理を肩代わりさせ、感覚器からの情報をダイレクトに扱っている。タキオンはモルモツトニキの意識の一部が芝居している状態。

飲むと身体が蛍光色に光る薬がやけに売れるので困惑している。

イナバ↓：変人。なんだかんだ腕は一流だし面白そうな研究を持ちかけてくるので仲はいい。

イナバ↑：変人。なんだかんだ腕は一流だし研究を持ちかければワリとるので仲はいい。たまにスポンサーにもなる。

〈ガイア連合武器密輸課〉

本来は戦力に不安がありがちなトラポート持ちを保護するセーフティネット。トラポートの制約の性質が違う組み合わせのコンビで

目的地に瞬間移動することが多い。イナバシロウサギは完全にバグ
枠。

・おしようニキ

長ネギによる居合斬りとトラポートを得意とする課長。

初期から戦い続ける武闘派で怪鳥型式神のひきやくとのコンビ
ネーションは圧巻。おしようとひきやくの名は掲示板で勝手に言わ
れていたあだ名を気に入って使っている。

若干気が荒く、自分の認めてない相手の言うことを聞かない傾向が
ある。

イナバ↓：頼れる上司。ガイア連合ではこの人くらいなら癖が強い
うちに入らない。

イナバ↑：頼り過ぎも放置も危険な男。まさか月まで行けるとは
思っていない。

〈ペルソナ使い〉

基本的に人手不足。その分現地民が強め。

集合的無意識の物理法則を恣意的に自分に適用する裏技があり、空
を飛んだり音速以上の速さで動いたりする。

・シヨタオジ

本家様から出演。基本的に解説役。

イナバが修行してないので関係は良好。

イナバ↓：我らが大将。同じヒーロー系。上司相手としての一線は
引くけどそれ以外は親しい友人。

イナバ↑：顔見せても嫌がられない貴重な友人。アホなノリの波長
が合う。

・ネコマタ

シヨタオジの仲魔。ペット同盟としてイナバシロウサギにライバ
ル心がある。スライムニキのペットの亀について一緒にからかい、
揃ってシヨタオジに逆さ吊りにされる仲。

イナバ↓：ネコマタの発言が本当だと思わせる演技をしてただけな
のに一緒に吊られるのは納得がいかない。

イナバ↑：共犯が吊られるだけなのにコツチだけお仕置きが加わる

のは納得がいかない。

・スライムニキ

ペルソナが貧弱なスライムな男。本家様および外伝やる夫スレの「ぎんこそなー」からお借りした。人間力が高い。

戦闘力の無さがコンプレックスになっており、自身への評価に（でも貧弱だし）とマイナス評価をデフォルトでつけてしまっている。クソ雑魚ペルソナ同盟。

イナバ↓：自分と同じで戦闘力が無いのに前線に出てることには心から尊敬している。飲みを誘うとパーティーメンバーから睨まれるのでコッソリ誘う。

イナバ↑：自分の道を生きてる凄いやつ。色々立場が近いので飲みに行きやすい。

・混世魔王くん

現地民ペルソナ使い筆頭。スライムニキとおなじく本家様の外伝「ぎんこそなー」から出張。

間違えて混沌魔王と書いてしまっていたのをお詫びします。

オーソドックスに強いがゆえに上位勢の人外魔境に追いつける気がしない。ハムネキと違って仲間は多い。

イナバ↓：なかなか強いペルソナ使い。そこそこ恩を売っている。

イナバ↑：謎の人。なんだかんだ世話を焼いてくれるのでありがたい。

・ロツク

メシア教のペルソナ使い。シャーロツク・ホームズのペルソナを扱う。シスターではなく一般信徒で信仰心は薄い。

OLをしながら月2でメシア教からの依頼をこなす週末デビルバスターだったが、終末の近さを肌で感じて専業デビルバスターになる。

オートカジャ系によって戦闘開始時に能力が上がって拳でぶん殴るスタイル。追撃や切り札にペルソナの物理技を使う。これは世間の探偵物への認識が『バトルもあるアクション物でオマケに推理あり』となってる影響。

今後メシア教関連の話になれば出番も来るはず。

イナバ↓：胡散臭い奴からアホに認識がランクダウンした。メシア教へのパイプもペルソナ使いも希少なのでそれなりに丁重に扱う。

イナバ↑：ペルソナを使いやすくしてくれた恩人。ガイア連合への窓口。

〈その他ガイア連合〉

・ 霊視ニキ

能力の汎用性が高いので日本中を飛び回る男。本家様から参上。

マジンガーと加速持ち戦闘機でペアを作るようなシナジーがあるのでイナバとの縁は深い。

イナバ↓：不死鳥推しネキの担当は任せた。メシア教アンチとして手綱を握ってほしい。

イナバ↑：あの暴れ馬はお前の担当だろうが。

・ モフモフスキーニキ

モフモフのためならえんやこら。敵なら躊躇なくぶつ殺す男。

無駄にスペックは高いが上位のバグたちほどではない。普通に強い。

自分の動物たちへの愛情表現に悩んでいる。

イナバ↓：頼れるけど疲れる男。撮影などに付き合うと一日潰れることも覚悟しなきゃいけない。

イナバ↑：モフモフの化身。色々集めるくせに自分に必要ない物ならどんどんあげてしまう気前のいい男。

・ 自衛官ニキ

自衛隊所属のガイア連合。本家様からのお客様。

迂闊で残念な男で運も悪い。シヨタオジとゴトウに挟まれるとか彼が何をしたんだ。

やらかしによる強制的な修行によって平均より少し上くらいの強さになった。代償に見合っていない気もする。

イナバ↓：ふらふらと地獄に歩いていくタイプ。誰かが止めないとまたお仕置きされそうで心配。

イナバ↑：イタズラ好きのヒーホー。色々助けてもらっているが、蛍光色に輝く隊員を見ると素直に感謝の言葉が出てこない。

〈その他〉

・店番ちゃん

対終末シエルターに住むエジプト民。みやげ屋を任されているが、買いに来る人が少ないので隠れ家的スポットになっている。

みやげ物のチョイスに首を傾げている。非転生者。

イナバ↓：シエルター移住時に面倒みてた子の一人。すすすす育つ姿に戦慄している。

イナバ↑：ウサギの兄さん。買い物ついでの雑談は楽しみにしている。恋とか愛とかわからないけど居心地はいいよ。

・自称シンボルドルフの家来

俺の皇帝は絶対なんだ!! と頑張ってシンボルドルフの海外遠征を支えて凱旋門賞を取らせた強火転生者。

最近ガイア連合の正体を知りメガテン世界だとわかった。非覚醒者。

イナバ↓：誰??

イナバ↑：だれなの??

・ハリボテエレジー

馬名公募、応募、そして本馬に別々の転生者が関わっている。

転生者ソウルをハリボテ、ウマソウルをエレジーと分けて認識している。

第3コーナーを曲がる際に「まがれええええ!!」と叫ぶというシンプルながら一体感のあるお約束によりライト層やファミリ層にも入りやすいと人気。

メガテン世界だと知らずに牧場でのんびりスローライフ中。

・ハリボテ

馬に転生したが身体を動かせず、エレジーと会話するだけの転生者ソウル。

エレジーが勝ったときはおおいにはしゃぎ、負けたときはエレジー

よりも悔しがらる。自分は無力で無責任な傍観者だと考えており、ハリボテエレジーの栄光は全てエレジーの物だと思っている。

・エレジー

魂に兄のような存在がいる馬のウマソウル側。常に最高の応援者による声援バフを受けている。

ハリボテがいるのが当たり前で、いない状態を想像できない。

ハリボテとエレジーが揃ってこそそのハリボテエレジーである。一応非転生者。

侵略性外来種と侵略性外宇宙神性とペルソナ使い

ここはヨーロッパの外れの寒村だ。若者がおらず活気がなく、いるのは偏屈者と村から出ていくほど育っていない子供くらい。自然とよそ者への視線が厳しい排他的な環境である。

邪神の影の情報を得て訪ねたはいいものの情報収集ができるようになるまで時間がかかるだろう。仲間から「裏切る裏切らないで言えば裏切る側の顔だね」などと言われた顔だがこういった場面でコツコツ警戒心を緩めさせるには役に立つ。

ガイア連合の連絡員と会うために村を歩く。いつもの仲間たちはデートに送り出した。目の効く転生者ならば彼らの正体に気付くかもしれないのであるべく会わせたくないのだ。

サメ。男。鮫。サメ男。

村の寂れた公園の入口に見覚えのある式神がたたずんでいる。逆にイナバニキのジョーズマンじゃなかったらどうしよう。日本で密かに量産体制に入ってもおかしくない連中である。イナバニキとモルモットニキ、タキオンで怪しげに笑う姿を想像する。いや流石にやらないとは思うが。

「イエーイ俺の勝ち！ 兄ちゃんよわーい！」

「いや左右で別のゲームを展開されてもできないってこれは。あと『兄ちゃん』じゃなくて『オジサン』な」

「いやー背伸びしたいのはわかるけど兄ちゃんがオジサン名のるにはまだまだじんせいけーけんがたりないよ」

「キミらの年なら成年越えたらオジサンだろ？」

「またまたごじよーだんを」

「にーちゃんうごかない！ いま髪をむすんでるんだから！」

「ハイすみません。でも最近伸びてきたけど結うには短すぎるんじゃないかって痛い痛い痛い」

小学生程度の年齢の村の少年少女に遊ばれているイナバニキ。パチつと目があいお互い一瞬硬直する。

「ほら待ちあわせしてた人きたから抜けるね。オジサン仕事あるか

ら」

「ちえー、ざんねん」

「またなー兄ちゃん」

「さよならにーちゃん」

「オジサンだつて言ってるでしようがー!」

グツタリとしたイナバニキを連れてセーフハウスに戻る。『イナバシロウサギ』を出してその上に転がるイナバニキを見るとSNSで見た『飼い主の孫たちに揉みくちやにされるネコちゃん』を思い出す。「ペルソナが海外対応したから試運転に邪神アンチニキへ差し入れに来たらこのザマですよ」

侵略性外来種という言葉が頭をよぎるが口には出さない。ちなみに天敵のいない環境だと兎は増え続け農家を脅かすらしい。

「やたらと懐かれてた、というか玩具にされてたね」

「5分前くらいにボールを投げ返してあげて、気付いたらあのザマですよ」

邪神アンチニキ、子供たちはおそろしい生き物ですよ、などと愚痴るイナバニキ。僕が挨拶した時には結構警戒心の強い子達だったはずなんだけど。

慕われているというより完全にナメられていた。自分を傷つけない生き物だと本能的にわかったんだだろうか。

「ええい、気力も戻ったしとりあえず差し入れ渡しとくね。」

まずは『ヒノエ米のパックご飯詰め合わせ』チンして食べてね」

「普通にありがたいよ。てつきりネタに走ってるのかと思ってた」

「そして『レトルトロシアンガイアカレー』パックのうちーっだけ『ムドオンカレー』となっております」

やっぱりネタじゃないか。

「味以外はガイアカレーと同じだから運試しだと思ってるほしい。けして開発のために何杯も食べて意見出してたとかそのくせして売れ残ってるから抱き合わせ的に捌こうとかはあんまり思っていないよ。うん」

そもそも何故ムドオンカレーを作ろうとしたのか。その後、細々と

した日用品の補給を受ける。

「そうそう。公園で怪しげな地下への入口を見つけたから探索に行ってみない？」

ホラこれと手帳に『マップ』で印刷された公園の地図を差し出してくる。柱時計の下に入口の記号がある。

「ちびっこが複数いて時計の柱があれば周辺を走り回るものでしょ？ やけに周りがキレイだし子供たちもそんな遊びはしないって言うからピンときたんだ」

曰く、子供は無意味に走り回る生き物で複数人なら追いかけてっこになり柱を活かした攻防をするのが本能だと言う。

僕は今世では特殊な生まれと育ち方をしたせいで子供の遊び方には疎い。イナバニキはしよつちゆう変な言動をする男だけど仕事の本筋では（本人にとっては）真面目に働く。

ならば探索の価値もあるだろう。荷物を置き、威力偵察の準備をする。探索用のスキルの多いペルソナを使うイナバニキがいる間に攻略の目処をたてておきたい。

公園の柱時計から入る異界には多くの悪魔の気配がした。僕よりは格下だけど倒しながら進むとなると面倒な強さだ。

「はい、『エストマ』 これで邪神アンチニキよりレベルの低いモンスターはコッチからちよつかいかけない限りボクたちには気付かないよ」

ついでに『リフトマ』もかけとくね、と続ける。つくづく便利な男だ。ついでに『マップ』で周辺地図埋めてくねー、などとのたまうイナバニキ。慣れすぎると逆に怖いな。

「ではしゅっぱーっ」

「敵と何回か戦うか行き止まりにあたってたら一度戻ろうか」

一応悪魔の視界を避けるようにスニーキング。ダンジョン攻略の始まりだ。イナバニキ、僕、ジョーズマンの隊列で進むことにする。

回避できない悪魔もおらず、どんどん異界をくだっていくとあからさまに人造物の扉と暗証番号によるロックを発見する。開かなけれ

ば破壊するかな。

「まあ暗証番号なんて覚えやすい番号に設定するよね。ニヤルさん 2863とかかな。あ、開いた」

「開いちゃうか」

部屋の中にいたのは高校生ほどの年頃の少女。完全にリラックスしていたが、こちらを見るなり飲みかけのコーヒーをぶち撒けながら戦闘態勢に入る。直接見れば邪神ニヤルラトホテプの化身のひとつであることは確信できる。

「うええいい?! ナンデ！ 俺殺しナンデ！

迷路になつてるダンジョンと大量の悪魔で2週間は時間稼げるはずでしょ?!?!」

「よっほどの『幸運』がついてたんじゃない?」

焦る邪神の化身と平常運転のイナバニキ。そういえばこの男は『速』『幸』特化の成長だった。

「とはいえ何の準備もしてないわけではないザンス！

おいでませ『ミサイルシャーク』 発射!!」

壁からサメ型のミサイルが打ち出される。10本中2本が僕とジョーズマンに向かい、ジョーズマンの腕から展開したチェーンソーによって切り払われる。助かるけどあまり変な改造なら文句言うんだよ?」

残りの8本のミサイルがイナバニキに殺到し、爆発する。サメの形をしているから神話的因縁で攻撃が集中したんだろうか。

「あー危なかった。無害な一般ペルソナ使いになんてことをするんだ」

ヒョコつと僕の背後からイナバニキが顔を出す。爆発の中心に居なかった? 爆風より速く走れば大丈夫? まあそれはそうか。

「まだまだ弾はありますよ! 『ミサイルシャーク』!!」

「なんの! ジョーズマン、『竜巻』! これで帰巢本能によりサメは竜巻の中に帰宅する!」

「く、その手がありましたか。なんてロジカルな戦法」

再び打ち出されたサメのミサイルはジョーズマンの生み出した竜

巻へと吸い込まれる。いやそうはならんでしょ。

ある意味ニヤルラトホテプの弱点である。トリックスターであり愉悦によって行動するこの邪神は自分が面白いと思っただ心には逆らえない。自分の有利不利よりもその場のノリを優先してしまうのだ。ある意味では邪悪で倫理観がなくて強大な力を持つヒーロー系とも言えるのでイナバニキと相性が良いのかもしれない。

「だが竜巻は爆発に弱い！ ミサイルシャークよ自爆なさい！」
「しまった竜巻がやられた！」

イナバニキと楽しく戦っている少女の背中をつつく。

「なんですか今忙し、い、しまった!!」

イナバニキがミサイルへの対応をしている間に魔力を高めた僕が必殺の間合いで立っている。何をしてもペルソナによる全力の火炎魔法をブチ込める間合いだ。チエスや将棋で言う詰みである。

「えーと、焼き加減はレアでお願いします」

「当店の邪神焼きはウエルダンオンリーとなっております」

邪神を焼いた後は部屋にあった資料を軽く回収して『トラエスト』で帰還した。『マップ』によって印刷された地図もあるし、本格的な搜索は後日に行うことになるだろう。

ちなみに費やした時間は3時間ほどであり、もうしばらくすれば夕方といった時間だ。異界の攻略時間としては早すぎる。

「イナバニキはこの後どうするつもりだい？」

「日本に日帰りかなあ。まだ時間はあるし村をぶらついてみるよ。せっかくの海外だし」

部屋に荷物を置いて二人で散歩しながら雑談をする。日本とは時差があるのでガイア温泉に浸かる予定らしい。先ほどの公園の前を通る。

「あ、兄ちゃんがでたぞ！ ものどもかかれー！」

「わー！」

「にーちゃんしんみよーにせよ」

「うわー、なにをするきさまら」

公園に帰ってきていた子供たちがイナバニキを襲撃する。ああ、僕はなんて無力なんだ。本人も楽しそうだからいいんじゃない。子供のひとりがこちらに来る。

「お兄さん、あの兄ちゃんのもだち？」

「うん、友達だよ。本人の望み通りオジサンって呼んであげたら？」

「あの兄ちゃんがオジサンになるにはまだまだくろーが足りないよ」

「僕が『お兄さん』扱いなのも？」

「お兄さんはいっぱいくろーしてそーだからオジサンでもいいんだけど、オジサンって呼ぶよりお兄さんのほうがうれしそうだからお兄さん」

「気を使ってくれてありがとう」

「そうか。苦労か。」

「お兄さんは色々なやんでそうだからいっぱい走ろう。」

「走りまわれば大体のなやみはわすれられるよ」

「じゃあお言葉に甘えて追いかけてこしようかな」

童心に帰って無邪気に走り回る。今世ではそんな事をやっていないので前世の子供時代を思い出して走る。背負っていることを何も考えずに走るのは案外気持ちいい。

その後、その場のノリでルールが変わったり人数が増えたりする子供達と遊んでいる姿を仲間たちに見られてしまうのだが、それはまた別のお話。

本物マスターと謎の式神S 揭示版回

「式神のつくりとしてはすごく単純なものなんだよ。

主人をぶっ殺す。自分が死んだら主人のMAGで復活。

それを契約違反によって起動するっただけでね。あとはオートなのさ」

ある拠点、部屋の隅でギヤリギヤリとキヤタピラの音がする。

「自らの意思で契約違反したなら即座に瀕死に追い込む。意思に反して契約違反になった場合、例えば勘違いやじゃれあいによる軽度な攻撃などでは待機状態となり警告する。警告を無視すれば爆殺。

まあ、今回の場合は前者かな」

銃を突きつけてくる男に抵抗は無意味だと説く。昼前に今日の仕事が終わりだと思ったら最後にこれだ。ため息もでる。

「うるせえぞー！ 兄貴をぶっ殺しやがって！

銃が見えねえのか!? この式神を止めやがれ!!」

ボクがどうこうできる物ではないって話してもわからんか。主犯を契約式神『シアー・ハート・アタック』が爆殺したのはボクのせいではないし、後処理班が来るまで大人しくしましょうと言ってもこのザマである。

兄貴とやらの式神は兄貴ごとぶっ倒れており、このチンピラの式神はオロオロと判断に困っている。部屋の奥にもうひとり事態を飲み込めてない少年が少女式神と突っ立っている。何もしないでくれるとありがたい。

「ナメやがって！ ぶっ殺してやる!!」

引き金を引こうとした瞬間にそれまで回遊していた『シアー・ハート・アタック』がチンピラに突撃する。それをチンピラの式神が庇う。「マスター！ 危ない！」

『自爆』

自分の命と引き換えに直接魂にダメージを与える大技『自爆』によって式神が倒され、直後にチンピラからMAGを引き出して『シアー・ハート・アタック』が復活する。

☒今ノハ ニンゲン ジャネー。 コツチヲ ミロオー☒

「な、て、テメエ!!」

「あーあ」

もったいないことをする。 どうせ倒れるならチンピラだけでもいいだろうに。 どうせ結果は同じだし。

チンピラの腕に輪切りの黒ゴムの足跡のようなものが次々とくつつく。 そして一瞬にしてチンピラがカラカラに干からびる。 密輸課への攻撃行為に反応した契約式神『ハイウェイ・スター』の仕業である。

「で、キミたちは大人しくしていてくれる?」

奥にいた少年たち話しかける。 素手の少女式神はこちらを警戒しているが少年は困惑したままだ。

「何が……おきたんですか?」

「端的に言えばこいつらが君の装備売っぱらってボクに罪を被せようとしただけだね」

珍しくもない事である。 いや、契約式神への対策を何もせずに行うる辺りは逆に珍しいか。

「そんな……色々教えてくれた優しい人たちだったのに」

「騙そうとする人は優しく近付くさ」

詐欺師でございって顔で近付く詐欺師なんてのはフィクションの中かもしくはとびきりのアホである。 そもそも少しでもレベルがあれば文字通り桁違いの額を稼ぐデビルバスター業界で初心者の安い装備を手間ひまかけて盗むのはアホのやることだとは思う。

普段は略式で連合内司法に預けるが今回は少年につきあい判決を見届ける。 暇だったのだ。

『初心者スタートダッシュキャンペーン』をやっていることからわかるようにガイア連合では初心者を手厚くサポートしている。「どんな界限も新規が入らねえと先細りしちまう。 初心者は丁寧に沈めねえとな」とは発案者のキースニキの言葉である。

初心者への詐欺というのはそのガイア連合の方針に喧嘩を売るようなものだ。 キツチリケジメをつけることになるだろう。

ちょうど昼時なので少年と一緒にランチを食べる。今回は『スペシャルガイアカレーうどん』だ。ガイアカレーによるカレーうどんというだけではなく、丼の底に米によるドームが築かれておりその中には濃厚なカレーが封印されている。カレーうどんとカレーライスを詰め込んだだけではなく好きなタイミングで味変できるというスペシャルな代物だ。

「売られた装備の追跡できたよ。大盾はいい値段するけど、買い戻せそう?。」

「いや、これは無理ですね」

あのアホたちからは資金の回収は難しいだろう。長期的には返してもらえても今大盾を買い戻す役にはたたない。

とはいえ少年の式神『謎の式神 S』^{シールド}にはあの大盾は必要である。

「では本物マスターニキ」

「俺のことですか?」

「うん。キミたちの行こうとしていた異界と一緒に攻略すれば買い戻しの目処はたてられるから行ってみない? その間の盾は貸してあげる」

「よろしくおねがいします」

では人手を募るか。さすがに実質戦力ジョーズマンオンリーはキツイし知り合いに本物マスターニキを見せたい。

「本当に人類最後のマスターそのものですね。型月知識はないんですけどっけ」

「はい。セイバーとかアーチャーがいるってことくらいしか。」

「そんなに俺はそのキャラに似てますかね」

「似てるんだけど主人公キャラだからね。特徴が薄めだから言われなきやスルーしてますよ」

モフモフスキーニキから見ても似てるか。黒髪で特徴の薄い髪型で令呪もないから気付きにくいだが、タケノコニキが作った『謎の式神 S』^{シールド}のおかげでわかりやすくなってる。

「そのキャラは知りませんが、初心者ならばフェニックス様の信者になるのがオススメですよ」

「けっこうです」

不死鳥推しネキは相変わらずである。とうとう先日加護を貰い直したそう。『スキル名』不死鳥の加護』で大丈夫すかね。最近の子のセンスとかわからないんで横文字並べようとしたらハトホルに止められちまったんで一旦イナバニキさんに相談しようかと思って」などと長神託をくらって夢の中で疲れたのでその辺の裏話は本人よりもよく知ってる。

「で、マ、いやこのシールドーさんにこの盾持たせるつもりかな」

「家に飾ってても使わないしね。この千年の盾」

中央のウイジャドの眼がオシヤレポイントな大盾で防御力に関しては一級品である。

「シールド展開。前に出ます」

シールドーが前に出るのに合わせてモフモフスキーニキが大盾の後ろにまわり、怪鳥からの魔法をシールドーが受け止める。

「ナイス、怪鳥は任せてください！」

不死鳥推しネキが両手のトンファーを回転させながら大盾を乗り越える。複合スキル『不死鳥の加護』の効果の1つで武器に不死鳥の翼としての属性を与えてあるので飛行を連想させる行為、つまりトンファーの回転によって空を飛ぶことができる。

そのまま怪鳥に突撃、トンファーかかと落としによって怪鳥の体勢を崩して『アギラオ』で追撃する。トンファーは盾であり飛行する翼であると同時に魔力を増幅させる魔杖でもある。威力は十分だ。

飛行する不死鳥推しネキに気を取られた鬼たちにモフモフスキーニキが襲いかかる。右手に日本刀、左手にリボルバーを持ったガン・カタナスタイルのモフモフスキーニキによる6連撃『せつなさみだれまつり』によってオーバークルされる鬼たち。本来は初心者チームで攻略しようとしていた異界でモフモフスキーニキは強すぎたか。

本物マスターニキは『ディア』を使えるので温存、という名目でボクと一緒に見守り体制である。働かないことも仕事のうちだと教えているのだ。けしてサボっているわけではあんまりない。

「私の強さですか？ フェニックス様への信仰心です。どうですか貴方もフェニックス様を信仰してみませんか？」

「いえそれは」

休憩中に本物マスターニキが不用意に不死鳥推しネキに質問して勧誘されている。とはいえ注意は必要か。

「本物マスターニキ。まだ認識が古いな。そのままだと危ないよ」
「どういう事です？」

現代において火や水の中に神を見いだす者は少ない。あらゆる事象が科学によって解体され検証されたことによって神の地位は脅かされてきた。もはや運命のように科学の外の領域でしか神の存在は信じられなくなってきたのが現代社会だ。

しかし現在のオカルト界限においては話は異なる。神は実際に存在しており、異なる神話が並行して成立しているのが大前提だ。それを認識せずにいるとどこぞの神話の勢力にコロツと取り込まれてしまう。確固たる信念によるものでは無く神が見えないからこそその無神教であり、神の存在を証明されれば流されてそれに従ってしまう人は多い。

「現在の神の在り方はアイドルグループに近いね。」

例えば不死鳥推しネキはエジプト神話というアイドルグループでフェニックスを単推ししてる。グループでトラブルがおきてメンバーが欠員中と。

メシア教なんかはソロ活動アイドルだけど、名物マネージャーやスタッフにもファンがいる感じかね。

対立したり敵視したりはするけど他のアイドルの存在自体を否定はできないパワーバランスよ」

「わかるようなわからんような。」

ああ、今の俺はアイドルに興味が無いって言ったら友人が自分の推しを勧めてきた流れなんですね」

そのとおりでございます
「イグザクトリー」

見かけた変人を語るスレ part 274

175：名無しの転生者

フアーマード・コアニキも見慣れればかわいいもんよ。
人斬りガトリング齋ニキよりは親しみやすい

176：名無しの転生者
たまに緑に光ってるけどな

177：名無しの転生者
それはマズイ奴では

178：名無しの転生者
新しく仲良くなった新人の本物マスターニキです

【本物マスターとシールダーが並んだ写真】

179：名無しの転生者
おいおい本物ってなんだ本物だあああ!!

180：名無しの転生者
?!?!?!?!

181：名無しの転生者
これはまごうことなき本物マスター

182：名無しの転生者
つまり俺たちは偽物マスターだった？

183：名無しの転生者
しっかりしろ

184：名無しの転生者
イヤじゃイヤじゃワシのシキガミちゃんを渡しTONIGHT

185：名無しの転生者
人理焼却されていた？

186：名無しの転生者
ガイア連合Ⅱカルデア説

187：>>>178
混乱してて草生える

本人は型月知識無いし人の物を取る気はないそうなの。
式神はタケノコニキの仕業よ

【運命構図の本物マスターとシールドダーの写真】

188：名無しの転生者
よく見たら盾が千年の盾じゃねえか

189：名無しの転生者
運命ネタ振って困らせないようにってことネ

190：>>>178

【運命構図の本物マスターとジョーズマン】

【同上のもこたん】

【同じくイナバシロウサギ】

191：名無しの転生者
カオス

192：名無しの転生者
そこに3匹のサーヴァントがいるじやろ？

193：名無しの転生者
何だこのサメ！

なんだ妹紅か

なんだこの巨大ウサギ！

194：名無しの転生者

そもそも何故千年の盾

195：名無しの転生者

何でカルデアに千年アイテムがあるんだよ！

教えはどうした教えは

196：名無しの転生者

円卓持つてないとか失望しました。ハベにやんのファンやめます

197：名無しの転生者

最後のマスターに似てるだけで知識とか縁とかない別人つてこと
でおけ？

198：>>>178

おけ

円卓の盾は回収できたので次からはちゃんとしたシールドのは
ずよ

ちなみに式神は『謎の式神S（シールドー）』なので間違えないよう
に

199：名無しの転生者

サーヴァントユニバース産じゃねえか

ガイア式交渉術・力

それは雪ダルマと言うにはあまりにも大きすぎた。

黒く、赤く、ジャアクだった。

それはまさに巨大『ジャアクフロスト』だった。

ことの始まりは陸将殿がガイア連合に国へのクーデターの案を持ちかけてきたことだ。原作を知ってる身としてはゴトウ部隊のクーデターⅡ真Ⅰ開始なので断固拒否である。

クーデターを言い出した原因は陸将殿がオカルトに関わるようになって国の不甲斐なさを直視したからだそうだ。ゴトウ部隊がこれまでに絶望的なレベル差のある悪魔と出会っていないことも原因の一つだろう。

人数や連携で埋めきれないほどの『個の暴力』を教えると共に改めて組織の上下関係を叩き込むために始まったのがこの『ゴトウ部隊VS ショタオジ』の絶望的な演習である。ガイア連合の人間なら全力で逃げてるところだ。

一応ゴトウ部隊の勝利条件がかなり緩く設定されているが、ガイア連合内でのトトカルチョが不成立になったくらいの勝ち目の無さである。ちなみに自衛官ニキは強制的にゴトウ部隊での参加である。

結果は見事なまでのショタオジの完封勝ち。力によって条件を飲ませるガイア式交渉術・力によってゴトウ部隊の手綱をガイア連合が管理することに成功した。ちなみに他にもガイア式交渉術・技(術)やガイア式交渉術・金も存在する。

なお副次的な効果としてガイア連合内での自衛隊への対応が優しくなっていたりする。ショタオジにやられた仲で親近感を得た者、ショタオジに蹂躪されたとはいえその戦闘能力(特に対人戦能力)を見直した者などが増えたのだ。

中には「自衛隊アランチの無覚醒転生者俺♂がデモニカ訓練行ってみたwww」と実況スレを建てた男がゴトウ部隊の優しさに触れゴトウ部隊箱推しになった珍事態も起きてたりする。オタクに優しい陽キャで自分を護ろうとしてくれる姿にコロリと堕ちたのだ。ガイ

ア連合の人間であつても護るべき市民、特に無覚醒ならば尚更だと言われ、スレ主の心の奥の乙女心に火が点いた時はスレも大盛り上がりだった。流れが速すぎて追うのが大変だったのでよく覚えている。

そんなこんなでシヨタオジが試験的に使用した『巨大ペルソナの影響を各地で調査し、ペルソナ使い幹部でその報告会が行われた。その結果はほぼ影響なし。』

集まったからついでにペルソナ使い合同訓練行おうぜとなり、武闘派ペルソナ使いたちがぶつかり合っている。ボク？ スライムニキと一緒に端で見学ですがなにか。

「見学なのはいいけどそのプラカードは何？」

「タルタロスのメンバー募集」

『攻略メンバー募集!!』『装備アイテム報酬は応相談』『やりがいのある仕事です』と並べられたプラカードを掲げて座り込んでいるなう。戦闘力の高いシヨタオジと人望のあるスライムニキの近くで座っているのには意味はない。ホントダヨ。

実際のところ今回の合同訓練に参加しているのはペルソナ使い幹部とその仲間、あとフリーのボクくらいなものだ。わざわざこんな募集に応じる奴はいない。

『巨大ペルソナの影響の調査でタルタロス周辺調べなきやいけないんでタルタロス行けないっすわ。いやー残念だなあww』と影時間にハム子ネキと会うたび煽ってたから、頑張つて勧誘はしてましたってポーズしとこうかなって」

「なんでイナバニキは虎の餌皿で昼寝するような真似ばかりするの」
どうせ他のペルソナ使いと会うと仲間欲が高まるから煽つても煽らなくても結果は同じ。なら煽れるだけ煽ったほうがお得かなって。

ちなみにこの合同訓練が終わった後はほとぼりが冷めるまで旅行に行く予定である。まあ3日もすればなんとかなるでしょ。ハッハッハ。

「戦闘力がないとこういう時もどかしくなるよね」

「では今回練習してきた新技をお見せしましょう」

ててこてこ数歩スライムニキから距離をとり、ペルソナを呼び出

す。イナバシロウサギに自身のMAGを大量に流し込みつつペルソナ内に留める。

「いくよ『ハリボテ ダイマックス』！」

一定量のMAGが溜まるとポケモンのダイマックスのようにミョインミョインと巨大化する。その大きさに離れて訓練していた人もこちらを見る。

「おおー、シヨタオジの巨大ジャアクフロストみたい」

「あれを参考に考えたからね。あれと違って戦闘力ないハリボテだけど」

強力なパワーを得た結果巨大化したジャアクフロストとMAGで膨らませただけのイナバシロウサギでは見た目は近くても根本的に異なる。巨大ロボットとアドバルーンだと思っていたきたいたい。そもそも巨大化の維持でスキルを使えないくらいいっぱいはいないので戦力的には通常形態より落ちている件。

「いやでも凄いよコレ」

ポンとスライムニキの手がイナバシロウサギの足に触れる。あつ。

ボシューと触れた部分からMAGが噴き出たのをキツカケにイナバシロウサギのあちこちからMAGが噴出し、みるみる姿が小さくなり、最終的に通常形態となりぶつ倒れるイナバシロウサギ。

ついでにその反動でぶつ倒れるボク。流星に負荷がデカすぎた。

「しっかりしろイナバニキー！」

「うう、撃墜マークはスライムニキのところをお願い……がくつ」

「イナバニキー!!」

「えっ、『最後にタルタロス攻略に行きたかった』って言ってなかった?!」

ハム子ネキ? 流れるように遺言を捏造するんじゃないやありません。

ホワイトボードのスライムニキの横にゴテゴテバカデカ撃墜マークが貼られ、ボクはスライムニキが銃の訓練をするのをシヨタオジと共に見学。チューインソウルを膨らませるのがうまくいかない。

「メシア教のペルソナ使いの様子はどうなの?」

「週末デビルバスターだったのが仕事辞めて専業デビルバスターになつたらいいですよ。元気に悪魔を殴つてるみたいです」

シヨタオジと雑談しながらスライムニキを冷やかす。もうちよいち右右、あつ行き過ぎた。

銃というのは対人間に特化した武器だ。必然仲間に誤射しないように細心の注意を払う必要がある。悪魔との戦闘中に連携で使えるようになるためには周りの声に惑わされない集中力が求められる。

なので雑談に惑わされるようではまだまだだ。心を鬼にして雑談を続ける。けしてからかっているわけではない。

「イナバニキは銃を使わないの？ ペルソナ側の影響とか？」

「うーん、終末後の弾薬の安定供給とか色々気になるところがあるんですよね。」

あと心のモラウ師匠が『テメエの足より遅い飛び道具持つてどうする』ってダメ出ししてます」

「下手すれば自分の撃った弾に後ろから追突か。何とかマネケな光景だね……」

それが死因とか死んでも死にきれねえ……。

その後、3日間各地に旅行に行ってきたボクは4日目にドルイド土産をハム子ネキに手渡そうとしたところを捕獲されたのであった。弁護士を呼んでくれ。

命の洗濯

「正面3体、20。右1体、30。左2体、25」

「右だけ電撃無効であります」

『警戒』スキル及び『マップ』スキルとリンクした簡易レーダー『スカウター』からの情報を伝え、アイギスが情報を補足する。

「右を10秒足止め。頼んだよイナバニキ」

「へーい」

右の通路を単身駆ける。巨人型のシャドウの攻撃を躲し、背面に抜ける。シャドウが振り向くと同時にペルソナを使う。

『トラフリー』

振り向いたシャドウの背面、つまり元いた場所に瞬間移動する。

『トラフリー』の処理は戦闘離脱だがその方法は個人差がある。ボクの『イナバシロウサギ』の場合は短距離瞬間移動+瞬間的な認識阻害である。「コップ持って台所来たけど何しに来たんだっけ」と同じ現象を一瞬だけ引き起こすのだ。

わざとドタバタと足音をたてながらハム子ネキに合流する。

「いらっしやーい」

既に他のシャドウは蹴散らされ、にこやかに薙刀を構えたハム子ネキが巨人型シャドウを歓迎する。あつ、クリティカルした。

「総攻撃チャンスだよハム子ネキ！」

「袋だたき始めっ！」

「うりやうりや」「やつちまうであります」「突撃です」

ハム子ネキのシキガミたちとジョーズマンやイナバシロウサギと共に倒れたシャドウを袋だたきにしてトドメをさす。

「あ、次来た。正面2体、25。左2体、40」

「全員火炎弱点であります」

「左を引っ張ってきて。まとめて焼くよ」

「はいよー」

相手に見つかるようにペタペタ近付き、シャドウたちの攻撃範囲に一瞬入ってから引き返す。よしよし食いついた。

速に特化しているとはいえ、ふたまわり以上レベル差のある相手だ。昔のスパロボのように運動性だけで回避し続けられるものではない。回避が続けば隙もできるし、敵も威力を下げた確実に当てにきたり範囲攻撃で避けづらくしたり連続攻撃のコンビネーションを仕掛けてきたりする。初撃は確実に回避できるが、それ以降を打たせない立ち回りが重要なのである。

ボクの方法は単純だ。初撃を避ける際に相手の攻撃射程から一歩外へ抜け出すことで物理的に当たらないように立ち回っている。今回はその応用でシャドウの射程の一步先を維持することでシャドウに追わせ、もう片方のグループと同時にハム子ネキの元に着くように調整するのである。

ササツとハム子ネキの背中に隠れて2グループ分の敵を迎撃する。ハム子ネキ、あんな奴らやつちまってくだせえ。

「タナトスー！」

『マハラギダイーン』

敵、一掃。すごい。お疲れ様でした。帰還しますか？

「周囲に敵影無いなら前進よー」

「そんなー」

「と、この3日間大変だったんですよ」

プンスコ怒りながらシャンプーを泡だて頭から背中へと広げている。愚痴を聞いてくれている木刀侍ニキが呆れた顔をする。

「いや、それだけレベル離れたパーティとか普通は死と同義だからな？ 生き残ってるオメーもおかしいが。」

生き残れるなら小判鮫作戦したほうがレベル上がりそうだが「ラッキーパンチ1つで命が散る環境は勘弁な」

速運特化の欠点である。レベル不相応な場所についていけないが油断や不運1つで全てが終わる。当たったら死ぬ宝くじとか引きたくはないのだ。ボクは手頃な悪魔を狩って安全に出世レベルアップしたいんだよ。

泡を前足後ろ足に広げ、ひっくり返して腹も洗う。

「というわけで誰かタルタロス行けそうな人いませんかね？」

「いねえなあ。というか死タレットロス地行かせるくらいなら手元で育てるかスライムニキのところに預けるわ」

「ですよー」

ザアーとシャワーを浴びせて泡を流していく。毛元に残らないようにワシワシと毛に指を絡める。

「何でお前は自分のペルソナ洗ってんだ」

「ほら、風呂は命の洗濯って言いますし」

「自分の精神取り外して丸洗いしてんのはミサトさんも想定してねえよ」

ハツハツハ、そんなバカな……。

温泉からあがり、木刀侍ニキと雑談を続ける。

「未だに散髪に来たのにマツカ貰うのは慣れんよな」

「わかるー。各種素材に使うらしいけど」

「下手に地元で切って変なところに流されても困るからガイア連合でしか切れないのがマジ不便」

木刀侍ニキは妙な縁からとある地方支部を担当している男である。消滅寸前の地元霊能組織を救ったこともあり、なかなか徳の高い男と言えなくもない。敬意から地元組織に変な暴走される可能性も否定できないのだ。

「定番はあれね。クローンとして産まれた木刀侍ツーの逆襲」

「誰が産んでくれと頼んだ」

「もしくは数年後に見知らぬ少女による『ゆーあーまいふあーぎー』」

「ノオオオオオッ！」

互いにゲラゲラ笑う。メシア教じやあるまいしクローンはねえよ。いやもしかしたら？ あつたら鼻から pasta 食ってやるわ。

そんな話を続けながら木刀侍ニキのレベリコベリング練に付き合う男女一組のチームを待つ。ちなみに散髪で得たマツカはお弟子さんへの土産に使うそう。

「そーいやお弟子さんの連絡先知ってるわ。」

ウサギ：木刀侍師匠とたまたま会ってるなう

お弟子：師匠の様子はどうですか？

ふむ。師匠なら体売ってお弟子さんへの土産を買おうとしてるよつと、痛い痛いなぜアイアンクロー（プロレス技のほう）をかけてくるんだ木刀侍ニキ！

「内容が口から漏れてるんだよなあ、オイ」

「誓って嘘はついてないよ」

「四の五の言わず消せ」

「ハイ」

送信前に渋々消す。アイアンクローが解かれる。頭蓋骨が変形したらどうするんだまったく。

しょうがないので別の内容を送る。

えーと、木刀侍ニキなら激しい運動をするために女の人と待ち合わせして痛い痛い何をするんだ！

「本当に変形させたらうかオメー」

「……………男の人と待ち合わせのほう良かった？」

「よっし。思いつきりいくからなー」

ギリギリと力を強めてくる。なんてことだ。木刀侍ニキが暗黒面に堕ちてしまった。

だが捨てる神あれば拾う神あり。助けの手が現れた。

「何やってるのさふたりとも」

「あんまり支部内で暴れないようにね」

今回木刀侍ニキと組むコンビ。デモニカドラゴンニキと事務スナイパーネキだ。タスケテー。

「こんなJCに背を抜かれる小さい子を虐めちゃ駄目だよ」

「そうだよこんな貧弱な子に何するんですか」

オイ援護射撃がボクの背中当たってんぞ。

「しつかり、自分が苦しいときは相手も苦しいんだ」

「女の子に腕力で負けてるからって諦めないで」

お前ら男の泣き顔そんなに見たいのか。思いつきり泣いてやろうか。

メンバーが集まったからには遊んでる暇はないと解放される。木刀侍ニキは地方を拠点にしてるのであまり時間に余裕がないのだ。

やめろよオメー絶対に変なこと書くなよやるなよ絶対やるなよと念押しをしながら木刀侍ニキが去る。ガンバレー。

ウサギ：木刀侍師匠に見つかってあれ書くなよこれ書くなよと叱られてた

ウサギ：弟子の前ではカツコつきたいんだねえ

お弟子：師匠……

嘘はついてない。個人の感想です。

メシアンの聖戦 仁義なき接待費編

「シールダー忍法 ラウンド 円卓ブーメラアン!!」

式神が大盾を投げ、天使たちを薙ぎ払う。私はその隙をついて天使の脇腹に左拳を叩き込み右手で肩を掴んで位置調整して他の天使たちに蹴り出す。これで何体かバランスを崩した。左手首に仕込まれたホルダーからカードを引き抜いて握り潰す。

「頼んだよペルソナア!」

私のペルソナ『シャーロック・ホームズ』が右手の杖で『デスバウンド』を天使のグループに叩き込む。

次の獲物を探して視線をずらすとジョーズマンが赤熱化した背ビレで大型の天使を切り裂いていた。シールダーと呼ばれていた式神が投擲した大盾を空中でキャッチしてそのまま攻撃に移る。

なおそのマスターたちはというと、一人はデビルスリープのカードを握ってソワソワと見守りもう一人は完全に観戦のノリである。

視線を戻すとマグネタイト不足でスライムと化した天使がこちらに向かってくる。頭の中でスイッチをバリツから教会式戦闘術に切り替える。

護身術バリツに限らず武術は基本的に人間に対して最適化と研鑽をされている。虎だの大蛇を相手にできるのは応用が効くからに過ぎない。まあ、虎専用対処法や対巨人秘奥義などを伝えられても使い所がなくて困るだけだろう。

だが視線によるフェイントや錯覚を利用した攻撃、人体の急所への的確な攻撃は悪魔に対して必ずしも有効という訳では無い。概念的に人間を模した天使や悪魔ならば効きやすいが、有効打のつもりで打った手が有効でなかった場合、それは致命的な隙となってしまう。

そこで私がかじったのが教会式戦闘術である。教会式戦闘術は攻撃すべき場所を見極める観察眼と一撃の威力に全振りの豪快な攻撃が特徴だ。人間相手には原始的な技術だが悪魔に対しての汎用性ではこちらが上だ。

「シャオラッ!」

スライムのマグネタイトの流れを見ることで核となる部分を見極め貫き手でぶち抜く。スライムになった時点で動きが鈍かったのですんなりと倒せた。

ジョーズマンの口から放たれた熱線が横薙ぎに払われ天使を一掃する。

「戦闘終了です。お怪我はありませんかマスター」

式神たちがマスターと合流する。私はパンパンと手を叩き手を組んで一礼する。

「アーメン」

「前々から思ってたけどホントにロックはメシアン？」

「どこに疑問に思う点が？」

「二拍一礼と混ぜてる時点で怪しいかな。あと天使相手でも躊躇しないしね」

「どんなに可愛がってるぬいぐるみでも『ニンゲン、クロス』ってなったら壊すのに迷いはないですよ？」

変なことを聞くイナバさんだなあ。一般人の仏教への関心と同じくらいの信仰心はありますよ。

突然だがこの世界の日本に神はいない。いや神は死んだとかその辺の話ではなくただの事実である。

正確には人を助けられるほどの神は現在メシア教によって封印されてしまっている。大戦時にアメリカの要人を呪殺したことで戦争にオカルトが介入しない紳士協定に違反したとみなされ、報復に霊能者の処刑と日本神の封印をされたと某ネコマタから聞いた。

個人的には超遠距離ピンポイント呪殺『TATARI』にびびった米国が口実付けて徹底的に潰した説を推している。紳士協定と言っても国が滅びるかどうかの時にオカルト業界のみが不介入でいられるとは思わないからだ。

事実ちよび髭さん達が大戦末期にオカルトに手を出していたことは表社会にすら認知されているがスルーされている。

太平洋越しに呪殺してくるのは普通に怖いもんな。わかるよ。

ちなみに日本神が封印されたことによる表社会への影響は、実のところそんなに無かつたりする。

元々日本は八百万の神の国でありその全てを封印することは難しく、プラモが世にできればプラモの神が生まれ暴走族が流行れば暴走族神^{ソクガミ}が誕生する新しい神の生まれやすい国である。封印を逃れた強力ではない神々は微力ながら日本を支えていたわけだ。

そのうえ元々神無月で神々が地元を離れる関係上神の留守を前提としたシステムとなっている。さらに言えばトツプ二柱が神話的引きこもりと神話的空気な存在である。

ただしその反面、裏社会、オカルト業界は悲惨であつたらしい。

無才の者だけが残され神々の留守電システムを頼りにだましましたまし何とかやつていき、もう限界もうダメだサヨウナラというタイミン^グで突如発生した謎の武装霊能集団によって救われることになる。ガイア連合っていう怪しい連中らしいですよ？

何故そんなことを言い出したかというところ、今回はその封印を自衛隊（というかゴトウ部隊）と共同で攻略するための前線基地となる霊地を確保するのが目的だからだ。

なんでも管理していたメシア教天使が謀さ——ゲフン天にお帰りになる前にセキュリティを起動していたそう。余計な真似を。

この話を持ち込んできたロックとたまたま近くにいた本物マスターニキとで攻略することになった。

セキュリティとして扉を開ける際にメシア教に関する問いかけがあり、それに間違えると霊脈を使つて天使を大量召喚してくる仕掛けだそう。何度も間違えていくとその分霊脈は消耗し、前線基地として使えなくなってしまう。

しかし正解した人はメシア教徒として認定されていきコントロールルームに入る際一定以上正解していた者には祝福がされるそう。ホントろくでもない。

一応メシアンのロックに回答させ他は問いかけを聞かないように耳栓をするプランになり、知識の怪しいロックをサポートするために通信でモルモットニキの式神のタキオンがホワイトボードで正解を

教える完璧なプラン……のはずだった。

「なのに何で天使が召喚されたんですかね？」

「いやこの画面見てくださいよ。ワタシワルクナイネ」

本物マスターニキと共にロックの端末を覗き込むとドヤ顔でホワイトボードをこちらに向けるタキオンと袖で擦れてグチャグチャになった文字。

「勝負服のあの萌え袖で書けば、まあそうなりますよね」

その袖引きちぎってしまえ。もしくは星1時代の勝負服に着替えてこい。

『しようがないなあイナバニキは』

「ドラちゃん方面に寄せるんじゃないやありません」

着替えるために画面外にタキオンが出ていく。

「ちなみにどんな問題だったんですか？」

「えーと、四大天使の名を挙げよ、でしたね」

最初の扉だからかやたらと簡単な問題である。あれ？ 天使出てきたってことは不正解？

「文字が読めなかったので自力で答えたんですけどねえ。」

ミカエル、ルシフェル、ルシファー、ベリアルって。

どれも間違いだったんでしょね」

「その不正解が1つだと疑ってないのが凄いですね」

真つ当な天使のほうが少ない件。

「でも仏教徒の一般人は四天王の名前を答えられないじゃないですか。それと同じですよ」

ちなみにロックのペルソナ『シャーロック・ホームズ』も神学には疎かったりする。ホームズの場合要らない知識は邪魔になるのですぐに忘れて必要なときに調べなおすスタイルだからだ。

汎用勝負服に着替えたタキオンによってサクサクと探索が進む。あくまでもメシア教以外に対してのセキュリティなのでメシアンで日本支部からの正式な許可を得ているロックがいれば問題ないのだ。初手が例外案件だった。

コントロールルームの扉が開き、何やら祝福の光がロックを包む。中に入りロックが権限を書き換えセキユリティを正常に戻す。

「へいパース」

パースパース。

ロックが放り投げてきたカギを本物マスターニキに投げ渡す。

「何ですこの鍵」

「この霊地の管理証ですね。ガイア連合さんが持つてる方が面倒がないので」

持つて帰ると管理責任がある代わりに報酬に色がつくよ。

そうささやくと本物マスターニキは葛藤し、最終的に持つことに決めた。

「ところであの祝福ってどんな効果だった？」

「魔のステータスの上昇の祝福でしたね」

「あれ、ロックさんって魔法使いましたっけ」

「ほぼ物理オンリーですがなにか？」

一応オートカジャ系に効果はあるし魔法防御も高くなるので無駄ではない。無駄ではないけどコレジヤナイ。

「あらあへをあむあべ唐揚げと厚揚げ、

おつみがうもいあなぼりやくどつちが強いかわかります？

「まつかんだみさかあわっかんないかなあ」

「何言ってるかわかんないですね」

なんて言ってるか分かってても意味のあること言っていないから安心しな。

ガイア系列の覚醒者向け飲み屋『バーボンハウス』で打ち上げ会である。未成年の本物マスターニキはノンアルだがその分食べていってくれ。会計はロックがもつ。正確にはメシア教日本支部に接待費として請求するらしい。メシア教のサイフポイントにダイレクトアタックすると思つて食べ食べ。

さつそく浴びるように呑み、できあがってしまったロックの独り言だかこつちへの会話だかわからない物を聞き流しながらじゃんじやん注文する。

しばらく飲み食いし、そろそろ解散を視野に入れた頃に注文したイワクラの水を飲み干したロックが真面目な顔をする。

「実はイナバさんに頼みがあります。」

日本神の封印異界攻略にイナバさんに参戦してもらいたいんですよ」

うん？ 元々空いた時間に顔だそうとは思ってたけど、メインで入れって話？

「順を追って説明しますね。」

まず、日本神解放の許可って正式にはおりてないんですよ」

施された封印を解くには相応の理由が必要である。憲法や制度と同じで変えるための名目、話を通すだけの政治力があって初めて行えるのだ。

封印を管理しているメシア教米国支部（の過激派）の勢力を説くには日本支部では力不足だ。メシア教から見れば日本支部は僻地の左遷先もいいところである。

そこで日本支部は封印異界の難易度について挑発し、「やれるもんならやってみろ（意識）」という言葉を引き出したのだ。

「で、向こうの政局なんかを計算したところ向こうが様子を見に来るまで最短で一月。」

この先を4パターンに分けて話しますね。攻略の目処が立たない場合、目処が立ったが攻略途中の場合、1つクリアして次の封印異界に挑んでいる場合、複数クリアしている場合です。

目処が立たない場合、これは話から除外していいでしょう。この段階で燻るなら封印解放は諦めたほうがいいです。

攻略途中の場合、過激派が途中で見に来てこのまま行くと解放されるぞと判断した場合、過激派はどうアクションするでしょう？

ハイ本物マスターさん」

「え？ えーと、妨害する？」

「正解です。花丸あげちゃいます」

本来は日本神の封印はメシア教の他国制圧のモデルケースとなる予定だったそう。成果ががらぎらず封印にかかるコストの大きさか

ら本流からは外れたものの封印の強固さは過激派自慢の逸品。

そんなものが僻地のローカル組織に解放されたとなればメンツが潰れる。直接間接表裏どう妨害してくるかはおわからないが面倒なことになるのは確かだ。

「よほど下手打って遅れなければこの2つは無いでしょう。」

さて、1つクリアしている場合です。

この場合はどうアクションするでしょう?」

「攻略されたから諦めるか他の封印に手を回す?」

「いえいえ、政敵に責任を押し付ける、ですよ。」

向こうからすれば『解かれそう』なら止めに入りますが『既に解かれた』ならその事実を利用するだけの話です」

日本神の封印は日本からすれば現在進行系の問題でも封印し終えたメシア教から見れば過去の話である。封印自体に固執するほどの執着は無いわけか。

「そして複数クリアしている場合。これはイナバさんが頑張った場合です。」

この場合は政争に利用する以前に疑心暗鬼になる案件です。

ガイア連合の能力を知らない向こうの過激派からすれば、封印の詳細を知っている過激派の一握りの中に日本支部に情報を売ってるやつがいるようにしか見えませんか」

向こうから見て有り得ない速度で封印を解かれた場合、突然霊能の天才集団が生えてきたと考えるより封印の詳細を誰かが流したという方が自然な考えだろう。

神々を封じるレベルの封印術の詳細を教えるということはメシア教の技術のキモを教えるのに等しいレベルの裏切りである。

とはいえボク関係くない?

「いえ、嫌なヤツを存在しない犯人を求めて右往左往させるというイタズラに参加しませんかってお誘いです」

オイオイ、日本神の救出ともなれば日本男子の誉れ。我こそはと名乗りを上げるのもやぶさかでないじゃないか。なあ本物マスターニキ。

「イナバさんのそのノリ好きですよ」

「よくそんなポンポン言葉が出てきますね」

会計を済ませ、ロックと別れる。一応生物的には女なのでスタンダムくんにごつそり護衛させる。何事もなければ帰っておいで。

「大丈夫なんですかイナバニキ」

「見ての通り余裕よ」

「見ての通りだと塀に体重預けて60度ほど傾いてるんですが」

まだまだ大丈夫大丈夫。

「聞いたのはメシア教と仲よくしたら危険ってほうです」

「ああそつちね」

ロックはメシア教というよりメシア教とコネのある外部協力者に近い扱いだ。そしてもうひとつ。

「日本支部はガイア連合の損になる行動はしないし、紛らわしい動きもしないよ。李下に冠を正さずってね」

色々と恨まれている立場のメシア教日本支部がガイア連合と手を組んでいるのはガイア連合の利になる行動をしているだけでなく切られる理由を作らないように立ち回っているというのが大きい。

もしもガイア連合、特に黒札に害をなすようなことがあればたちまち日本支部の立場は悪くなり排斥されるだろう。しかしそんなマヌケな真似をする連中ではないし、そういった案件もなしに一方的に日本支部を切ればガイア連合の政治的立場が厳しくなる。ならば利用するだけ利用した方がお得だ。

「でも身内がメシア教に取り込まれたって話も聞きますよ」

「それは身内にちゃんと説明してないことによるピタゴラスイッチだね」

同盟者の身内の安全を確保する。安全を確保するためには親しくあったほうが動きやすい。有事があったときの備えにオカルト業界の状況を『自分の情報で』教える。

つまりはメシア教のフィルターをかけた状態でオカルト業界の事を知るわけだ。教えに感化されても仕方ないと思うよ。

覚醒者ならば自分のスキルを見せたり式神を操ったりと超常現象をおこして身内に説明するくらいならできるんだし、ガイア連合にはそれ用のサービスもある。それを怠ったツケがまわったわけだ。

ちなみにメシア教やその他の教えに染まった人間をなんとかするカウンセリングサービスもガイア連合にはあるのでもしも身内が染まったら放り込むといい。成功率は今のところ百パーセントだ。

「それじゃ本物マスターニキおやすみー」

「あ、はい。また会いましょう」

『トラポート』

本物マスターニキに別れを告げて自宅のベッド上10センチの場所に転移する。ジョーズマンあと任せだ。

靴を引っこ抜かれる感覚と共に眠気が襲ってくる。

バカな……頭痛がする……は、吐き気もだ……。立ち上がることもできないだと……。

しょうがないのでペルソナにアマリタストロングソーダを持ってこさせる。

グイツと一口、ゴフツ、炭酸つええ。

効果と共に炭酸まで強くなったせいで戦闘中に飲むのは無理と判断された開発品である。二日酔いにはバツチリだ。

第三回アシタカ選抜人気投票

朝起きて、ご飯食べて探索して、昼ご飯前に探索して、昼ご飯食べてから探索して、おやつ前に探索して、おやつ食べてから探索して、晩ご飯前に探索して、晩ご飯食べてから探索して、寝る前に探索してから睡眠。

「そんな生活を一週間ほど続けてからふと思った。

ボクはあいきゅー？が高いからわかるんだがこの探索頻度はおかしいな？ 直談判してやる。

「霊視ニキー！ この頻度の封印異界攻略はおかしい。みんなに負担が大きいよ」

「安心しろ。そんなスケジュールで探索チームに組み込まれてんのはオメエだけだ」

「なんと。なんでそんな非人道的スケジュールになってるんですか。これが噂に聞く過剰な仕事を押し付けて潰すブラック企業?！」

「そうだな。探索能力が高くてウチの連中ともアイツラとも仲良くしてそこそこ自衛できてガイア連合の動向を読める。単独飛行能力持ちでついでに緊急離脱トラフリーと異界脱出トラエストも自前で使える。

「そんな奴がいたらどうする?」

「ははは、そんな便利な奴は可能な限り使い倒すでしょ。首に縄つけてでも連れて行くべきだと思うよ。それがどうしたのさ。」

「現状認識をしっかりとできていて何よりだ」

「ちくしよう、なんて時代だ!」

「オメーはコントでもしにきたのかよウサギ野郎」

「せんせー、モーさんが言葉の暴力をふるってきます。」

「霊視ニキに会ったんだからついでに攻略の進捗も報告しとく。『マップ』を発動しながらペルソナで空中を叩くことで封印異界の3Dマップを映し出す。本来は異界で広さなどがぐちゃぐちゃなのだが概要さえ掴めればいだろう。比較用にこれまでに攻略してきた封印異界のマップも並べておく。」

「現在踏破できたのは白く光っている所です。これまでの異界の封印

本体と守護者^{ホスキャラ}部屋と同じ大きさが未踏破なので次の探索で自衛隊と耐性ノック、その次で撃破と封印解放って感じですよ」

短時間に多くの場所で神を封印するならば核となる封印パーツは統一規格が使われる。封印を守る異界の出来に自信があるならばなおさらだ。

「封印解放の手筈は？」

「黒札たちが丹精込めて『シズメダマ』を作ってます。

三代目アシタカの選抜人気投票は現在モフモフスキーニキがトップ、デモニカドラゴンニキが追走。本物マスターニキが驚異の追い上げを見せてます。最終投票の締切は正午なのでお早めに」

封印から解放された神は解放者に襲いかかる。50年以上封印されていたことによる飢餓と国や氏子を蹂躪されたことによる憤怒で荒れ狂う荒御魂へと変貌したことによるものだ。解放者への最後のトラップになる辺り製作者の嫌らしさが光る。

そこで大量のMAGを蓄えた捧げ物^{シズメダマ}を献上し、勇士の集団から選り抜かれた猛者^{アシタカ}によって神としての名を問いかけることによって鎮静化させる手段をとることになったのだ。

「黒札ってのはバカしかいねえのか？」

なんてことを言うんだモーさん。彼らに失礼じゃないか。

「そうだぞ。ネーミングはともかくあいつらは真面目にやってんだ」
「当然のように自分たちを抜いて話してるがテメエらもバカのうちだからな？」

大変だ霊視ニキ。モーさんが言葉の暴力に目覚めてしまった。

「いや、聞いたことがある。これは『反抗期』ってやつだ」

さすがは霊視ニキ。ものしりじやのう。

「フフフよせやい」

「マスターはウサギ野郎と居るとアホになるよな」

何言ってるんだ。元々自分の汗の塩で除霊していたような男だぞ。立場とかシヨタオジへの抑えで落ち着いてるだけで一皮剥けば同類よ。

「反抗期といえはウサギ野郎。サメ男はどうした。反抗期で家出か

？」

ジョーズマンならMAG貯蔵箱を背負ってスライムニキの所に出稼ぎと式神超遠距離派遣実験中だよ。

下手に戦力あるとチームに入る時に擦り合わせしないといけないからね。いざという時の身代わり用のスタンドくんだけで十分よ。

あとはいいい加減スライムニキに式神持たせるために式神使用体験をさせてる面もある。省エネのためにスキルは使えないけど、タンク役としてはかなりの性能のはずだ。実際スライムニキから式神のお値段を相談されたからうまくいつてるはず。

「……ジョーズマンって幾らくらいだ？」

式神本体と改造費用とスキルカードガチャと……コミコミで兆円チヨウいったねえ。特にガチャがステータスや加護を弾くようになってから費用がかさんだからね。

「キュークツなガチャから皆が笑顔で爆死できるガチャに」とはシステムシロ制作者のセブンスロードニキの言葉である。全体のレベルが底上げされるほど相対的に幸運ステータスの低い初心者がガチャの恩恵を受けられなくなるから弾く理由はわかるが、「初心者もシヨタオジも平等に爆死する」とはやり過ぎではなからうか。

「それ、スライムニキにそのまま伝えたのか」

もちろん。ボクは正直者ですから。相手が看破できない嘘とか何が面白いのさ。

「ガイア連合ができた当初からコツコツ改造してきたからってのはわかる。俺も相棒に使った額を計算すれば近い数字になるだろうしな。

だがそれ聞いてスライムニキが「よし式神買おう」となる金額じゃないだろ」

あ……。

スライムニキはあちこち世話焼いてる男なのでカンパを募れば……ダメだ。そもそも自分用式神作成にカンパを募れる男ならもつと早くに式神作ってるわ。

そういや金額伝えたら「みがいてから返したほうがいい？」なんてズレた返信がきたわ。動揺してたのか。

そもそも式神を買つても誰かにホイホイ貸し出しそうだから本人と紐付け……したら式神を危地に連れて行くためにスライムニキ本人も危地にとびこみそうだ。あの人そういうことするタイプ。

そんなこんなしているとスマホが次の探索の時間が来たことを知らせる。次は自衛隊のグループとだ。それじゃ霊視ニキまたねー。

「話題がいくつか過ぎたら乗り込んできた理由忘れるとか、アイツは鳥頭なのか？」

「元々ソフトがキツイとかじゃなくてふと自分のスケジュールを見て疑問に思っただけなんだろう。アイツはそういう男だ。」

嫌なことを嫌だと断る奴でなかったらアイツはとつくの昔にタルタロス専属になつてるさ」

いじめめるヤバイ黒札（やつ）

世の中には強者と弱者が存在する。圧倒的強者の前では弱者はただ従うことしかできない。

「おいおい、そんなにゆっくり歩いてたら日が暮れちゃうぞ？」

迷子にならないようにしてやってるんだからちゃんとしてこいよ」

「は、はい」

男女が連れ立って帰宅する光景と言えば恋人同士のいちやつきに聞こえるが、女子高生の首輪とそこから伸びるリードがそれを否定する。リードは極端に短く、持ち主の男子高校生へ頭を下げる体勢でなければ首が閉まってしまう。そんな体勢で歩かなければならないので歩くのが遅くなり、叱責される。

「いくら目印が付いてるとはいえリードはあまり長く出さない方がいい。ペットと横に並んで歩くのは歩道を実質的に占拠してしまうのは意識しとけよ？」

ながーく伸ばしたリードをジョギングや子ども自転車で巻き込ませてしまえば痛い目にあうのは飼い主やペットだけじゃないからなあ。公園などの広いところでなら伸ばしてもよしだ」

喋りながらも早足でどんどん歩いていく男を女は必死についていく。その光景を見ながら同級生たちは噂話をする。

「また転校生があいつにいじめられてるよ」

「転校生も可哀想にな。あいつの親父が議員だからって好き放題してやがる。近所にジュネスできたのはいいけどよ」

「噂だとあの娘の親族がガイアグループのお偉いさんだって聞いたぜ。強引にあいつの家に住ませてるって話さ」

「転校生は家で休むこともできないんだな」

「おかえりなさいませ、若様。」

ガイア連合からのお客様が客間でお待ちになっております」

男は言伝に感謝を伝え、首輪を外して転校生と目線を合わせる。

「お願いします。」

「ガイア連合のお客様の前でだけは、いじめをやめさせて、もらえないでしょうか」

深く深く頭を下げる。

1秒、男にとつては永遠にも思える時間の後に少女から言葉が返される。

「だめ」

ズンと全身に加わる重圧。耐えきれず膝をつく。雪山に放り出されたかのように震えが止まらなくなる。

ガチガチと歯が鳴る男を尻目に女は歩きだす。

「準備してから向かうから先に応接しておいて」

「か、かしこまりました……」

霊能組織としては我が家は大了なものではなかった。悪魔に効く忌避剤によつて異界から悪魔が出てくることを抑制していたが、要は悪魔を退治できるほどの実力を持つ者が居なかつたというだけの話だ。

完全に才能の無かつた父は地方議員を目指し、父と比較すれば才能のあつた俺が修行し、家を継ぐこととなつた。そんななか、異界から悪魔が出てくるようになったのだ。

忌避剤の効果は悪魔や術者のレベルに左右されないが、逆に言えば忌避感を押し殺して無理矢理乗り込んでくる相手には効果がない。

そこで新進気鋭のガイア連合を頼ることとなつた。

ひと目見た時、美しい女だと思つた。その直後に丁寧な挨拶によつてひれ伏すことになつたのだが。

あつさりと異界を潰した女は言つた。霊地の管理人がいなければ再び異界が生まれ悪魔が現れると。私が管理してもいいが、条件があると続けた。

俺たちはどんな条件でも飲む気でいた。例えその場で自害せよと言われてもそれで地域を守るのであれば喜んで従つただらう。そんな俺たち、いや、俺に提示された条件はひとつ。

「あなたが私をいじめろ」

意味の分からぬまま契約し、知らぬ間に大型商業施設兼霊能力者互助施設『ジュネス』の誘致が決まり、いつの間にか彼女が俺の家に住むことになり、俺の通う学校への転校が決まった。

「とうわけで、もう心が挫けそうなんです」

「うーん、なかなかの地獄絵図」

あの御方のいじめさせについてイナバさんに泣きついてみる。ガイア連合からの客がイナバさんでよかった。彼はいじめさせやらないやらの事情を把握しているのでこのあとあの御方をいじめても問題にはならない。何よりプレッシャーが無いのがありがたい。

「どうして俺なんですかね？ いじめられたいならもつと適任者がいるような」

「うーん、そのあたり話していいものかどうか。白髪鬼ネキの事情はシンプルだけど面倒くさいからなあ……」

しばらく悩んだ末にイナバさんはこう切り出した。

「白髪鬼ネキとは関係ない話なんだけど、

ガイア連合の霊能力者たちは霊能とは関係のない一般家庭出身者が多いってことは知ってるよね」

「はい」

一般家庭出身者たちが突然一大勢力として成り上がったという話は聞いたことがある。

「霊能の家に生まれた人からはわかりにくいかもしれないけど、普通の家では霊能力に覚醒した人は異物なんだ。

なにしろ理解できない力を持つてるわけだからね。虐待されたり色眼鏡で見られたりと散々なものさ。

ボクも謂われのあまりないことで奇人変人扱いされたりしたもんさ」

なんと。良識的なイナバさんですらそんな扱いを受けるとは。

「人間ね、そういつた環境にも心が適応してしまうんだ。ストックホルム症候群とかは聞いたことある？」

たしか誘拐犯に対して人質が好意的になるとかなんとか。そんなあやふやな知識なら持っている。

「うん。つまり心を守るために現実を歪めて受け取ってしまうんだよ。」

家庭内暴力に外部から介入した時、被害者が加害者を庇うケースも珍しくないらしいよ」

現実を歪めて受け取る……。例えば、いじめられた子どもがいじめを相手の愛情表現だと受け取るように？

イナバさんがスマホを取り出して連絡先交換の画面を差し出してくる。

「どんな事情があるにせよ刃傷沙汰は嫌だからね。」

もう白髪鬼ネキとは殺し合うしかねー、家や異界の事なんか知ったことかふあつく、つてくらい追い詰められたらここに連絡しようだ。三方一両損くらいにおさめるように頑張るよ。

それ以外だと……愚痴なら返せるときに返す感じかな」

ありがてえありがてえ。いじめることで荒んだ心に人情が染み入る。

「女子高生1人いじめるだけでギアア連合から支援を貰えるってのは破格だから他の家が知れば是非にと手を上げるだろうね。」

それに白髪鬼ネキはギアア連合内でも男性人気が高くて……」

「イナバニキ？」

全身の毛穴という毛穴に鉛を流し込まれたかのようなプレッシャーに押しつぶされる。視界にあの御方の姿が映るが遙か遠くに離れるように意識が離れる。

「やあやあ白髪鬼ネキひさしぶりー」

「彼に変なこと吹き込んでない？ 変な与太話で惑わせたりしてそうで怖いわ」

「そんなひどい」

ふたりの会話が耳をすり抜ける。全身を貫いたプレッシャーによって身体が死んだように重い。いや既にこの身体は死んでいるに違いない。

「ん、あれ、まずいな。あてられてる」

この身体が死んだからにはこの意識も死んであるべきであり死んでいなければおかしい。既に死んでいるのだからこの意識は死体が浮かべているものであり魂は身体から離れて身体に残った記憶ごと燃やしてもらうべき

「えいやっ」

ポンツと眼前で巨大ウサギが猫騙しをする。迷走していた思考が戻り、忘れていた呼吸を取り戻すように俺の身体が激しく酸素を吸う。

「うーん、白髪鬼ネキのせいだけじゃなくて霊的感受性の高さが災いしてるっぽいね。元は巫女系シヤーマンの家系だったのかもね」

ぜいぜいふうふうと荒かった呼吸をなんとか落ち着ける。そうだ。あの御方が現れたからにはいじめなければならぬ。いじめない選択肢は既に拒否されている。

「ごめんね。これからガイア連合の内輪の話をするから席を外してもらっていいかな？」

うっかり知りすぎると大変なことになるからさ」

ああ、いじめをしなくていいように配慮してもらっている。あの御方も冷たい視線だが引き止める気はないようだ。

失礼にならないように振る舞いながら席を離れる。そのまま自室へと帰る。唯一心を穏やかにできる場所、俺に残された聖域だ。

布団に倒れ込みたい誘惑をねじ伏せ、机に向かう。コルクボードにあの御方の写真や付箋、メモを貼り付けてある。ウェブイングと呼ばれる思考整理法で刑事が捜査などで使う方法だ。

次のいじめについて考えなければならぬ。同じいじめかたを繰り返すだけではあの御方に飽きられてしまう。あの御方の興味を失うということはこの地域の霊能守護を失うことを意味する。

更にはあの御方がどこまでのいじめを受け入れるかの境界を探らなければならぬ。言うなれば龍へのマッサージだ。ある程度の強さが必要だが逆鱗に触れた瞬間に俺は殺される。

いや、俺が殺されるだけならば許容できる。だが「ガイア連合の黒

札から見放された家」に対して他の組織がどう動くか。ガイア連合へのご機嫌取りに潰しにかかる。そうでなくともできるだけ距離をとろうとするだろう。

そしてもうひとつ。「あなたが私をいじめろ」という言葉には「あなた以外がいじめろ」ことを含めていない。いじめに便乗して他の生徒がいじめに参加するなどとなったらどうなるか。

いじめつつ他の生徒の動きを牽制しなければならない。このいじめには俺の命と地域がかかっている。

ふと写真の彼女と目が合う。美しいと感じる。もし霊能などとは無関係な形で出会っていたら、ただの高校生同士でならばどんな高校生生活になっていただろう。

「見た？ 見た？ 格好いいでしょ彼。生真面目なんだけどそれだけじゃなくてね。」

いやーイナバニキから見てもイイ男でしょ？ でしょでしょ？
いやほんとゴメンね。彼に白髪鬼ネキのこの姿はまだ早いんだ。

「うん。しばらくぶりだけどこれならいい答えが聞けそうだね？

進捗はどうですか？」

クネクネと不思議な踊りをしていた白髪鬼ネキの動きがピタリと止まる。ギギギとブリキのおもちやのように動きが硬くなり、深く頭を下げる。

「なんのっ！ 成果もっ！ ありませんでした!!」

だろうねえ。知ってた。

白髪鬼ネキはガイア連合内でもかなりの武闘派だ。視線や声に魔力を通す事得意としているスピードアタッカーだ。

『雄叫び』をあげれば敵の攻撃力を下げ、視線によって石化させる『ペトラアイズ』を操り視線そのものに魔力を通すことで目からビームを放つ。身体に魔力を通しながら闘う感覚系能力の天才だ。

感覚で使う能力は知識と技術による能力に比べて暴発しやすい。能力に目覚めたばかりの初心者や精神の安定性に欠ける子どもがポルターガイスト現象を起こしてしまうことなんかは有名だろう。大

人になり精神が安定し能力を使い慣れれば暴発を起こすこともなくなる。

だが、そこに例外も存在する。

例えば、惚れた相手の前で赤面してしまう時に能力の制御力が落ちてしまう。普通はそうならないが白髪鬼ネキは感覚派すぎるのだ。

一目惚れした相手と触れ合いたいが赤面した瞬間に殺してしまいかねない哀しいモンスターである。恋する乙女の熱視線（物理）である人のドキドキが止まっちゃう♥ ひどい話だ。

いじめられることによって意識をずらさなければ殺してしまう。そんな状況にしても彼に近付きたいという恋心がすごい。

彼に慣れれば少しは制御できるようになるかと思いきやダメダメな状態である。

「そんな白髪鬼ネキにお手紙が来ております。

まずはシヨタオジから。

『おかげで自分に自信を持つてました。断る時の文句に使っていいですか？』

シヨタオジに恋愛ごとでマウントとられるとか恥ずかしくないの？」

「ぐうの音も出ねえ……」

orzの体勢で粛々と聞く白髪鬼ネキ。シヨタオジの数少ない弱点より下とか……。

「続いて医療ニキからです。

『早く告白しないと恋愛に興味ありませんよって顔をした人に突然横から持つてかれるよっ。』

いじめさせるだけで婚約とかしないから……」

「そうなたらカップルを見守る観葉植物になるから……。三日三晩泣き喚いて八つ当たりであちこちの異界を潰しまわって気持ち切り替えるから……」

どうかなー。何かあるたびに勝手にダメージ受けてそんな気がする。

「金メツキネキ1号2号からね。

『#白髪鬼ネキは現地民に恋をしている #私たちは現地民を愛でている

そこになんの違いもありやしないんご』

「違うのだ！ ……違うの？」

うーん。向こうは女同士だけど、友愛と恋愛の境界とか判断に困るからね。

押し倒されたときに受け入れるかどうか？

「彼に押し倒されたらかー、……………彼だったものが周囲にぶち撒けられた！」

目を閉じて妄想した瞬間に妄想の中で恐ろしいことになったらしい。現実じゃなくて良かったね。

「えー、最後に性欲魔神ネキから。」

『彼に性的ないじめをうけたらどうなるのか。気になります！！！！』

ホントに自分の欲に忠実な人だよこの人」

「ちゃんと対策は考えてあるよ。」

えー、ここに反魂香があります」

うっかり殺っちゃっても大丈夫って？ 彼は1レベル未満、最近流行りのDレベルでも2だからうまく蘇生できるかわからないよ？

「最初にこうして」

指を自分の頭に突き入れるジェスチャーをする白髪鬼ネキ。

「終わった後に蘇生してくれば万事解決じゃない？」

青少年の心に大きな傷を作るんじゃないやありません。いくら性欲魔神ネキでもドン引くよ……引くよね？ たぶん。

恋愛かー。そういや悪魔のイナバシロウサギが復活したから縁結びの権能を使えるようになったけど使う？ 何故かみんなに断られてるけど。

「縁結びとかできるの？ やってやって」

よーし。ペルソナから悪魔の方にアクセスしてっど。

まあ逸話の通りだと最終的に結ばれるけど男が兄弟にぶち殺されたりしてるけど、些細なことだよね？

『偽・螺旋の蛇』!!』

うわっ、危ないじゃないか白髪鬼ネキ。何をするんだ。

「ぶち殺されるってどういうこと？」

権能の元となった逸話でオオクニヌシはイナバシロウサギから予言を受けるが、先にヤカミヒメにふられていた兄たちによって謀殺されるのだ。その後生き返って兄弟で仁義なき殺し合いをしまくり、国を統一するものの最終的にアマテラスにいいところ取りされる。ちなみに妻が他にもいたりする。

まあ完全に逸話を再現する訳では無いから運が悪いといくらかなぞるかも知ってくらいで害があると決まったわけでは……。

「やめなさい」

はい。いや縁結びとしては縁起悪いと思うんだけどね。なんでこのイナバシロウサギは縁結びの神になったんだろ。

「そーいや白髪鬼ネキの家族ってこの家への居候をどう考えてるの？」

「ん、パパは心配で反対してたけど、ママは『きっちり捕らえてきなさい』ってさ。どうしたの突然」

いや？ ちゃんと白髪鬼ネキとは関係のない話って言ったから彼が何か勘違いしてもボクは悪くないよねってだけの話だよ。

開催！晩殻島ナワバリバトルシテイ！

「ハーイ、視線こっち向けて〜。いいよー、ハイ超光速の名を背負って〜」

「あ、ヌオー反射板の角度……うんありがとう」

せっかく離れ島に来たのだから記念撮影を、とモルモットニキと話していたのがいつの間にか海を背景にタキオンの撮影会である。他のメンツの野郎2人、サメ人間型式神、巨大オオサンショウウオ型式神ではあまりにも華がなかった。ちなみにヌオーはモルモットニキの戦闘用式神であり、普段は山梨の修行用異界に遠征している。

設営や機材チェックなどをしている他のメンバーにちよつかいをかけにいくのはさすがによろしくない。モルモットニキと共に白衣の勝負服姿のタキオンを撮っていると港に真っ黒な客船が到着する。ようやく来たか。

客船『エスポワール』から続々と人が降りてくる。その全てがガイア連合において黒札と呼ばれる者たちとその特別製式神だ。

「なんだい今日はやけに式神を連れた黒札が多いが……」

「へっ、通行人はどいてたほうがいいぜ」

「今日この島は戦場になるんだからよ！」

打てば響く反応でネタが返ってくる。うむ、これぞ黒札よ。

目印の手旗を掲げながら離島の小中一貫校へと案内する。校庭には運動会のごとくブルーシートの上にパイプ椅子が並んでいる。離島で唯一の学校であり規模は小さい。

異彩を放つのは大量に設置されたモニターだろう。もちろんガイア連合が持ち込んだ物だ。モニターに今回の司会の姿が映る。

「えー、本日もお日柄よく……などといった真つ当な挨拶は『俺ら』は誰も望んでいないので開催宣言をもって挨拶の代わりとさせていただきます。」

それでは、ただいまより、リアルナワバリバトル交流会を開催いたします!!」

ウオオオと叫ぶ者、パチパチと手を叩く者、振り上げた手が隣人に

当たりペコペコ頭を下げる者とバラバラな反応を見せながらボクたちの祭りは始まった。

始まりはこの晩殻島ばんからとうをある吸血鬼が支配しようとしたところからだ。少年少女のグループが吸血鬼の魔の手に気付いて島から脱出してガイア連合の支部に駆け込む冒険キャンペインがあつたらしいが詳しくは省く。

通報を受けて木刀侍ニキがマシユマロラブニキと組んで現場急行。そのまま吸血鬼を殴り倒して滅する。

その際に「我は不滅。いずれ黄泉返ってみせるわ」的な捨てゼリフを吐きながら消滅したらしい。

吸血鬼という悪魔はとてモカスタマイズ性の高い悪魔である。一般的な吸血鬼のイメージは『カーミラ』や『ドラキュラ』といった貴族的な悪魔ヴァンパイアだろうが、悪魔に襲われた被害者が同じ悪魔へと変化して増えるという意味ではゾンビやキョンシーも同種である。

また能力も弱点も登場する話によつて細かく別れる。大まかな能力は共通していても吸血による繁殖の即効性や弱点とされる十字架や流水、日光がどの程度有効なのかすら定まっていないうアバウト極まる悪魔なのが吸血鬼である。ぶつちやけ登場作品の設定によるのか言いようがない。

そんな吸血鬼の特徴として不死性がある。これも単に再生能力がバカ高いだけ、身体を霧に変えて攻撃を無効化、一定の手順を踏まなければ後日復活するといったバリエーションに富んでいる。なので確実に殲滅しようとするなら捕獲して隅々まで調べてからがいいだろう。今回の件で木刀侍ニキが吸血鬼捕獲装置モンスターボールの作成を提案していたので今後吸血鬼が出たら使われるものだと思われる。

さて、そんな復活宣言を受けたガイア連合は緊急で高レベル黒札を招集。高レベル覚醒者による広域霊水散布による儀式を行うことを決定した。

【2日後】リアルにナワバリバトルしようぜ【Lv10以上限定】

急な招集に対してある者は友人に仕事を頼み押し付け、ある者は手早く担当

していた異界の悪魔を殲滅した。

ルールとしては4つの4人チームに指定の区画内で支給した装備で塗り合ってもらい、タイムアップ時に最も多くの面積を塗っていたチームが勝利となる。審判用のシキガミのジャツジくんもスタンバってる。その他のルールとしてはインクシューターと水風船^{ボム}以外による直接攻撃や島の器物破損、高レベル者に装備されたりミッターの無断解放がペナルティ対象である。

ちなみに使用者の魔力に反応して色が変わる霊水は黒札用装備やシキガミ用に開発された塗料技術である。要は「フォームチェンジ時に色を変えたい」だとか「必殺技の使用時に金色に光りたい」という要望に応えるために開発されたものだ。

これによつて色が混じり合うことなく上書きでき、最後に運営から命令を送信すれば透明になるので後片付けの心配がなくなった。目に入っても安心という安全素材でございませうことよ。

島の住民は全員ガイア連合の病院に送られている。支配中に吸血された影響などを検査するので、今日1日島まるごと貸し切り状態である。けして私利私欲のためだけではない。ホントダヨ？

「さて、何か作戦はある？」

チームメンバーのゴリ押し孔明ニキに話を振る。珍しく長考し、返答が来る。

「機動性の高いイナバニキと高機動型ザックニキが他のチームをかく乱。他のメンバーで接敵を避けつつ塗っていく形が好ましいだろう」「へー、意外。正面突破しかありませんまい、とか言いそうだったのに」高機動型ザックニキがからかうように混じる。まともな策が出てきたことにボクも驚いている。

「ふん。普段はスペックで勝っているなら奇計や奇策よりも正面突破の方が効率的というだけだ。正面戦闘能力で圧倒できないならば他の手を使うとも」

ほうほう。

「接敵後は各自高度な柔軟性を維持しつつ臨機応変に対応するように」

「うーんゴリ押し孔明ニキの名に恥じない作戦。もうそろそろスタートだから位置についてー」

はい。

魔力カタパルトの上に立つ。朝からせつせと準備したステージギミックで、シューターで起動させるとバネのように反発力を生み出し乗ってる人を打ち出す移動用装置だ。ちなみに着地は自力。

「風力、温度、湿度、一気に確認」

「撃ち方よーし」

「アユーレデュー?」

うんっ。

別に使わなくてもボクは飛べるが、せつかく準備したものを体験しなくてどうする。ジャッジくんが試合開始の鐘を鳴らす。同時にセブンスロードニキがカタパルトを打ち、ボクを射出する。

「イナバニキ、射出!」

イイイイヤツホオオオオウ!!

どこぞのプロのような叫び声をあげつつ水平飛行する。自力で飛ぶのとはまた違った楽しさがあるねコレ。

打ち出された勢いのままペルソナを使い自分を概念存在と同一化することで速度を維持して飛行する。制限された速度とはいえ普段と違うことはいいい刺激になる。むっ、第一黒札発見^{むらびと}。タダチニ攻撃シ^{アイサツ}タマエ!

水風船^{ホムム}を適当にいくつか投げつけ、インクシューターをフルオートにしながら急降下する。こーんにーちわー!!

「上からくるぞ気をつけろ!」

「エリックニキ上だ!」

「メデューク!!」

すれ違つたら長居は無用。スタコラサツサだぜえ。

速度をそのままに飛んでいくと背後から射撃の気配。

さつき遭遇したチームのガークアフェイクニキが家屋をバルクーベルの要領で飛び越えながら追いついてくる。さすがにある程度レベルがある相手はこの程度の障害物は問題にならないか。

だが高度を上げてある程度の距離ができれば制限されたスピードでも弾速の遅いインクを避けることなど朝飯前よ。怪鳥ガーグアフェイクのかぶりもの相手では視線を読めないが見てから回避余裕でした。

ふはははは

「ほうほう。つまりこうだな。『ザン』」

うおっ！ ガーグアフェイクニキが撃ち出したインクに衝撃魔法を当てて無理矢理インクの軌道を変更してくる。プレイヤーへの直接攻撃は禁止されているがこれなら問題なしだ。さすがに目の前で軌道変えられると制限された速度では避け辛いで。

ヘルプヘルプ。こんな時は回避の鬼ことニュータイプネキの教えを思い出すんだ。

えーとたしか「当たる弾だけ避けながら接近して攻撃すれば良いか？」ダメだ参考にならない。同じ回避型でもニュータイプネキはセンサー系感知力タイプ、ボクはブースター系機動力タイプとタイプが違う。向こうもボクの話に宇宙猫顔で首を傾げてたし。

よし待つんだガーグアフェイクニキまずは話し合おうお互い文明人同士話し合いで解決するところから始めようと思うんだボクたちにはきつとまだ交渉の余地があるはずだなにか不幸な誤解があるのかもしれないインクシューターなんて置いて平和に話し合うことこそボクらには必要なことだと思っただ隙ありっジョークジョークよしお互いにいちにのさんで撃つのをやめようじゃないかワンツーワンツースリーフォーうおっ危なっ。

「ええいべらべら喋りながらも避けやがる」

当たって落ちるのは嫌だからね。少しでも集中力を削げるならやり得でしょ。ほら、向こう見てごらん。緊急脱出ベイルアウトの光だ。規定数インクを当てられたり違反をすると発動する結界内限定転移術式なんだけどよく再現してるでしょ？

遺失文化保管課に頼んでシヨタオジにワートリ9巻まで贈ってもらった甲斐があるってもんよ。

あ、後ろ後ろ！ 後ろから攻撃きてるよ。

バッタのごとくガーグアフェイクニキが横っ跳びして背後から撃たれたインクを回避する。腕に1発かすめるだけで済んだ。

「おいおいそりや無いだろ。よく敵の言うこと信じるなあ。妬けるぜ」

背後からの奇襲を回避されたブルーローズニキがボヤク。

ガーグアフェイクニキにも人を信じる心があるからさ。なあガーグアフェイクニキ！

「信じたと言うか、

イナバニキの場合『ああ、ボクはホントの事を伝えたのに。ガーグアフェイクニキが人を信じる心を忘れたばかりにこんなことによよよ』と煽る方が好みかなと思ってな」

「言いそう言いそう」

ガーグアフェイクニキにも人を信じる心があるからさ。なあガーグアフェイクニキ!!

「そもそも直前まで俺の接近に気付かせないように挑発しといて注意するんだからタチが悪い」

「さて、3勢力のお見合い状態か」

ではあとは若いおふたりで……うおっ、ふたりして撃つなよ当たったらどうすんだまったく。

とはいえ膠着状態はよろしくない。隙をうかがうボクらに別方向からのインクが飛んでくる。

「フツ、どうやら華麗なる僕の出番のようだね」

「その声、エリックニキか！」

ガーグアフェイクニキのチームメイトの加勢か。厄介な。

「否っ、我が名はマスク・ド・オウガ！」

おいチーム内でかぶりもの枠が被ってんぞ。

【おおっとここで現れた謎の男マスク・ド・オウガ！ ジャツジくんは反応……しない！ ゲーム続行です！】

【いやーなかなか混沌としてきましたね。マスク・ド・オウガ、いったい何者なんでしょう。消えたエリックニキの安否も気になるところ

です」

「なんとか勝てたあ……うわっなにに!?!」

【狙撃ができないシューターで不利と言われたぼっち・ぎ・ろつくおんニキ。機動力の不利を覆しまさかの高機動型ザックニキに完封勝利!】

しかし高機動型ザックニキが陽動で投げていた水風船ポムが直撃してまさかの一発緊急脱出ベイルアウトです」

【完全に不運でしたね。投げた本人もまだ気づいていませんよ。殺意なき流れ弾は恐いですねえ】

「うりやりやりやりやりや!!」

【おっとこれは見事なグミ打ち! グラジタバハムートニキ、大量の魔法攻撃ですがコレはアウトか?!】

【いえ、精密な魔力操作で当たる直前に魔法同士をかち合わせてますねコレは。ぶっちゃけ派手な目眩ましです】

「リミッター解除! い・く・ぞおおおお!!」

【おおっとこれはいけません! いけませんよバンダインニキ。かつこよく言っても反則です!】

【その場のノリって恐いですねえ。バンダインニキぼつしゅーととなります】

「友よ! 今が駆けるとき!」

【おお、その声は我が友山月記ニキではないか!?!】

【デモニカドラゴンニキと山月記ニキ、奇跡の融合! これがナワバリバトルの最終進化型なのかあー!?!】

【なんだかんだで最終戦ですからね。】

乗っただけ合体とか思ったやつ、年齢の数だけスクワットな】

「久しぶりだなイナバニキ」

えっほえっほとスクワットをしつつ中継を観戦していると声がかかる。おお、ツナマヨニキ元気だった? ツナマヨニキは普段山梨支部に籠こももっている修行勢だから会わない時はホント会わないよね。

これは修行勢が山梨支部内で基本的に完結してるので武器密輸課

に仕事を頼まないことが理由だ。けして有力なペルソナ使いが迂闊にうろつくと妖怪タルタロス攫さらいに出会うとかそんな理由ではない。ちなみに今回のイベントは水をかけあう関係上面倒くさい事になりそうなので男性黒札限定（観戦のシキガミ除く）イベントである。

そろそろ最終戦も終わりだからツナマヨニキも準備したほうが良いよ。シューターのカートリッジ交換しときな。

「？ 最終戦なんだろう？」

いいからいいから。

ツナマヨニキが交換したところで最終戦のタイムアップの鐘が鳴る。そしてモニターにノイズが走り、謎の映像が流れ始める。

「ハツハツハツ、我々はブラックタキオンズ！ 君たちの戦いによって生じた闇エネルギーはいただいたよ。返してほしくば我々を倒してみるがいい！」

くっ、謎のウマミミ娘。いったい誰オンなんだ。宣言と同時に心地から天に向かってタワーがガシヨンガシヨンと生えてくる。あれ実はシキガミ技術の応用でできた簡易要塞である。

「おおっとなんとということだあつ！ このままでは謎の科学者によって我々のエネルギーを利用されてしまうっ！」

「これはまずいですね。くっ、僕たちにエネルギーの流れを塗り替える方法があればっ！」

実況、解説による白々しいチュートリアル。他の黒札たちも「まあ知ってたよ」という顔で動き始める。交流戦と違ってシキガミも参加できるので自分のシキガミと合流するのを優先しているようだ。

「イナバニキは知っていたのか？」

うん、もちろん。祭りという枠組みで試合という形式をとるとしても負の感情マグネタイトは出る。遊びであつても負ければ悔しいしハメられればいらつきもするのが人間だからね。

霊水で広域を清めて吸血鬼を蒸し殺すにしても負の感情のこもったマグネタイトがあれば利用されるかもしれない。だから先に悪役を配置して倒させることでデウス・エクスマキナで済ませるわけだ。

モルモットニキ以外にも鋼の腕ニキや医療ニキあたりもボス役をやりがつてたから大変だったんだぞ。最終的に「タキオンなのが悪の科学者役を志願しないとか逆にイメ損では？」という強引な手で押し切ったんだが。

で、どうする？ コンビ組んで挑む？ 援護ならするよ。

「いや、まずは仲間たちと合流する」

あら残念。

「アイツが俺の姿を見て硬直した瞬間に全弾叩き込んだから、まずは機嫌取りからだな」

そういうところあるよねツナマヨニキ。瞬間の判断自体は間違っていないけど後々に禍根を残しがちな選択をする男である。

「あの放送を聞くと『お前がやればいいのでは？』という気もするがな」

まあ、あの解説なら一人で解決できるのは否定しないけどさ。ちなみに実況：スライムニキ、解説：シヨタオジである。

ツナマヨニキと別れ、ボクはどうするかなと迷っていると放送に異変が起こる。

「デトロ！ 開けロイト警察だ!! 緊急事態につき神主を緊急招集する！」

「いくら神主本体でも分身式神3人に勝てるわけ無いだろ！」

「バカ野郎勝つぞ僕は！」

「バカめ、この場で暴れば放送席は無事でもスライムニキは粉々だ!!」

「ちくしよう、考えたな！」

「……………えー、失礼しました。急用で解説さんが離席いたしました。今後は実況ひとりでの放送となります。

もし解説に自信ニキ、もしくは生配信などの経験者ニキなどがおりましたら是非放送席へ。お待ちしております」

『トラポート』

いるさつ、ここにひとりな！

「ビューッ、見ろよやつこのペルソナを……………まるでウサギみてえだ！

こいつはやるかもしれねえ……」

その後、シキガミメカの妨害を数の暴力で押し潰しつつタワーを塗り替え、エネルギーの供給を絶たれたブラックタキオンズが繰り出したUFO型タキオンロボを集中砲火で爆散させたのであった。

あつ、モルモットニキ。どこに行つてたんだい？

「すまないねえ。ちよつとトイレに行こうとして道に迷つてしまったよ」

おいおい。モルモットニキがいない間こっちは大変だったんだぞ。

お互いに白々しくワツハツハと笑い飛ばす。お約束つて大事だよ
ね。

「で、何を話し合つてるんだ？」

せつかくだから記念写真でも撮ろうかって話になつただけど、シヨタオジが早退してしまつたからね。ハブるのは可哀想じゃんという意見と修学旅行の集合写真欠席者風にするとおいしい立場じゃんという意見で割れてる。

「間違いなく超越者で大物な人なんだけど妙なところで等身大だからなあ。ネタとして笑つて受け取るか拗ねるかが読めんな」

その両立もありえるからねえ。下手すりや特製シキガミ造りボイコットするとなるとネタにも振り切れんのよ。

「ふむ、つまりはシヨタオジひとり写らないのが問題なんだろう？」

スライムニキとイナバニキも外れて『我々が実況解説しました』という枠で後撮りすれば疎外感も減るのでは？」

よし、その線で行くか。ならばスライムニキと共に撮影側に回ろう。撮影はまかせろー、バリバリ。

「やめて」

妊娠は女の子だけの特権じゃねえぜ

「ボクもね？　こういうのは本意じゃないし好きじゃないと思ってるよ」

後ろ手で動きを制限され正座の上に重りを2つ乗せた女のまわりをゆっくりと歩く。

「ほら、お互いに誤解を解いてなかなかおりしようじゃないか。良くないことをしたらごめんないして許しあう。子どもの頃はよくやったる？」

正座の辛さか顔を赤らめ荒い息をつく姿は人によつては扇情的にうつるだろう。この場においては何の意味もないことだが。

彼女は首を左右に振り宣言する。

「イナバニキには……、竿役ゴブリンとしての、才能があるっ!!」

「ええいまだ言うか。もう1羽追加してやる」

ポンと出した一抱えほどのサイズのウサギを膝の上に追加。さらに周囲で好きに動いていたウサギたちに足を突つつかせる。野郎どもやっちまえー！

「ちよ、もう足が痺れて限界……ぬわーっ!!」

「まったく。ヒドイ目にありました」

足を崩した性欲魔神ネキがウサギをあやしながらボヤク。後ろ手に引つかかっていたウサギを落としてしまったので抗議されているところだ。

「せっかくのウサギメンタル、年中発情期の性の象徴と言っても過言ではないウサギのペルソナを持つてるんだから機会があればスカウトするのは当然じゃないですか」

年中発情期という意味では人間も同じだからね？

被捕食者のウサギの社会は食べられるのと同様以上の早さで増えればいいじゃないという命の大量生産大量消費社会である。食物連鎖（獣編）の底辺に君臨する以上出産タイミングより生産速度こそ求められる。その辺をあやかったバニーガールのように性欲を前面に

出す姿もウサギの1面と言えるだろう。

でも善良な武器密輸業者にそんなイメージが付くのはよろしくない。受け取り主が安心して受け取れないじゃないか。

「そこまで嫌がられちゃしようがないですね。」

ところでイナバニキのペルソナが普通のウサギの大きさになつた上に数が増えているのはどんな事態です?」

部屋のあちこちを好きに動き回るウサギたちを見渡して性欲魔神ネキが尋ねてくる。

MAGを注ぎ込めば巨大化したんだから逆に減らせば小型化省エネ形態になるのは当然のことでしょう?

それと心が増えればペルソナの数も増えるのはなんの不思議もないでしょ。ああ、分裂症とかの意味ではなくてね。

どんなに楽しい趣味でも熱中してる自分とそれを冷めた目で見る自分がいる。恋人といつて恋しさとせつなさど心強さが一人の心に収まってるなんてのはなんの不思議もない普通のことだ。

人の心が同時に複数の感情を出力できるんだからそれに外皮ガワを被せれば出来上がりつてね。幸い今のイナバシロウサギは色々なウサギの逸話を習合してるからウサギとしての外皮は余ってるんだ。たまには外に出して虫干ししないとね。

「ほうほう。む、大変ですイナバニキ!」

この仔こメスです!」

他人の心の股間を何だと思ってるんだこの人は!

そもそも人の心にオスもメスも同居してるのは当然のことである。ペルソナシリーズで言えば1のリリム、3のアリスが男主人公から出てくるのがわかりやすいか。

げしげしとウサギに蹴られる嬉しそうな性欲魔神ネキはブレないなあ。

「性欲魔神ネキ! 少し相談したいことがある!」

おやブルーローズニキ。性欲魔神ネキに会いに来るなんて珍しいね。

「ああ、イナバニキもいたのか。ちょうどいいから意見を聞きたい。

単刀直入に言おう。

男型シキガミに女性器を付けたらそれは男か？ 女か？ それともふたなりか？」

ふむ。性欲魔神ネキと顔を合わせてから答える。

「両性具有でしようね」

両性具有かなあ。

その答えにブルーローズニキは肩を落とすとこちらに礼を言い、どこかに電話をかける。漏れ聞こえる話からすると特製シキガミのボディ作製をキャンセルしたようだ。ガツツリとキャンセル料をとられている気配がする。

ブルーローズニキは前世において女性ストーカーに拉致監禁殺害というフルコースの被害を受けている。そのためか性的嗜好は優しくしてくれる少年系だ。ガイア連合においては同性愛など特に気にするほどの物ではない。

「これでしばらくはモヤシカレー生活だわ。お詫びに持っていく品つて何かある？」

「丁度ここに配達されたばかりのステキな栄養ドリンクがありますよ」

そうだね。1週間ほどサルになっても大丈夫な栄養ドリンクだね。

まあそれはそれとして。

少年型シキガミに女性器つけて子どもを孕めるようにしようとしたけど解釈違いで中止つてところ？」

「だいたいあつてる。男同士かつシキガミ相手だと難しいって聞いてなあ」

性欲魔神ネキとアイコンタクト。じゃくんけくんポンツ ボクの勝ち。明日までになんて負けたか考えといてください。

「突然じゃんけんしてどうした」

いや、丁度2つの説明だから順番兼内容の分担をね。

さて、まずは男同士で子どもをつくれるかを担当するね。

じつは人間同士ならともかく、神あくまにとっては男が子どもを出産す

るといふのは特別なことでは無いんだ。性別が曖昧とかの意味ではなくてね。

例えば日本神話における三貴子は男神であるイザナギが産んだよね。左眼からアマテラス、右眼からツクヨミ、鼻からスサノオが産まれたとされてる。他にもゼウスの額からアテナが産まれたなんてのもある。

最高神以外でもヒノカグツチの血や遺体から産まれた神というのも見方によってはヒノカグツチという男神が子どもを産んだと解釈できるわけだ。

うん、ここまでは神の話だ。では人間の場合は？

絵、マンガ、小説なんかを作者が産んだ子というのは間違っていないよ。ギリシャ神話では自分の生み出した彫像に恋をして彫像を人間にしてもらった職人の話なんかもそうだね。男が誰かを産むというのは字面に反してそんなに珍しいことではないんだよね。それが物理的な子どもじゃないだけで。

これらの話を基に術式を組み立てれば男が子どもを産む魔術くらいならできるね。今の環境だと通すのが大変だからルールが物質から概念よりになる終末後が前提の話だけだ。

何でこの術式が研究されてないかって？ そりゃ大抵の場合は片方が一時的に性転換するほうがよっぽどお手軽だからだよ。

では私が分担する話、シキガミとの子づくりについて話しますね。まずはシキガミとの子が生まれない理由についてです。勘違いされやすいんですが、悪魔と人間の子だから生まれにくいというわけではないんですよ。

ギリシャ辺りなら神と人のハーフなんてのは神話上いくらでも居ましたし、現代の感覚でもゴブリンに孕まされた冒険者はイメージしやすいですよ？

シキガミが子を孕めないのはシキガミという人工悪魔の『人間の道具』としての属性が強いからなんです。人間の普遍的無意識がそのイメージを持っているんですね。

今イナバニキの左右にいる一反木綿型シキガミ『スタンドくん』と特別製シキガミ『ジューズマン』、シキガミと言われてどちらをイメー
ジしますかって話なんです。

これは黒札がどうこうというレベルではなくて人間の無意識による多数決だと思ってください。ブルーローズニキも掲示板で知るま
ではシキガミと聞いたら陰陽師の道具だったでしょう？

時代を経てドラゴンカーセックスが一般性癖になったように、
ヒューマノイドが搾精して人工授精するのが一般的になるまで科学
が進歩していればシキガミちゃんが妊娠するのも可能だったでし
うね。

とはいえこれは現在のルールの話。終末後なら法則が曖昧になっ
て魔術で干渉する余地も出てくるでしょうね。

「つまり……どういう事だつてばよ」

男が妊娠するのもシキガミが妊娠するのも現段階では難しいけど、
終末後ならなんとかなるよ。

「よし。終末を待ちながら費用を貯めればいいんだな」

「それ以前に今キャンセルしたから特別製シキガミの順番待ちが相当
後回しになりませんか？」

「ちつくししょうめー！」

その後、メシア教過激派が世界を終末に導くべく世界中に打ち込ん
だミサイルはガイア連合たちによって一部不発となり、世界は半終末
と呼ばれる状況になった。

「ち・く・しよおおおおおっ!!!」

終末突入を防いでそんなに悔しがるのはメシア教過激派とブルー
ローズニキくらいだよたぶん。

本土防衛作戦鑑賞会

正体隠しの霊装を起動する。今回は一応ガイア連合山梨支部から直々に降りてきた依頼である。時間を確認し、『トラポート』によって転移する。

「お迎えにありがとうございました」

相手はガイア連合の幹部の霊視ニキである。筋肉隆々の大男であり、その隣には特製シキガミたるモーさんが鎧姿で待機している。

「ほう、イナバニキか」

正体隠しの霊装ゴシにこちらの正体を暴くとは。さすがは霊視ニキ。やりおるのう。

「重心の移動、発声の癖、周囲を観察する視線の動き。その全てがイナバニキだと語っているとも」

「いや、そんな枝葉末節よりもまわりにデカイ証拠が2つも並んでんだろ！」

まわり？ 見渡してみても何の変哲もないサメ男型シキガミのジョーズマンとごく普通の人間大ウサギ型ペルソナのイナバシロウサギしか居ないが。

「ジョーズマンは特殊とはいえシキガミだから偽物を作ること不可能じゃない。判断基準にするには危険だぜ相棒」

この世には同じ顔が3人はいるって言うし、同じシキガミも何体かいてもおかしくないでしょ。同じように似た精神ペルソナの持ち主も3人くらいはいるんじゃないかな？

「ウサギ野郎と同じメンタルが3人もいたら世界が減びるわ」

そんな。ボクが世界破滅なんて楽しそうなことに手を出すって思ってるんですかモーさん！

「そうだぞ相棒。イナバニキが面白全部以外の動機で世界を滅ぼそうとするわけ無いだろ」

「言葉の端々に本音が出てんだよなあ」

この世界だと本当に世界が減びる瀬戸際なんだけどね。

それはそれとしてお仕事の時間じゃい。『トラポート』するから準

備ができたなら声をかけてくれ。

アメリカのメシア教から穏健派と言われる一派が日本（というかガイア連合）に亡命してきた。

メシア教関係者のロックによれば

『派閥争いに疲れて左遷先で地元組織とスローライフしてたら派閥上の上司が転がり込んできた。居座られても迷惑だからとつとと帰りたい。』

過激派と対消滅とまでは言わないまでも向こう何十年かくらいこつちに干渉できないくらい勝手に殴り合っていてほしい』というのがメシア教日本支部の見解とのことだ。

メシア教穏健派が日本へ来たということはつまりメシア教過激派の抑えがいなくなった事を意味する。

具体的に言えば情報のリークと占術によってメシア教過激派が天使召喚プログラム付きのICBMを世界中に打ち込むつもりだということが判明した。

発射を未然に防ぐ事はできる。だがガイア連合はミサイル発射自体は打たせる事にした。原因は天使召喚プログラムの存在である。

天使召喚プログラムとは悪魔召喚プログラムを一部制限した物である。穏健派の手によってガイア連合に悪魔召喚プログラムが渡ってから技術部が研究した結果、悪魔召喚プログラムには対終末用の性質がありそうだという事がわかってきた。要はだいたいの機械はこの悪魔召喚プログラムを仕込めば終末後も動きそうだということだ。

これまで終末対策に研究を重ねていた技術部はこの性質を知った時にブチ切れ、かんしゃく癩癩を起こした姿を動画に撮られてクソMADの素材となっている。

つまり発射を未然に防いだ場合、終末後も使えるICBMがメシア教の手の内に大量に残るということだ。さすがにそれは困るということだ。『打たせて取る作戦』が今回採用された。

霊視ニキを防衛作戦本部へと届けたあと、ついでなので防衛作戦鑑賞ルームへと足を運ぶ。今回はこれまでコツコツ準備してきた外様

の神々や多神連合を傭兵として盾にする作戦の実現ということで記録も兼ねて観戦できるように部屋を確保してある。

わざわざ霊視ニキを呼んだのも万が一の時のリーダー役と今回の作戦実行後の問題点の洗い出しのためだ。

「15年ぶりだな」

「ああ」「間違いない」「使徒だ」

冬月役1人にゲンドウ役3人はバランス悪くない？

「冬月役でできる奴がいらないからしゃーない」

「よく見ろ。テレビ版、シン版、シエーバーのCM版とちゃんと違ってるぞ」

全部同じじゃないですか。

「全然違うー！」「よく見ろ！」「ちくわ大明神」

誰だ今の。

ICBMを迎撃する自衛隊の姿に興奮するミリオタニキや箱推しニキに挨拶しながら自作のうちわを振る不死鳥推しネキと合流する。やあやあ久しぶり。

「あ、イナバニキ。お久しぶりです」

ずいぶんと気合入ってるね。ハチマキにハッピとは。

「フェニックス様の晴れ姿ですからね。たまたま出会った推し活師匠の教えを活かす時です！」

誰だよ推し活師匠。

ふむふむ。聞く限りだとそれは金メッキネキたちの友だちっぽい。

交友関係が増えるのは良いことだ。

「今フェニックス様と天使が戦ってるところですね」

『燃やして?』『復活して?』と書かれたうちわで画面に映ったフェニックスを応援する不死鳥推しネキ。

正確に言えば戦場の一部で天使とフェニックスが戦っているだけで、多種多様な戦神が天使とバトってる状況なんだけど、不死鳥推しネキにはフェニックスしか興味がないらしい。阿修羅が腕を振って『竜巻』を放ったりオーデインが『斬鉄剣』で接近戦を挑んだり濃い戦場なんだがね。

ちなみに流石に本体が戦っているわけではなく、高レベル対応の式神を媒体に分身を憑依させて戦わせている。一種のVRゲーム感覚で式神を動かしてるイメージだ。落とされても式神蘇生班が蘇生、修復する事で再出撃できるようになるわけだ。

今回の防衛作戦においてフェニックス、というかエジプト神話陣営からひとつの提案があった。今回の作戦における最悪の事態についての話だ。

最悪の事態というのは防衛失敗のことではない。海外の神々がどれだけ失敗したとしても日本の神々でリカバリーできるし、なんならシヨタオジ1人でお釣りが出る。高レベルの黒札が頑張ればシヨタオジを温存してもなんとかなる。

本当の最悪の事態は傭兵として雇った神々の中にこれが『交渉の一種』だと勘違いする神が出てくることだ。人間との取引に慣れていない神が瀬戸際外交を始めてガイア連合からの信用を無くしてしまうことこそが最悪である。

ガイア連合としてはせっかく準備してきた傭兵が安心して使えないとなると防衛戦力として使いにくく、海外の神々はガイア連合からの支援が打ち切られる危険性が出てくる。

ガイア連合に全賭けしているエジプト神話としてはこれだけは絶対に避けたい。よって働きを渋る者が出たならその出撃ローテをフェニックスに振ってほしいと持ちかけたのだ。

ガイア連合の方針はどこぞの採集決戦のごとく報酬をガンガン積むことでやる気を出させる方向性だ。良い作戦ではあるが、実際に美味しい思いをしたりその体験談を聞いたりしなければその報酬の美味しさを実感できない欠点もある。採集決戦と呼ばれたFGOの終局特異点のレイドも、実際に始まるまでは誰も報酬の奪い合いになるとは思っていなかったのである。始まったら人類悪と化したが。

他の神話からヘイトを受けているエジプト神話。そいつら報酬を荒稼ぎしている姿を見れば、もし勘違いした神が出てても他の神話が同調する余地がないわけだ。単独犯ならキツめのお仕置きで済む。

この提案を実行できるだけの神格にフェニックスを押し上げるた

めに少々無茶もしたが、必要経費というやつだろう。合法的に有名神を同意を持って弄いじくり回せる機会はそうそう無いから技術部がはりきった結果だ。妻子を人質に取られてショッカーの改造手術に怯えながら志願するサラリーマンみたいな表情をしていたけど、上手く行ったからヨシッ！ 一応不死鳥推しネキにはナイシヨの話である。「フェニックス様ががんばれ〜！」

画面ではボロボロになった不死鳥が最期にひときわ大きな炎を纏って突撃する場面である。おお、あの技は！

「化学忍法 火の鳥」「カイザーフェニックス」「鳳凰天駆」「フアントムフェニックス」「ゴッドバードアタック」「ストラヴィンスキー作曲『火の鳥』」「ゴッド・フェニックス」「マグナブレイズ」「絢爛魔界日輪城」

いや多い多い。燃える鳥が突撃する技ってアニメマンガゲームで使いやすいんだなあ。

「実際のところは？」

たぶん『バイナルストライク』か『自爆』の亜種かな？